

在日ムスリム調査

関東大都市圏調査

第一次報告書

2006年8月

早稲田大学人間科学学術院

アジア社会論研究室

序

本報告書は、日本学術振興会科学研究費助成による調査研究「関東大都市圏における在日ムスリムの社会的ネットワークと適応に関する調査研究」の成果の一部として刊行するものであり、2005年11月から2006年6月にかけて実施した調査の結果報告である。この調査研究全体では、関東大都市圏に居住するイスラム教徒（ムスリム）を対象とする日本国内における社会的ネットワークと適応に関する研究に加えて、国内と在外のムスリムとのネットワークについても研究を行う計画であるが、本報告書では、まず日本における質問紙を使用した調査の結果を報告する。

本研究全体は、2005年度から2006年度までの2カ年間計画で進行中であり、第1年度は在日ムスリムの意識調査と、全国に散らばるモスク（イスラム教寺院）やハラールショップなどについての実態調査をおこなった。この報告書は前者の意識調査について発表するものである。第2年度は、マレーシアにあるALEPS（東方政策日本留学生同窓会）などのメンバーを対象として、日本と外国との「ムスリム・ネットワーク」をとらえることを企画しており、本年度末にはこれらの調査研究を総括して成果を提出予定である。ただし、第1年度の調査のうち、意識調査が完了したのは2006年6月と大幅にずれ込んだため、第2年度の調査は、2006年11月に実施予定である。

さて本報告書は、意識調査についての第一次報告として、回答していただいた方々に調査結果の全体像をわかりやすく伝えることを目的として、まず日本語で作成したものであり、単純集計と滞在年数別や出身地域別などのクロス集計結果を中心として記述することとした。

今回の調査にあたっては、在日ムスリムの対象者の方々、各地域のモスク管理者の方々など多くの人たちから多大なご協力をいただいた。また、調査票の翻訳については東京外国語大学教授林佳世子先生にご配慮いただき、各言語を母語とする翻訳者にご協力をいただいた。改めてご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げる次第である。

2006年8月

早稲田大学人間科学学術院 店田 廣文

付記：本報告書に対するご意見、ご感想など、是非お寄せください。

〒359-1192 所沢市三ヶ島2-579-15 早稲田大学 店田 廣文

ファクス： 04-2947-6807

電子メール： htanada@waseda.jp

調査結果の概要

日本社会におけるイスラム教徒（ムスリム）の人たちの暮らしぶりが話題になることは決して多くはない。1990年前後、上野や原宿に休日になると集まって情報交換をするイラン人労働者のことが報じられたことが目立つくらいであろうか。とはいえ現在では9万人前後のムスリムの人たちが日本のあちこちで生活しており、海外の出来事と関連づけて取り上げられることも増加している。しかし、それらは日常の暮らしぶりを伝えるようなものではない。本調査は、あまり語られることのなかった日常生活の部分に焦点をあてて、日本に暮らす外国籍のムスリムの人たちの姿をとらえようとするものである。2005年に人口減少プロセスに入った日本社会では、少子高齢社会をめぐる論議の一つとして外国人労働者の受け入れをめぐる問題が取り上げられることが多い。東南アジア諸国とのFTA（自由貿易協定）などの交渉において労働者受け入れが論点の一つとなったことも記憶に新しいところであるが、今回の調査対象である在日ムスリムの人たちも、これらの問題と無縁ではなく、日本社会との関わり方の重要な側面として彼らの雇用状況も取り上げている。今回の調査は、わが国におけるほぼ初めての在日ムスリムの生活意識に関する社会調査として、有効回収票を多くすることを考慮しつつ、生活全般の状況を出来る限り取り上げるように設計した。その意図が十分に実現できたとは到底言えないが、以下の各章で報告されている「在日ムスリム調査」の結果概要をここでは要点を絞って提示する。

今回の調査結果の分析に取り上げた有効回収数は、149票である。調査そのものは、調査票を使用した配票調査であり自記式（回答者自らが記入する方式）を採用した。調査期間は、2005年11月から2006年6月までであり、主な調査員は研究室所属の大学院生であり関与した院生数は5名と僅かである。その他、助手や学部生など数名が調査に協力した。

なお実際に回収した総数は、198票であるが、次のような理由から49票を除外している。ひとつは、女性のイスラム教徒が回答した7票、もう一つは合計で42票あるムスリム学生の回答票である。前者については、今回は男性のみを対象とする調査として進めたので、本報告からは除外した。後者については、在日ムスリムの多い大学在籍者や留学生協会を通じて実施し回収した調査票であり、モスクを拠点として配票し回収した調査票（今回の報告書で分析した調査票）と異なる方法を採用したこととなるため、今回の報告からは除外した。

今回の回答者は全員が男性ムスリムであり、回答者の平均年齢は32.2歳であった。回答者の80%以上が、20代、30代であるが、最年少は19歳、最年長は67歳である。既婚者がおよそ3分の2を占め、その3割が日本人を配偶者としていた。出身国は、インドネシアが最も多く、あわせて20ヶ国になった。地域別には、東南アジア、インド亜大陸、西アジア・アフリカの順に多かった。滞在年数を見ると、2年未満が27.5%、2～5年未満が30.9%、5～10年未満が12.8%、10年以上が21.5%となった。5年未満が半数以上であるが、10年以上も2割を超え、滞在年数の長短を含む回

答者であった。日本での家族構成をみると、単身世帯がおよそ4分の1を占めており、夫婦のみを含め夫婦と子どもからなる核家族がほぼ半分程度であった。三世同居のタイプはせいぜい2%であり、そのほかは多様な世帯構成が目につく結果となった。

ついで、母国での状況をみよう。家族構成は核家族に相当するタイプが35%、三世以上のタイプが27%で両方で過半を占めたが、その他の親族世帯も35%をしめるなど、多様な家族構成が窺えた。母国での職業は、専門職・管理職（被雇用者）が3分の1と最も多く、ついで学生、自営業となった。これを反映してか、学歴は大学・大学院卒とする者が3分の2以上であった。来日した理由をたずねてみると、研究・勉強、出張・海外赴任、研修の順となり、単純に仕事を求めてとするような理由は少なかった。

一方、日本での仕事をはじめとする生活状況はどのようなであろうか。学生が約3分の1を占めることをふまえ、専門職・管理職が29%、現業・工場労働が17%、自営業11%となった。現在の仕事の紹介者は、友人が30%と最も多く、自ら直接訪ねたり（16%）、自ら起業したなどが相対的に多かった。収入の使用目的として最も多い回答は、生活費（64%）であり、その他の回答も娯楽費用、家や車を買う、事業資金など、自分の生活を中心に支出するとするものであり、仕送り（31%）という回答は決して多くない。現在の住宅は、民間や公共の賃貸住宅が3分の2近くをしめ、社宅や寮が合わせて約2割で、持ち家の比率はおよそ14%であった。最後に、日本滞在中にしたいことをまとめてみる（複数回答）。これによると、およそ半数は勉強して専門能力を身につけることを希望している。以下の回答項目は30%に届かないが、それぞれ順に、生活を楽しみたい、お金を稼ぎたい、良い仕事を見つけないと続いている。子どもの才能を伸ばすという回答も17%ほどあった。日本での生活への期待が窺われる回答結果であった。

それでは来日して以降、イスラーム信仰について変化があるだろうか。信仰心が強くなった、すこし強くなったとする回答が半数を超え、変わらないという回答を合わせると、9割近い数字である。それでは日常的にイスラーム規範をどの程度遵守していると考えているだろうか。非常に厳密、まあまあ厳密に遵守しているとの回答が8割近く、日本での生活も従来のムスリムとしての生活と変わっていないということであろう。滞在年数や出身地域によって、この割合は異なっているが、今回の調査結果で断言できるほどの偏差ではない。普段の生活で、母国語の新聞の利用度をたずねると、3分の1は読んでいないと回答しており、情報接触が少ない層も多数存在する。食べることに主に関わるハラールショップやハラールレストラン（イスラーム規範に則った材料などを販売・使用）は、利用していない層が1~2割に上っており、相対的にレストラン利用は少なかった。次いで、モスクや礼拝所での礼拝参加についてまとめてみた。調査自体がモスクなどを通じて依頼したこともあり、ほとんどが参加しているとの回答であった。そして70%は、週1回以上参加しているとのことであり、いわゆる「金曜礼拝（イスラームの休日における集団礼拝）」にはかなりの人が定期的に参加していると考えられる。イスラーム関係の講演や勉強会への参加はどうであろうか。3割くらいの人は参加していないが、6割近くの人は頻度はマチマチであるが参加していると回答している。さらに布教活動へ

の参加についてもたずねてみた。これも3分の1強の人は参加していないが、およそ半数の人が参加しているとの回答であった。以上のように、イスラーム信仰については、日本での生活においてもあまり変化していない傾向がうかがえた。

最後の章では、日本での暮らしぶりを実態と意識の両面から取り上げている。まず日本語能力を聞いてみると、「とても出来る」と「出来る」をあわせ、出来るという人が、「聞く・話す」では50%以上、「読み」では40%、「書く」でも3分の1ほどであった。したがって日本語能力はまあまあ高いという印象である。日本人の友人の数も、「10人以上」という回答が半数近くを占めてもっとも多かった。同国人やムスリムの友人になると、「10人以上」という回答がいずれも7割近くとなり、いずれにしても友人数は、全体としてみても決して少なくはない。次いで、種々の領域における生活満足度を聞いてみた。仕事、居住、家族、医療、経済状況、日本人とのつきあいに関しては、「非常に満足」と「どちらかといえば満足」をあわせれば7割から8割程度の満足を示し、同国人やムスリムとつきあいについては9割近い満足度を示していた。それでは悩みや不安はどうであろうか。日常的な「食べ物」や「言葉が通じない」について悩みがあるが、居住や働くことに関しての不安は少ないようである。最後に生活の総合的な満足度を聞くと、上記の領域別の結果からも予想されるように、4分の3の回答者は満足であるとの回答であった。そして、日本での生活への適応度も高いという結果となった。

以上、全体の調査結果から項目を取捨選択しながら、全体の概要を記述してみた。詳しい調査結果については、以下の各章ごとの報告に直接当たっていただきたい。なお、今後は、国際的な視点から改めて、再度報告を行う予定である。今後とも、早稲田大学人間科学学術院アジア社会論研究室が実施する調査研究へのご協力を切にお願いする次第である。

目次

序.....	2
調査結果の概要.....	3
目次.....	6
第1章 調査プロセスと課題.....	8
「在日ムスリム調査」実施の背景.....	8
先行調査.....	9
調査企画準備.....	9
調査実施と課題.....	10
第2章 回答していただいた方々.....	11
回答者の年齢 (Q1).....	11
回答者の出身国 (Q2).....	12
回答者の婚姻の有無 (Q3).....	14
配偶者の国籍 (Q3SQ1).....	15
初来日年 (Q4).....	15
回答者の月収 (Q28).....	16
滞在年数 (Q29).....	17
わが国における家族 (Q6).....	18
第3章 来日前一母国での生活.....	20
母国の家族 (Q5).....	20
母国での職業 (Q23).....	21
最終学歴 (Q24).....	23
来日理由 (Q25).....	24
来日時の斡旋業者の利用 (Q26).....	25
来日費用の調達先 (Q27).....	26
第4章 日本で働く・学ぶ・住まう.....	29
現在の職業 (Q7).....	29
雇用形態 (Q8).....	30
現在の仕事の紹介者 (Q9).....	32
職場の従業員数 (Q10).....	33
収入の使用目的 (Q11).....	35
住宅形態 (Q12).....	36
住居の紹介者 (Q13).....	37

日本滞在中にしたいこと (Q14)	39
第5章 信仰生活	41
信仰心の変化 (Q18)	41
イスラーム規範の遵守 (Q19)	42
母国語の新聞 (Q20①)	44
ハラールショップの利用 (Q20②)	45
ハラールレストランの利用 (Q20③)	46
モスクや礼拝所での礼拝 (Q20④)	48
イスラーム関係の講演会・勉強会への参加 (Q20⑤)	49
布教活動(タブリーグなど)への参加 (Q20⑥)	50
第6章 日本で暮らすということ	53
日本語能力「聞く・話す」(Q15①)	53
日本語能力「読み」(Q15②)	54
日本語能力「書き」(Q15③)	55
日本人の友人数 (Q16①)	56
同国人の友人数 (Q16②)	57
ムスリムの友人数 (Q16③)	58
仕事満足度 (Q17①)	59
居住満足度 (Q17②)	60
家族満足度 (Q17③)	61
医療満足度 (Q17④)	61
経済状況満足度 (Q17⑤)	62
日本人との付き合い満足度 (Q17⑥)	63
同国人との付き合い満足度 (Q17⑦)	65
ムスリムとの付き合い満足度 (Q17⑧)	66
現在の悩みや心配事 (Q21)	67
総合的な生活満足度 (Q22)	68
日本の生活への適応度 (Q31)	69
資料：日本語および英語調査票	71
執筆者一覧 (2006年8月現在)	83

第1章 調査プロセスと課題

「在日ムスリム調査」実施の背景

現在、アジア域内からの外国人入国者数の増加とともに、イスラーム諸国会議機構¹加盟国出身者をはじめとして、ムスリムの入国者数も増加傾向にある

現在は、出入国管理政策の改定などの要因により、イランやパキスタン、バングラデシュをはじめとする国々からの入国者は、一時に比べ激減しているものの、在日ムスリム人口は漸増傾向にある。また、上記の現状とリンクする形で、現在日本各地にムスリムが集うモスク²や、ハラール・ショップ³があることが確認されている。加えて、エスニックメディアなども多数活動し、雑誌や新聞などが発刊されているのが現状である。

わが国では、在日ムスリムを対象とした社会調査としては、これまでイラン人を対象とした東京大学医学部保健社会学教室による「上野の街とイラン人—摩擦と共生—」（1992年）および、筑波大学社会学研究室『在日イラン人—景気後退下における生活と就労』（1994年）が在日ムスリムに対する社会調査として実施されてきた。

しかしこれらの調査は、1990年代前半という、外国人労働者の「問題」が顕在化した時期にあつて、日本に流入した外国人の、ひとつの類型としてイスラーム諸国出身者を対象としたものであり、在日のイスラーム教徒に焦点を当てた包括的調査とは言いがたい。

一方、ニューカマー外国人である、中国人、日系ブラジル人に対する量的調査としては、学術研究として、奥田道大・田嶋淳子編『池袋のアジア系外国人』（1991年）をはじめ、小内透・酒井恵真編『日系ブラジル人の定住化と地域社会』（2001年）など、数多く出版されている。

また、自治体による外国人住民意識調査は、『千葉市在住外国人意識調査報告書』（1999年）、『神奈川県在住外国人意識調査報告書』（1985年）、『浜松市における外国人の生活実態・意識調査—日系ブラジル・ペルー人を中心に』（1992年）、『広島市外国人市民生活・意識実態調査結果』（2002年）などをはじめ、多数の報告書が刊行されている。

したがって、在日外国人に関する調査研究が稀少であるとは言えない状況であるが、こと在日ムスリムに関しては、上記調査のほかにインタビュー調査によるものが散見される程度であり、決して多くない。

この背景には、在日ムスリムの外国人人口に占める割合の量的な少なさがあるが、世界人口の20%近くがムスリムである現実、更には、先に述べたようなムスリム・コミュニティが各地に形成されつつあるという現状を鑑みるならば、日本社会の枠内の事情だけにとらわれて調査研究の少なさを正当化すべきではないと考えられた。こうしたことを踏まえ、早稲田大学人間科学研究科アジア社会論研究室は「在日ムスリム調査」を企画した。

¹ Organization of Islamic conference

² イスラーム寺院

³ イスラーム法に則った食材や日用品が販売される店舗

先行調査

今回の調査研究のプロトタイプとなる調査は、2004年度の後期から開始している。もともと本調査は、2004年5月から準備が行われ、他の研究機関の財政的支援のもとに行われる予定であったが、日本国内におけるいわゆる「イスラーム原理主義活動家」の滞在が判明したことなどが報道されて、同上機関の調査方針が転換され、一時中断した。

しかし、研究主題の重要性に鑑みて、アジア社会論研究室が通常の研究予算の範囲内で、予備的な調査を独自に実施することとした。したがって、ある程度まで進んでいた資料の収集や調査報告書の解析にもとづいて、調査企画を練り直し、調査規模を縮小して、2004年10月15日に始まったイスラームの重要な宗教行事である断食月の開始にあわせて調査を開始した。

2004年度調査ではまず、(1) 在日ムスリムの生活実態を国籍を問わず総合的に把握することを第一の目的とした。次に、イスラームが持つネットワーク性に注目し、(2) 在日ムスリムが形成する（越境する）ネットワークを明らかにする。さらに、(3) 彼らが日本社会にどのように適応しているのかを把握する、という作業から(4) 日本人社会が外国人ムスリムにどのように接してきたのかを分析し、(5) 日本人と在日ムスリムの共生にとっての必要条件を探る。以上の5つが主な調査目的として設定された。

対象者数は、100人前後を予定し、英語およびベンガル語による質問紙を使用した面接調査であった。しかし、調査票設計の問題、統計分析に足る票数が回収できなかったことなど技術的な問題をはじめ、多くの課題を残す結果となったが、2005年3月に単純集計結果のみをまとめた小冊子『Survey of Muslims living in Japan 2004』を刊行し、調査票や調査結果を次年度以降に予定された調査に引き継ぐこととした。

調査企画準備

本調査は、2004年度の先行調査で得られた課題を元に、2005年度に改めて企画されたものである。企画の直接的な契機となったのは、日本学術振興会科学研究費助成（基盤C、課題番号17530394）「関東大都市圏における在日ムスリムの社会的ネットワークと適応に関する調査研究」の採択であった。

今回の調査は在日ムスリムを対象とした面接聴き取りによる質問紙を使用した調査として企画され、(1) 在日ムスリムの総合的な生活実態の把握と、(2) 在日ムスリムの社会的ネットワークに着目しつつ、彼らの適応について把握することを目的とした。

質問項目は、2004年度の先行調査の目的・問題意識を継承しながらも、大幅に再構成がおこなわれた。その結果、具体的には、適応及び社会的ネットワークに関わる質問群をはじめ、仕事と労働環境、住居と周辺環境、日本人・日本社会との関係、その他の生活行動、総合的な生活満足度、滞日志向性などから構成した。また、ムスリムに固有と思われる宗教生活に係る質問群を設けた。先行調査との大きな違いは、項目の内容もさることながら対象者の回答のしやすさを重視したことである。少ない調査人員で回収率を向上させること、企画検討の段階で面接聴き取り方式は本調査になじまないことも明らかとなり、最終的には自記式の配票調査として設計することとした。

調査票は、国籍を問わず在日ムスリムの実態を把握する必要性から、多言語にて作成することが求められた。まず英語調査票を準備したうえで、翻訳については、東京外国語大学教授林佳世子氏にご協力を仰ぎ、英語を理解し各国語を母語とする翻訳者の方を紹介していただいた。この作業は、2005年7月頃から開始し、9月末までにはほぼ終了した。残念ながらトルコ語については適切な翻訳者があられず、最終的に、アラビア語、ペルシャ語、ウルドゥー語、ベンガル語、インドネシア語、マレー語、英語の7ヶ国語の調査票を用意した（参照用として日本語）。

調査実施と課題

わが国の外国籍を有するムスリムの人口を算出すると、およそ9.2～10.2万人との結果が得られる⁴。また、都道府県別に各国のムスリム人口を算出し、その分布状況を見ると、およそ、関東から中部海地方にかけて、人口の大規模な集中が見て取れる。

本調査は、こうした現状に鑑み、関東大都市圏、とりわけ人口の集中が見られる首都圏周辺を調査地として選定した。調査は、主に首都圏に位置するモスクにて、2005年11月から2006年6月にかけて行われた。具体的な調査地は、東京ジャーミー、八王子モスク、お花茶屋モスク、大塚モスク、バライ・インドネシア学校、海老名モスク、アラブ・イスラーム学院の計7ヶ所である。このうち6ヶ所が東京都内に位置し、海老名モスクは神奈川県に位置する。

調査の実施に際しては、事前に代表者に電話で趣旨説明と協力の要請を行った。調査票の配布については、6ヶ所のモスクでは、調査員が直接モスクを訪問し行った。残る1ヶ所は、我々がモスク内で調査を行うことが出来なかったため、郵送により調査票を送付し、配布していただいた。なお、いずれのモスクでも各対象者へ、個別の趣旨説明と協力の要請を再度行った。前述したように当初は面接調査を考えたが種々の事情で、ムスリム自身に記入してもらう自記式を採用した。

調査票の回収に関しては、配布直後に記入していただいたものについてはその場で回収し、その場で記入することが困難なものについては、再度モスクに出向いた際に回収、あるいは返送用封筒を用意し、郵送していただく形をとった。調査には結局半年以上の期間を要したこととなったが、今回の調査報告書に使用できる調査票として、最終的な有効回収票数は149票となった。なお、回答者の性別はすべて男性である。当然ながら在日ムスリム女性も存在するが、われわれの調査方法では女性と接触する機会がほとんどなく、回収数も極端に少なくなることが予想できたため、当初より今回の分析調査対象からは除外した。

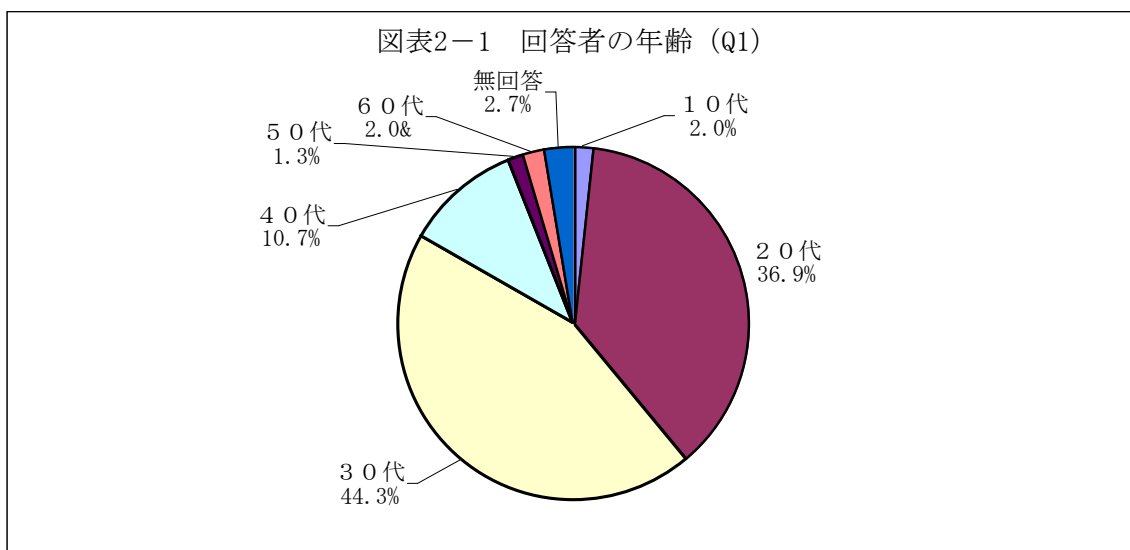
今回の調査は、アジア社会論研究室にとっても多くの課題を改めて提示することとなった。在日ムスリム自体は、全国に散らばって居住しており、その全体像をつかむのは容易ではない。今回は関東大都市圏を対象としたが、同時に実施している全国のモスクや礼拝所の調査と同じく対象地域の範囲を拡大した調査が今後の課題である。また、対象者についても、回答者にイラン人がまったくいなかったことにあらわれているように、偏りを如何に解消するかもこれからの課題となる。さらに、調査内容や調査方法についても、今回の経験をふまえ、さらに改良することが必要であり、新たな調査研究の機会をとらえて再度取り組むことにしたい。

⁴ ①正規在留のムスリムについては『在留外国人統計』に記載された国籍別登録者数に、各国別のムスリム比率の推計値を乗ずることで推計を試み、②不法残留者については、毎年法務省が公開している「本邦における不法残留者数について」に記載された値に同じ比率を乗じることで算出した。上記①と②の和が外国人ムスリムの人口推計値となり、上記の結果が得られる。

第2章 回答していただいた方々

回答者の年齢 (Q1)

本調査において、回答して頂いたのは149名である。回答者の年齢は、最年少が19歳、最年長が67歳であり、平均年齢は32.2歳で男性のみであった。図表2-1より、回答者の年齢分布は10代が2.0% (3名)、20代が36.9% (55名)、30代が44.3% (66名)、40代が10.7% (16名)、50代が1.3% (2名)、60代が2.0% (3名)であり、回答者の大半は20代から30代の若い世代で構成されている事が分かる。



また回答者の年齢分布を滞在年数で見たものが図表2-2である。回答者の大半は20代と30代であるが、これらを滞在年数で比較すると、2年未満は、20代が43.9%、30代が48.8%で、2〜5年未満は20代が37.0%、30代が52.2%、5〜10年未満は20代が57.9%、30代が26.3%、10年以上は20代が3.1%、30代が46.9%であり、滞在年数によりその比率は変化している。また10代は2年未満と5〜10年未満に、50代は2年未満と2〜5年未満に、60代は10年以上に見られた。

図表 2- 2 回答者の年齢分布 (Q1)

		回答者数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	無回答
滞在年数	2年未満	41	4.9	43.9	48.8	-	2.4	-	-
	2-5年未満	46	-	37.0	52.2	6.5	2.2	-	2.2
	5-10年未満	19	5.3	57.9	26.3	5.3	-	-	5.3
	10年以上	32	-	3.1	46.9	37.5	-	9.4	3.1
総数		149	2.0	36.9	44.3	10.7	1.3	2.0	2.7

(注：滞在年数不詳11名)

回答者の出身国 (Q2)

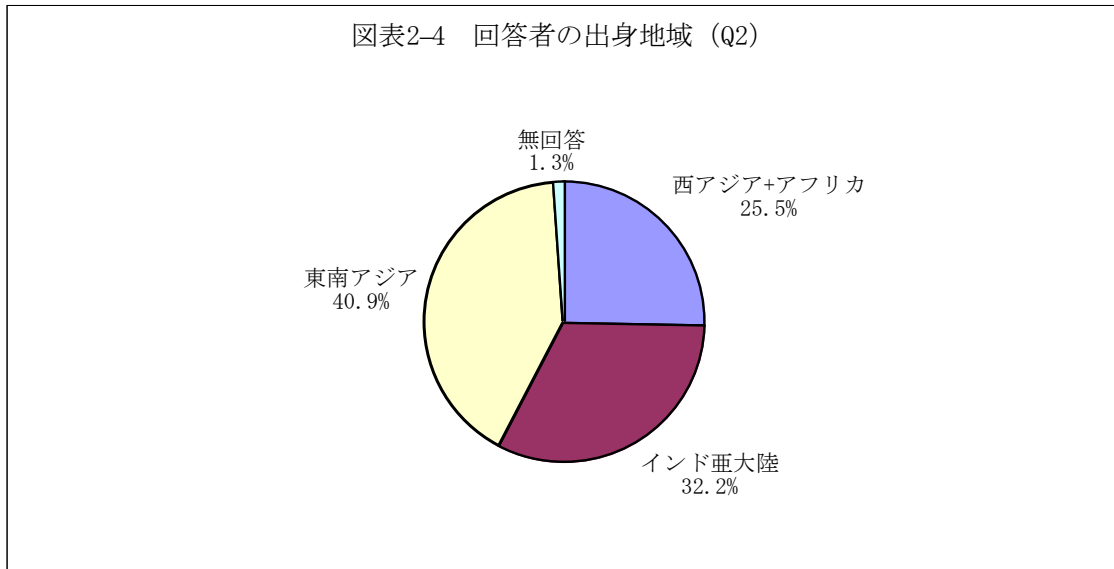
図表 2-3 のように、回答者の出身国は 20 カ国からなり、インドネシアが最も多く 35.6% (53 名)、ついでバングラデシュが 16.1% (24 名)、パキスタンが 11.4% (17 名) であった。なお、最近の日本における在日ムスリムの出身国として外国人登録者数の上位に並ぶ国々として、インドネシア、マレーシア、バングラデシュ、パキスタン、イランなどがある。

図表 2-4 では、これらの出身国を、西アジア・アフリカ、インド亜大陸、東南アジアの 3 地域に分類したところ、それぞれ 25.5% (38 名)、32.2% (48 名)、40.9% (61 名)、無回答が 1.3% (2 名) であった。

図表 2-3 回答者の出身国 (Q2)

		回答者数	%
出身国	インドネシア	53	35.6
	バングラデシュ	24	16.1
	パキスタン	17	11.4
	マレーシア	8	5.4
	トルコ	7	4.7
	セネガル	5	3.4
	エジプト	4	2.7
	スリランカ	4	2.7
	インド	3	2.0
	ガーナ	3	2.0
	スーダン	3	2.0
	モロッコ	3	2.0
	UAE	2	1.3
	アフガニスタン	2	1.3
	サウジアラビア	2	1.3
	パレスチナ	2	1.3
	新疆ウイグル自治区	2	1.3
	キルギスタン	1	0.7
	ニジェール	1	0.7
	ヨルダン	1	0.7
無回答	2	1.3	
総数		149	100

図表2-4 回答者の出身地域 (Q2)



図表 2-5 より、出身地域で見ると、西アジア・アフリカ出身者は 20 代と 30 代で 8 割を超え、40 代にも 15.8%の回答者が見られる。インド亜大陸出身者は 30 代に全体の半数近くが集中しており、また 60 代の回答者もみられる。一方で東南アジア出身者は 10 代と 50 代も確認でき、30 代が 44.3%と最も多いが、10 代と 20 代を含めた 30 代以下の占める比率は、85%である。こうした背景には、今回の回答者にしめる留学生や研修生の多さも関係するものと思われる⁵。

図表 2- 5 回答者の出身地域 (Q2)

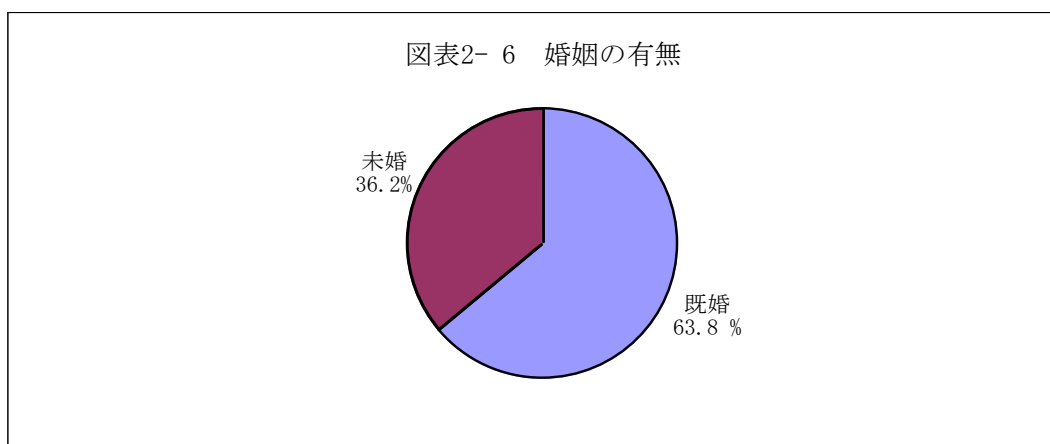
出身地域	総数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	無回答
西アジア・アフリカ	38	-	42.1	42.1	15.8	-	-	-
インド亜大陸	48	-	33.3	45.8	10.4	-	6.3	4.2
東南アジア	61	4.9	36.1	44.3	8.2	3.3	-	3.3
合計	149	2.0	36.9	44.3	10.7	1.3	2.0	2.7

(注：出身地域不詳 2 名)

⁵ 詳しくは、回答者の職業について述べている、第 4 章の Q7 を参照。

回答者の婚姻の有無(Q3)

図表 2-6 のように、回答者の婚姻の有無に関しては、63.8% (95 名) の回答者が「既婚」、36.2% (54 名) の回答者が「未婚」であった。次に、これらを滞在年数および出身地域で比較してみた。図表 2-7 に示したとおり、滞在年数が 10 年未満では、「既婚」「未婚」の割合は、ほぼ 6 対 4 である。しかし滞在年数が「10 年以上」の長期滞在者では、9 割以上が既婚者である。



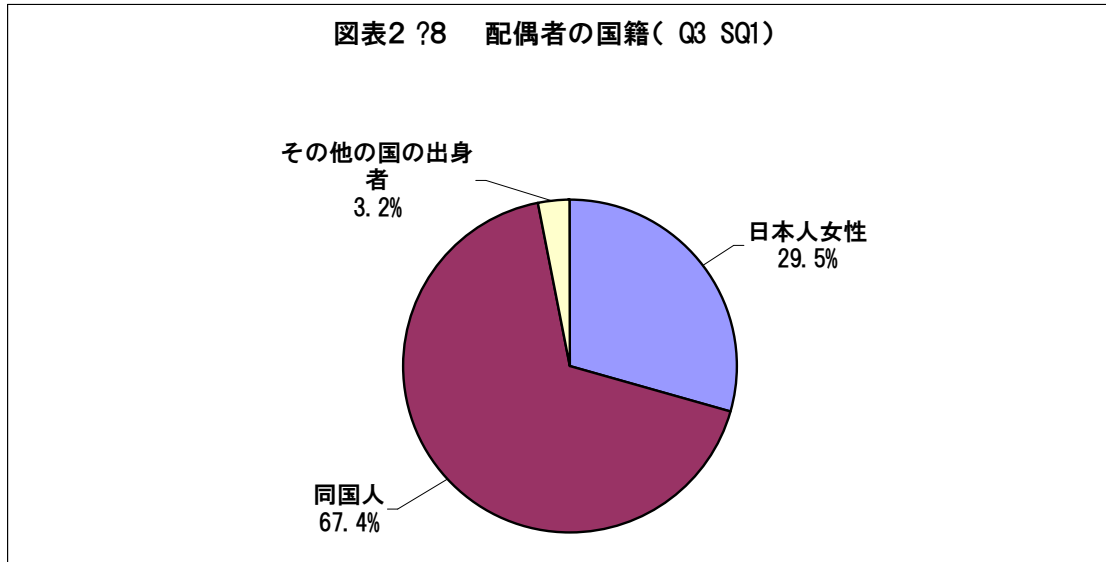
図表 2- 7 婚姻の有無 (Q3)

		回答者数	既婚	未婚
滞在年数	2 年未満	41	58.5	41.5
	2-5 年未満	46	58.7	41.3
	5-10 年未満	19	57.9	42.1
	10 年以上	32	90.6	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	60.5	39.5
	インド亜大陸	48	70.8	29.2
	東南アジア	61	59.0	41.0
総数		149	63.8	36.2

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

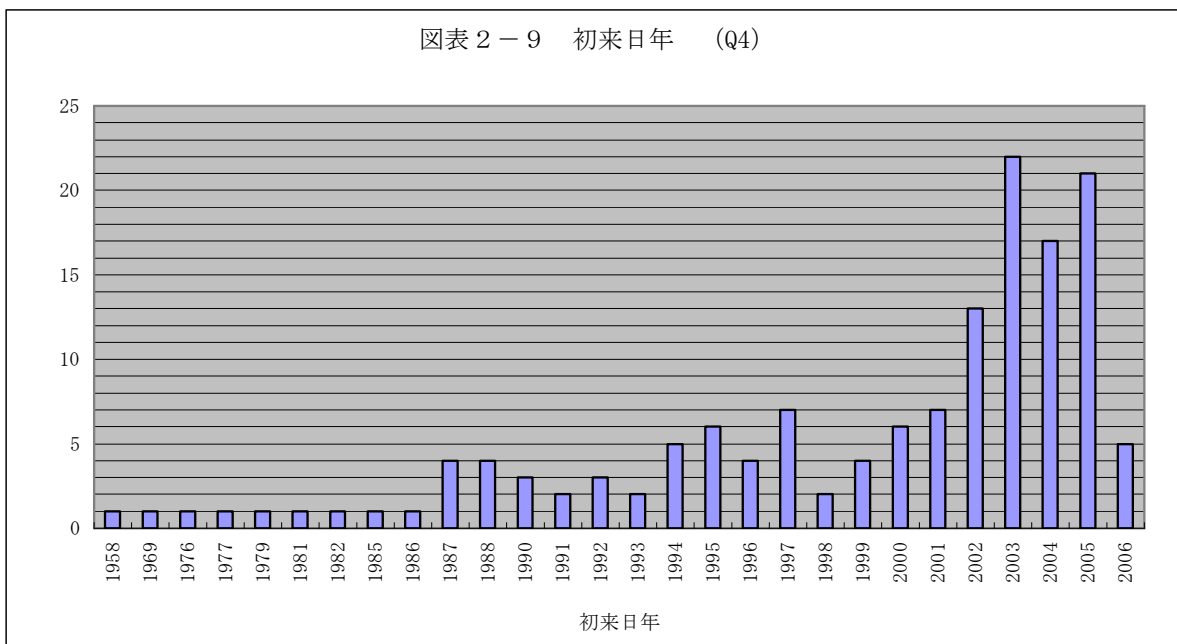
配偶者の国籍 (Q3SQ1)

次に、これら既婚者の妻の国籍を尋ねた。図表 2-8 より、既婚者の 7 割以上が日本人以外の女性と結婚している事が分かる。またその大半は回答者と同じ出身国である。一方で 3 割弱の回答者は日本人女性と結婚していることが分かる。



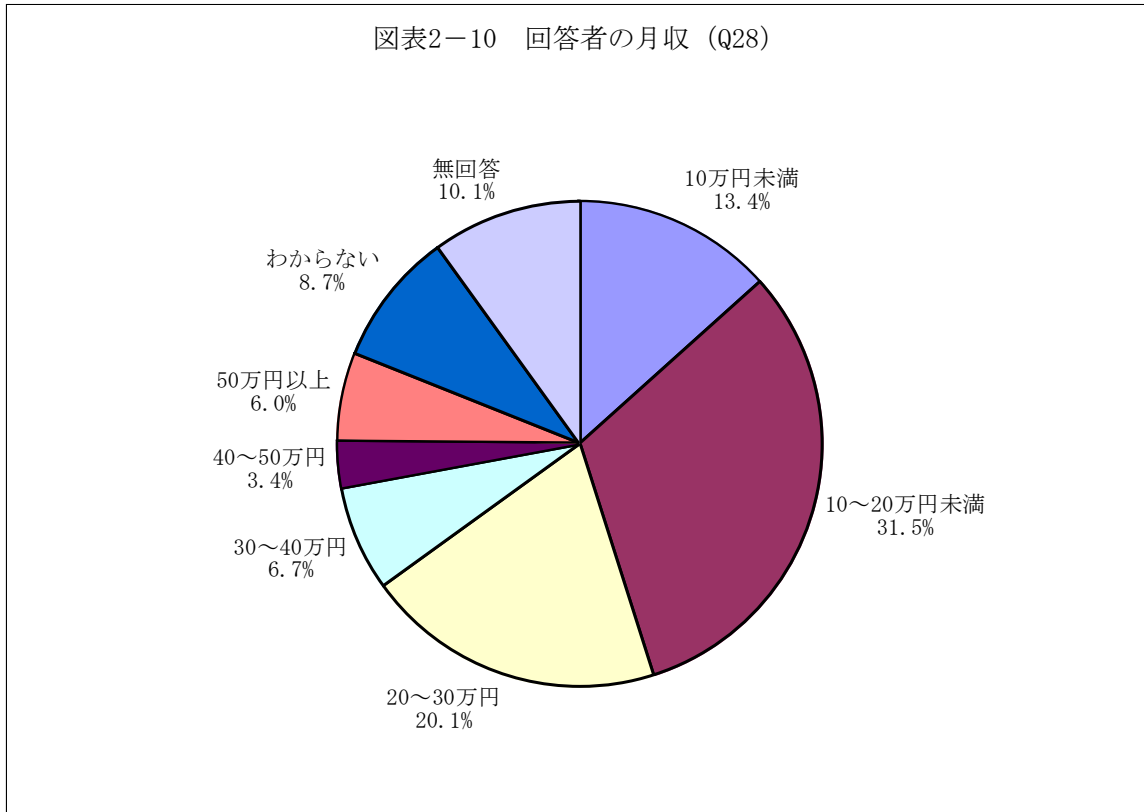
初来日年 (Q4)

図表 2-9 より、回答者の初来日年の度数を図示した。1958 年から 1986 年までは、表示された各年に 1 人ずつ来日している。しかし 1987 年から 2001 年までは、毎年 2 人から 7 人程度の間で増減を繰り返している。2002 年から 2005 年までの期間は、来日をした回答者数が急激に増加をしていることが確認される。



回答者の月収 (Q28)

ここでは回答者の月収を尋ねている。回答者全体で見ると、図表 2-10 のように、「10～20 万円未満」が最も多く、「20～30 万円未満」と合わせると全体の半数以上を占めることが分かる。一方で「10 万円未満」の回答者も 13.4%見られ、これらは留学生のアルバイトなどが該当するものと思われる⁶。



次に月収を滞在年数および出身地域で比較してみた。図表 2-11 より、滞在年数に関しては月収との間である程度の正の相関性を見つける事ができる。しかし滞在年数が 2 年未満の回答者のうち、月収が「40～50 万円」の回答者が 7.3%、また 2～5 年未満の回答者のうち「月収 50 万円以上」の回答者は 13%いることが確認出来る。5 年～10 年未満では、「10～20 万円未満」の比率が最も大きく 57.9%であるが、10 年以上では「20～30 万円未満」の比率が最も大きく、46.9%である。

また出身地域で見ると、西アジア・アフリカ出身者は「月収 50 万円以上」の回答者の占める比率が最も大きく、7.9%である。一方で 10 万円未満の回答者の比率が 3 地域中で最も少ない。

一方で東南アジア出身者は、全体のうち「10～20 万円未満」の比率が 34.4%で最も大きく、「10 万円未満」の比率も 16.4%と他の 2 地域よりも大きい。

⁶ 詳しくは、回答者の就業状態について述べている、第 4 章の Q8 を参照。

図表 2- 11 回答者の月収 (Q28)

		回答者数	10万円未満	10-20万円未満	20-30万円未満	30-40万円未満
滞在年数	2年未満	41	24.4	31.7	9.8	2.4
	2-5年未満	46	10.9	39.1	15.2	2.2
	5-10年未満	19	10.5	57.9	21.1	5.3
	10年以上	32	3.1	9.4	46.9	18.8
出身地域	西アジア・アフリカ	38	7.9	28.9	26.3	7.9
	インド亜大陸	48	14.6	27.1	25	8.3
	東南アジア	61	16.4	34.4	13.1	4.9
総数		149	13.4	31.5	20.1	6.7

		40-50万円未満	50万円以上	わからない	無回答
滞在年数	2年未満	7.3	2.4	17.1	4.9
	2-5年未満	2.2	13	6.5	10.9
	5-10年未満	—	—	5.3	—
	10年以上	3.1	6.3	6.3	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	—	7.9	13.2	7.9
	インド亜大陸	2.1	4.2	8.3	10.4
	東南アジア	6.6	6.6	6.6	11.5
総数		3.4	6	8.7	10.1

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

滞在年数 (Q29)

図表 2-12 では回答者の滞在年数を示している。これら滞在年数を以下の7つのカテゴリーに分類し、回答者の出身地域で比較した。これより、西アジア・アフリカ出身者には滞在年数が「1年未満」と短い回答者が23.7%と比較的多かった。インド亜大陸出身者は全体における15年以上の長期滞在者の占める比率が、他と比較して多く22.9%である。東南アジア出身者は3年未満の回答者数が全体の半数を超えており、特に「1-2年未満」の回答者が前2者と比較しておよそ倍で、19.7%である。一方で、滞在年数が「15年以上」の長期滞在者は著しく少なく1.6%である。

図表 2- 12 回答者の滞在年数 (Q29)

		回答者数	1年未満	1-2年未満	2-3年未満	3-5年未満
出身地域	西アジア・アフリカ	38	23.7	10.5	2.6	21.1
	インド亜大陸	48	8.3	10.4	18.8	10.4
	東南アジア	61	11.5	19.7	23	13.1
総数		149	13.4	14.1	16.1	14.8

		5-10年未満	10-15年未満	15年以上	無回答
出身地域	西アジア・アフリカ	10.5	18.4	7.9	5.3
	インド亜大陸	8.3	10.4	22.9	10.4
	東南アジア	16.4	8.2	1.6	6.6
総数		12.8	11.4	10.1	7.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

わが国における家族 (Q6)

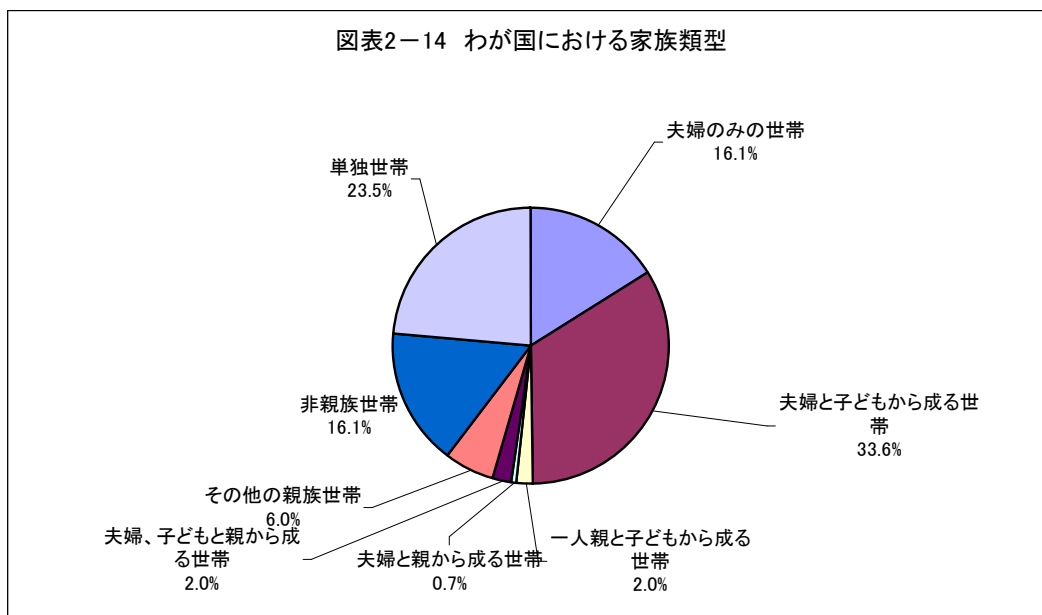
わが国における家族構成については、全体で51.0%が「配偶者」がいると回答しており、次いで「子ども」(33.6%)、「その他」(18.8%)、「兄弟」(10.1%)と続く。「その他」の具体的な回答としては、友人が挙げられる。滞在年数別には、いずれのカテゴリーにおいても「配偶者」と「子ども」は特徴的な項目となっているが、特に「10年以上」において特に顕著(それぞれ78.1%、50.0%)である。2年未満と2～5年未満では「その他」の選択率の高さが特徴的である。10年以上では「その他」は存在しない結果となった。出身地域別には、インド亜大陸では「父」(12.5%)、「母」(14.6%)、「兄弟」(20.8%)、東南アジアでは「その他」(27.9%)が特徴的な項目として挙げられる(図表2-13)。

図表 2-13 わが国における家族構成 <複数回答> (%)

		回答者数	祖父 母	父	母	配偶者	兄弟	姉妹	子ども	その他
滞在年数	2年未満	41	—	7.3	9.8	43.9	9.8	9.8	24.4	22.0
	2-5年未満	46	—	—	6.5	47.8	8.7	4.3	34.8	30.4
	5-10年未満	19	5.3	10.5	10.5	42.1	5.3	10.5	31.6	10.5
	10年以上	32	—	9.4	9.4	78.1	12.5	3.1	50.0	—
出身地域	西アジア・アフリカ	38	—	2.6	5.3	52.6	7.9	7.9	31.6	13.2
	インド亜大陸	48	2.1	12.5	14.6	47.9	20.8	8.3	27.1	12.5
	東南アジア	61	—	3.3	6.6	50.8	3.3	3.3	39.3	27.9
総数		149	0.7	6.0	8.7	51.0	10.1	6.0	33.6	18.8

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

以下の図表2-14は、在日ムスリムの、わが国における家族類型を示したものである。回答者と親族関係にある世帯員がいる親族世帯は全体の60.4%であった。「単独世帯」は23.5%。同居しているものの中に回答者と親族関係にある者がいない「非親族世帯」は、16.1%であった。具体的に見ると、「夫婦と子どもから成る世帯」(33.6%)、「単独世帯」(23.5%)、「夫婦のみの世帯」「非親族世帯」(ともに16.1%)の割合が高く、わが国における家族類型は、核家族型あるいは単身型が特徴として挙げられる。なお「非親族世帯」の世帯員について、その具体的な回答としては、友人が最も多い。



図表 2-15 は、滞在年数および出身地域と、家族類型のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別にみると、2 年未満および 2～5 年未満はほぼ同様の傾向を示しており、「夫婦+子ども」「単独世帯」「非親族世帯」の割合が高い。5～10 年未満では、「夫婦+子ども」「単独世帯」の割合が高い。10 年以上では、「単独世帯」が約 1 割にとどまり、「夫婦+子ども」に加え「夫婦のみ」の割合が高くなっている。概ね滞在年数の長期化とともに単身型は減少し、核家族型の割合が増加する傾向にある。

出身地域別に見ると、西アジア・アフリカでは「夫婦+子ども」(34.2%)、「単独世帯」(26.3%)、「夫婦のみ」(21.1%)の割合が高い。インド亜大陸では、「単独世帯」(27.1%)、「夫婦+子ども」(22.9%)の割合が高い。また、「その他の親族世帯」の割合が 14.6%と他のカテゴリと比較して著しく高い。なお、インド亜大陸出身者における「その他の親族」の具体的な回答としては、兄弟・姉妹が最も多い。東南アジアでは、「夫婦+子ども」(41.0%)、「非親族世帯」(24.6%)、「単独世帯」(19.7%)の割合が高く、とりわけ非親族世帯の割合が他のカテゴリと比較して著しく高い。

図表 2-15 わが国における家族類型 (％)

	回答者数	夫婦		一人		夫婦		その		非親族世帯	単独世帯
		夫婦のみ	+子ども	親+子ども	夫婦+親	+子ども	他の親族世帯				
滞在年数	2 年未満	41	14.6	29.3	2.4	2.4	—	2.4	19.5	29.3	
	2-5 年未満	46	13.0	28.3	2.2	—	2.2	8.7	23.9	21.7	
	5-10 年未満	19	10.5	36.8	—	—	5.3	—	10.5	36.8	
	10 年以上	32	28.1	46.9	3.1	—	3.1	9.4	—	9.4	
出身地域	西アジア・アフリカ	38	21.1	34.2	2.6	—	—	2.6	13.2	26.3	
	インド亜大陸	48	18.8	22.9	4.2	—	4.2	14.6	8.3	27.1	
	東南アジア	61	9.8	41.0	—	1.6	1.6	1.6	24.6	19.7	
総数	149	16.1	33.6	2.0	0.7	2.0	6.0	16.1	23.5		

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

第3章 来日前—母国での生活

本章では在日ムスリムが日本に来る以前の母国における生活に関し、滞在年数と出身地域から概観する。具体的には、母国における家族構成、職業、学歴、来日理由、来日時の斡旋業者の利用、来日費用の調達先に関する回答につき、滞在年数別、出身地域別にクロス集計した結果を考察する。

母国の家族 (Q5)

母国における家族構成については、全体で 80% 近くが「兄弟」「姉妹」がいると回答しており、次いで「母」77.9%、「父」65.8%となっている。もっとも少ないのは「子ども」20.1%であり、次に「配偶者」21.5%となっている。このことは特に西アジア・アフリカ出身の回答者に顕著であり、「子ども」10.5%、「配偶者」13.2%というように、その他の属性と比較してもっとも低い数値を示している（図表 3-1）。

図表 3-1 母国の家族構成 (Q5) <複数回答> (%)

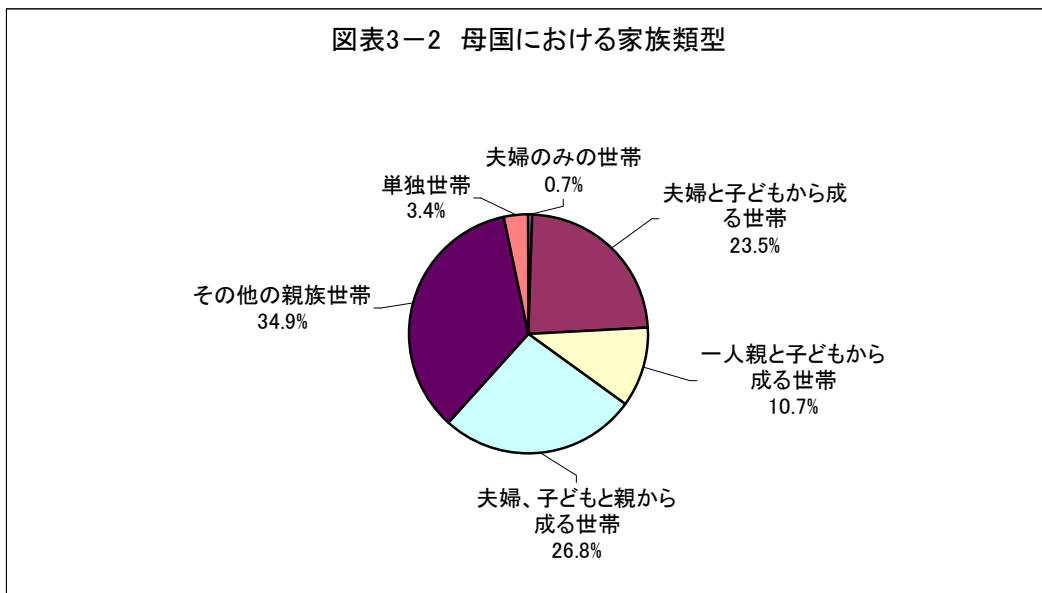
		回答者数	祖父 母	父	母	配偶者	兄弟	姉妹	子ども	その他
滞在年数	2年未満	41	41.5	80.5	80.5	19.5	82.9	78.0	14.6	12.2
	2-5年未満	46	41.3	69.6	84.8	21.7	82.6	87.0	26.1	8.7
	5-10年未満	19	42.1	73.7	73.7	21.1	78.9	78.9	26.3	-
	10年以上	32	9.4	46.9	71.9	25.0	75.0	75.0	18.8	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	38	39.5	57.9	76.3	13.2	81.6	73.7	10.5	7.9
	インド亜大陸	48	27.1	60.4	79.2	27.1	83.3	87.5	22.9	8.3
	東南アジア	61	36.1	77.0	80.3	21.3	77.0	80.3	23.0	8.2
総数		149	33.6	65.8	77.9	21.5	79.2	79.9	20.1	8.1

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

以下の図表 3-2 は、在日ムスリムの、母国における家族類型を示したものである。回答者と親族関係にある世帯員がいる親族世帯が全体の 95.9% を占めている。具体的な構成をみると、「その他の親族世帯」(34.9%)、「夫婦、子どもと親から成る世帯」(26.8%)、「夫婦と子どもから成る世帯」(23.5%) の割合が高い。「一人親と子どもから成る世帯」が 10.7% を占めているが、その多くは回答者の配偶者と子どもから成る世帯とも考えられる。今回の調査では設計上の問題から、母国の家族について正確な情報が得られたとは言えず、今後の課題として確認しておきたい。「その他の親族世帯」の具体的な形態としては、核家族型に更に兄弟姉妹が同居しているケースなどが挙げられる。わが国における家族類型（図表 2-14 参照）とは対照的に、「単独世帯」「夫婦のみ世帯」の割合が著しく低く、「非親族世帯」と回答したものはなかった。

図表 3-3 は、滞在年数および出身地域と、家族類型のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別にみると、10年未満のカテゴリーでは、「夫婦+子ども+親」の割合が約 30% であるのに対し

て、10年以上では、その割合は15%程度にとどまる。出身地域別に見ると、各地域ともほぼ同様の傾向を示しているが、西アジア・アフリカでは「夫婦+子ども+親」が31.6%と最も割合が高く、インド亜大陸、東南アジアでは「その他の親族世帯」の割合（それぞれ43.8%、36.1%）が最も高い。



図表 3-3 母国における家族類型 (%)

		回答者数	夫婦のみ	夫婦+子ども	一人親+子ども	夫婦+子ども+親	その他の親族世帯	単独世帯
滞在年数	2年未満	41	2.4	24.4	9.8	31.7	31.7	—
	2-5年未満	46	—	15.2	13.0	30.4	37.0	4.3
	5-10年未満	19	—	31.6	5.3	31.6	26.3	5.3
	10年以上	32	—	31.3	12.5	15.6	37.5	3.1
出身地域	西アジア・アフリカ	38	—	21.1	15.8	31.6	23.7	7.9
	インド亜大陸	48	—	20.8	12.5	22.9	43.8	—
	東南アジア	61	1.6	26.2	6.6	27.9	36.1	1.6
総数		149	0.7	23.5	10.7	26.8	34.9	3.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

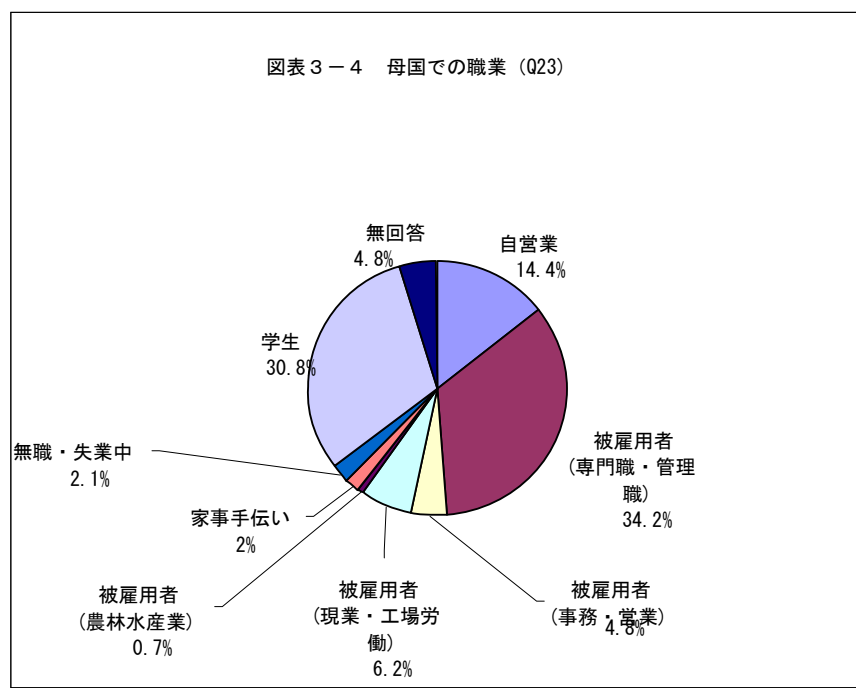
母国での職業 (Q23)

母国での職業は、「専門職・管理職」がもっとも多く34.2%、次いで「学生」30.8%、「自営業」14.4%であった(図表3-4)。

滞在年数別にみると、滞在年数5年未満では40%以上が「専門職・管理職」と回答しているが、滞在年数5~10年未満の回答者では、「学生」がもっとも多く47.4%で、ついで「専門職・管理職」、

「事務・営業」がそれぞれ15.8%と2番目に多い。滞在年数10年以上では「専門職・管理職」と「学生」がそれぞれ30.0%と並んだが、「自営業」も23.3%と相対的に高い。

出身地域別では、西アジア・アフリカで「学生」が44.7%ともっとも多く、次いで「専門職・管理職」28.9%、「自営業」15.8%であった。インド亜大陸では「専門職・管理職」がもっとも多く33.3%、次いで「自営業」24.4%、「学生」26.7%であった。東南アジアでは「専門職・管理職」が39.3%、「学生」が23.0%であったが、「現業・工場労働」が約10%を占めている（図表3-5）。



図表3-5 母国での職業 (Q23) (%)

		回答者数	自営業	被雇用者 (専門職・管理職)	被雇用者 (事務・営業)	被雇用者 (現業・工場労働)
滞在年数	2年未満	41	9.8	41.5	7.3	4.9
	2-5年未満	46	13.0	43.5	-	6.5
	5-10年未満	19	10.5	15.8	15.8	5.3
	10年以上	30	23.3	30.0	3.3	6.7
出身地域	西アジア・アフリカ	38	15.8	28.9	2.6	2.6
	インド亜大陸	45	24.4	33.3	4.4	4.4
	東南アジア	61	6.6	39.3	6.6	9.8
総数		146	14.4	34.2	4.8	6.2

		被雇用者 (農林水産業)	家事手伝い	無職・失業中	学生	無回答
滞在年数	2年未満	-	4.9	2.4	26.8	2.4
	2-5年未満	-	2.2	2.2	30.4	2.2
	5-10年未満	-	-	5.3	47.4	-
	10年以上	3.3	-	-	30.0	3.3
出身地域	西アジア・アフリカ	-	2.6	-	44.7	2.6
	インド亜大陸	2.2	-	-	26.7	4.4
	東南アジア	-	3.3	4.9	23.0	6.6
総数		0.7	2.1	2.1	30.8	4.8

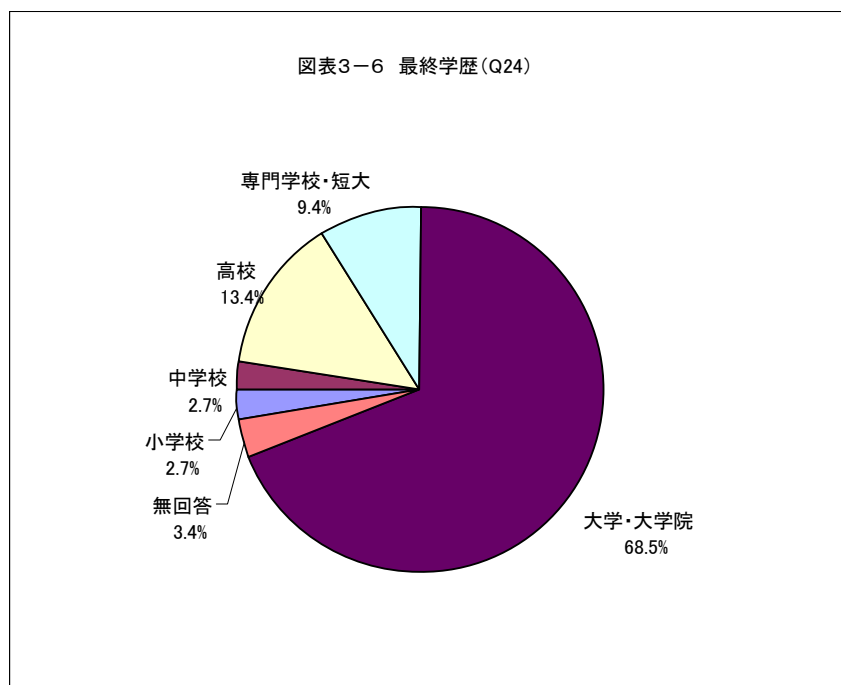
(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

最終学歴 (Q24)

最終学歴は、全体で 68.5%が「大学・大学院」卒業と回答しており、次いで「高校」13.4%、「専門学校・短大」9.4%となっており、回答者は平均的に高学歴であったといえよう（図表3-6）。

滞在年数別でみると、どの滞在年数別グループでも「大学・大学院」がもっとも多かったが、滞在年数2年未満では80%以上が「大学・大学院」と回答しており、滞在年数10年未満の回答者全体では「高校」以上の学歴を回答した者が95%を超えていた。いっぽう滞在年数10年以上では「大学・大学院」の回答者は59.4%にとどまる。

出身地域別では、どの地域でも「大学・大学院」がもっとも多かったが、西アジア・アフリカで「大学・大学院」の回答がもっとも多く81.6%、次に東南アジア67.2%、インド亜大陸58.3%となっている（図表3-7）。



図表 3-7 最終学歴

(%)

		回答者数	小学校	中学校	高校	専門学校・ 短大	大学・ 大学院	無回答
滞在年数	2年未満	41	-	4.9	9.8	2.4	82.9	-
	2-5年未満	46	2.2	2.2	17.4	13.0	65.2	-
	5-10年未満	19	-	-	21.1	5.3	73.7	-
	10年以上	32	9.4	3.1	6.3	18.8	59.4	3.1
出身地域	西アジア・アフリカ	38	5.3	-	7.9	2.6	81.6	2.6
	インド亜大陸	48	4.2	4.2	12.5	18.8	58.3	2.1
	東南アジア	61	-	3.3	18.0	6.6	67.2	4.9
総数		149	2.7	2.7	13.4	9.4	68.5	3.4

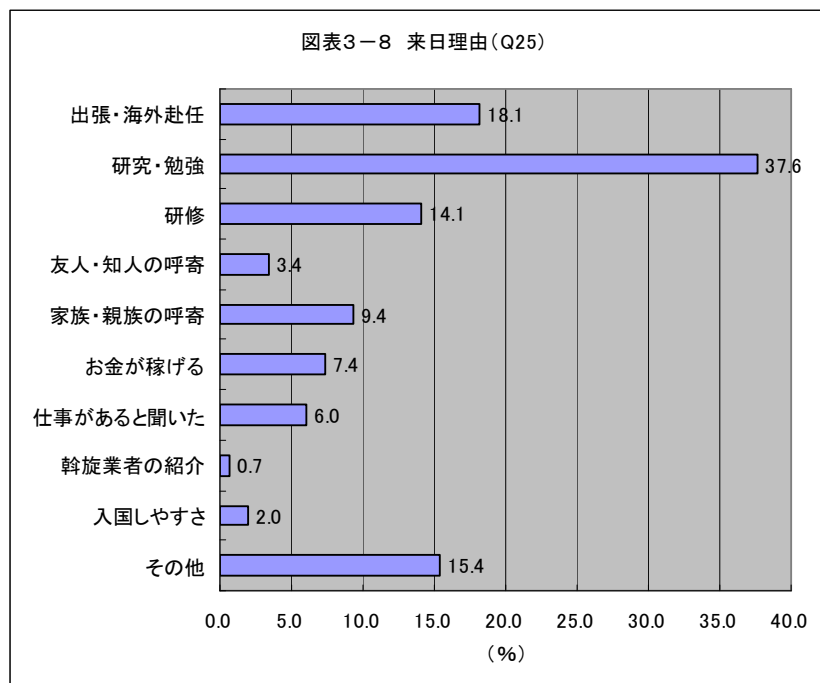
(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

来日理由 (Q25)

来日理由でもっとも多かったのは「研究・勉強」(37.6%)で、ついで「出張・海外赴任」(18.1%)、「研修」(14.1%)となっている(図表3-8)。

滞在年数別でも、すべての滞在年数グループで「研究・勉強」がトップを占めているが、滞在年数2年未満では「研修」(24.2%)、「家族・親族の呼寄せ」(17.1%)が続く。滞在年数5~10年未満では「出張・海外赴任」と「家族・親族の呼寄せ」が15.8%で同率であった。

出身地域別でも、すべての地域で「研究・勉強」がもっとも多い回答であったが、西アジア・アフリカでは「研修」(23.7%)が2番目に多く、「その他」(18.4%)が続く。「その他」の具体的な回答としては、「日本人妻」「観光」などが挙げられる。インド亜大陸では他のグループと比較して「研究・勉強」が27.1%と少なく、「その他」(20.8%)、「出張・海外赴任」(18.8%)となっている。「その他」の具体的な回答としては、「日本に生まれた」「宗教法人に雇用されている」があった。また、「お金が稼げる」(16.7%)、「仕事があると聞いた」(14.6%)といった、出稼ぎ的理由も目立つ(図表3-9)。



図表 3-9 来日理由 (Q25)

＜複数回答＞ (%)

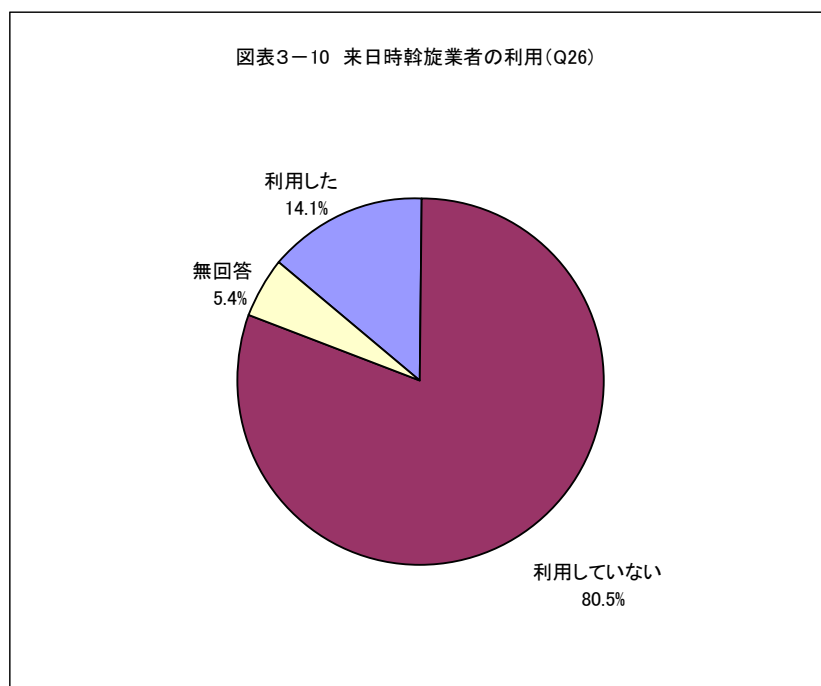
		回答者数	入国しや すき	斡旋業者 の紹介	仕事がある と聞いた	お金が稼 げる	家族・親族 の呼寄
滞在年数	2年未満	41	-	-	4.9	9.8	17.1
	2-5年未満	46	4.3	2.2	4.3	8.7	6.5
	5-10年未満	19	-	-	5.3	10.5	15.8
	10年以上	32	3.1	-	9.4	-	-
出身地域	西アジア・アフリカ	38	-	-	-	-	7.9
	インド亜大陸	48	6.3	-	14.6	16.7	4.2
	東南アジア	61	-	1.6	3.3	4.9	14.8
総数		149	2.0	0.7	6.0	7.4	9.4

		友人・知人 の呼寄	研修	研究・ 勉強	出張・ 海外赴任	その他	無回答
滞在年数	2年未満	2.4	24.4	39.0	14.6	22.0	-
	2-5年未満	4.3	10.9	34.8	23.9	10.9	-
	5-10年未満	-	5.3	57.9	15.8	5.3	-
	10年以上	6.3	12.5	40.6	18.8	15.6	3.1
出身地域	西アジア・アフリカ	5.3	23.7	50.0	5.3	18.4	2.6
	インド亜大陸	6.3	6.3	27.1	18.8	20.8	2.1
	東南アジア	-	14.8	36.1	26.2	9.8	4.9
総数		3.4	14.1	37.6	18.1	15.4	3.4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

来日時の斡旋業者の利用 (Q26)

来日に際し、斡旋業者を利用したかという問いについては、80%以上が「利用していない」と回答している(図表3-10)。このことは、滞在年数や出身地域によっても差が無いが、もっとも多く「利用していない」と回答したのは滞在年数2年未満で92.7%、西アジア・アフリカ出身者で86.8%となっている。逆に、もっとも多く「利用した」と回答したのは滞在年数2~5年未満で23.9%、インド亜大陸出身者で18.8%となっている。(図表3-11)



図表 3-11 幹旋業者の利用 (Q26) (%)

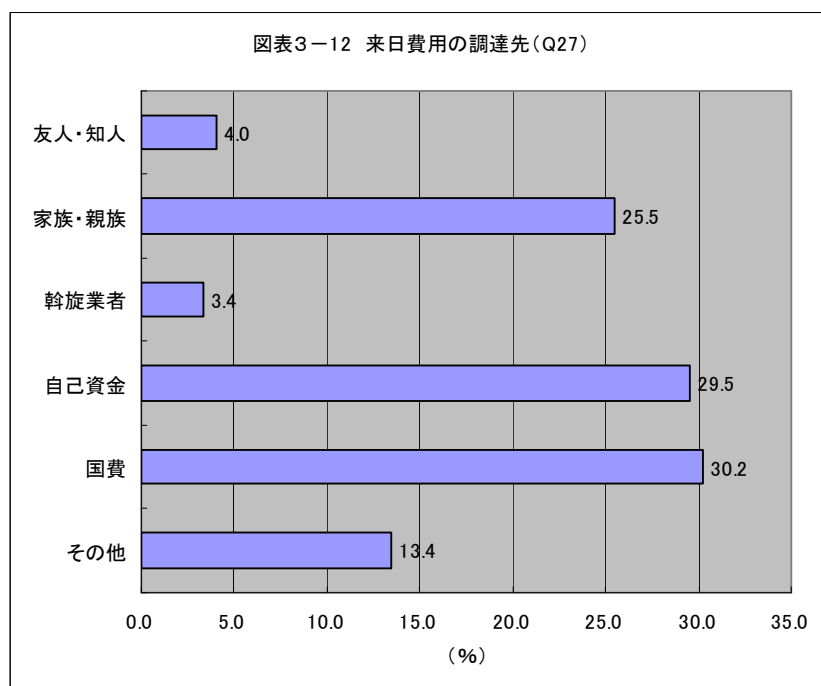
		回答者数	利用した	利用していない	無回答
滞在年数	2年未満	41	7.3	92.7	-
	2-5年未満	46	23.9	73.9	2.2
	5-10年未満	19	5.3	94.7	-
	10年以上	32	12.5	78.1	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	7.9	86.8	5.3
	インド亜大陸	48	18.8	79.2	2.1
	東南アジア	61	14.8	78.7	6.6
総数		149	14.1	80.5	5.4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

来日費用の調達先 (Q27)

来日費用をどのように調達したかという問いについては、30.2%が「国費」と回答し、次いで「自己資金」29.5%、「家族・親族」25.5%となっている(図表3-12)。

滞在年数別では、滞在年数10年未満のすべてのグループでもっとも多い回答が「国費」、そして「自己資金」「家族・親族」となっているが、滞在年数10年以上では「家族・親族」がもっとも多く40.6%であった。出身地域別でみると、西アジア・アフリカおよび東南アジア出身者で「国費」がもっとも多く、「自己資金」「家族・親族」と続くが、インド亜大陸では「家族・親族」が43.8%ともっとも多かった。(表3-13)



図表3-13 来日費用の調達先(Q27)

<複数回答> (%)

		回答者数	国費	自己資金	斡旋業者	家族・ 親族	友人・ 知人	その他	無回答
滞在年数	2年未満	41	36.6	31.7	4.9	22.0	4.9	12.2	-
	2-5年未満	46	34.8	26.1	2.2	21.7	4.3	13.0	-
	5-10年未満	19	42.1	31.6	-	21.1	5.3	26.3	-
	10年以上	32	15.6	31.3	-	40.6	3.1	9.4	3.1
出身地域	西アジア・アフリカ	38	39.5	34.2	-	18.4	2.6	15.8	2.6
	インド亜大陸	48	10.4	35.4	-	43.8	6.3	8.3	2.1
	東南アジア	61	39.3	23.0	8.2	16.4	3.3	16.4	4.9
総数		149	30.2	29.5	3.4	25.5	4.0	13.4	3.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

在日ムスリムの母国における家族は、三世代以上の家族である。母国では高等教育を受け、専門職・管理職に就いていたが、研究や勉強を目的として、斡旋業者を利用せず、国費、または自己資金で来日した者が多かった。

母国における家族については滞在年数や出身地域によってほとんど差は無かったが、職業については、滞在年数5年を区切りとして、5年未満の者は「専門職・管理職」、5年以上の者は「学生」という傾向がみられた。出身地域では西アジア・アフリカ出身者で「学生」が目立った。学歴については、滞在年数が短いほど高等教育を受けており、また西アジア・アフリカ出身者に高学歴の者が多かったといえる。

来日理由では、インド亜大陸出身の回答者の約3割が出稼ぎに類する回答をした以外は、研究・勉

強、出張・海外赴任、研修といった回答が多数派を占めていたことから、ほとんどの者が斡旋業者を利用せず来日した。それでも滞在年数 2～5 年未満およびインド亜大陸出身者の約 5 人に 1 人が斡旋業者を利用していた。また、滞在年数 10 年以上およびインド亜大陸出身者については、来日費用を家族や親族から調達していた者が目立った。

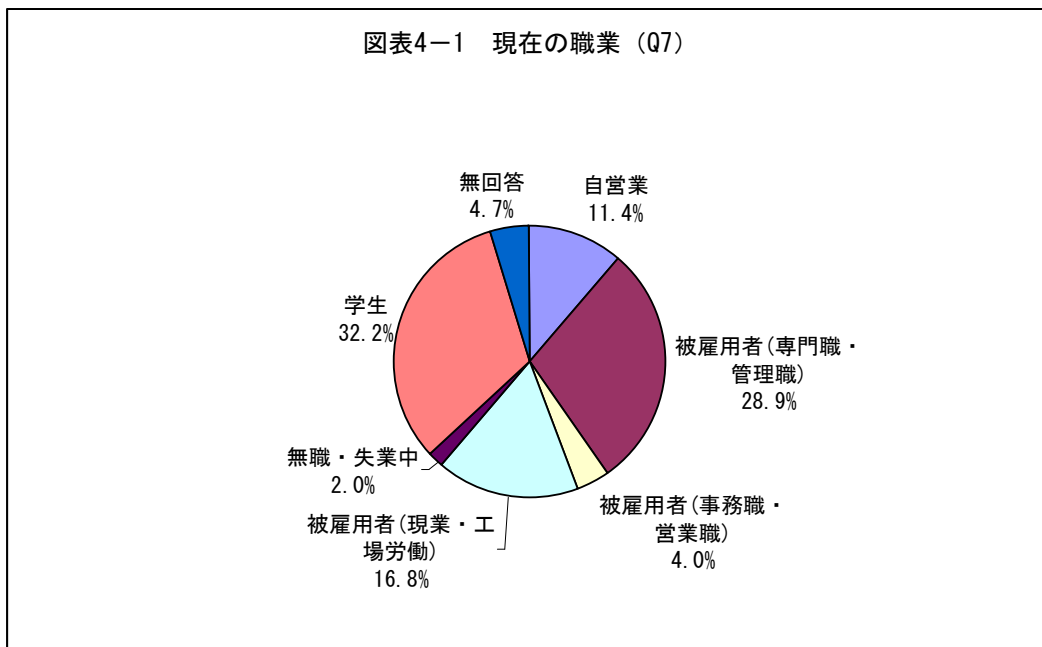
以上のことから、本調査の対象となった在日ムスリムのなかでもインド亜大陸出身者の母国での生活には、従来の「出稼ぎ労働者」のイメージを裏付ける要素が比較的多く散見されたが、西アジア・アフリカ出身者にはそうした要素が少ないといえる。

第4章 日本で働く・学ぶ・住まう

本章では、主に在日ムスリムの日本における職業、職場環境、住居等についてみていくことにする。クロス集計については、他の章と同様に滞在年数、出身地域をとりあげている。

現在の職業 (Q7)

まず、現在の職業からみていくことにする。回答者の職業としては、「学生」が32.2%と最も多く、次いで「専門職・管理職」(28.9%)、「現業・工場労働」(16.8%)、「自営業」(11.4%)と続いている。「学生」が3割、「被雇用者」が5割、「自営業」が1割となった。回答者の来日理由は「研究や勉強のため」をあげる割合が28.0%と最も多くなっており(Q25)、現在の職業で「学生」が3割を占めることと矛盾していない。



また、滞在年数別にみると、回答者の職業のうち、「学生」の占める割合は最も高いが、滞在年数10年以上の「学生」の回答者は見受けられなかった。また、滞在年数が延びるにつれ、「自営業」の割合はほぼ増えている。他の職業については、滞在年数の延長による一貫した傾向はみられないが、「専門職・管理職」は2~5年未満(34.8%)と10年以上(43.8%)の割合が高く、「現業・工場労働」は滞在年数10年を境にして増加から減少へと割合の変化がみられる。

出身地域別に職業を見ると、西アジア・アフリカ出身者は、「専門職・管理職」の占める割合が最も高く(42.1%)、次いで「学生」(34.1%)、「自営業」(13.2%)となっているが、インド亜大陸出身者は「現業・工場労働」(27.1%)の割合が高く、「自営業」(22.9%)、「専門職・管理職」(18.8%)と

続いている。また、東南アジア出身者は「学生」の占める割合が最も高く（41.0%）、次いで「専門職・管理職」（29.5%）、「現業・工場労働」（18.0%）となっている。出身地域によって日本における職業に差がみられるという結果が得られた。

図表 4-2 現在の職業 (Q7) (%)

		回答者数	自営業	専門職・管理職	事務職・営業職
滞在年数	2年未満	41	4.9	19.5	4.9
	2-5年未満	46	4.3	34.8	2.2
	5-10年未満	19	15.8	15.8	—
	10年以上	32	28.1	43.8	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	38	13.2	42.1	2.6
	インド亜大陸	48	22.9	18.8	4.2
	東南アジア	61	1.6	29.5	4.9
総数		149	11.4	28.9	4.0

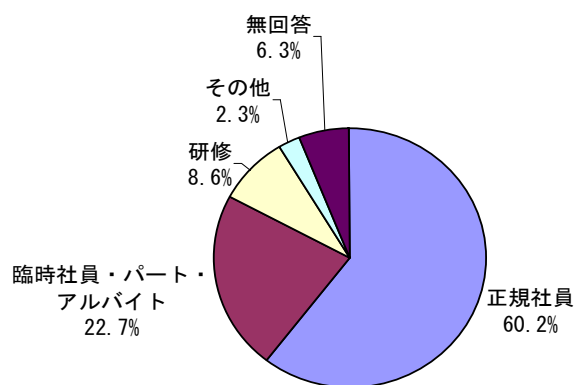
		現業・工場労働	無職・失業中	学生	無回答
滞在年数	2年未満	17.1	7.3	43.9	2.4
	2-5年未満	17.4	—	37.0	4.3
	5-10年未満	21.1	—	47.4	—
	10年以上	12.5	—	—	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	2.6	2.6	34.2	2.6
	インド亜大陸	27.1	4.2	16.7	6.3
	東南アジア	18.0	—	41.0	4.9
総数		16.8	2.0	32.2	4.7

(注：滞在年数不詳 11名、出身地域不詳 2名)

雇用形態 (Q8)

次に、回答者のうち現在働いている者（度数 128）の雇用形態をみると、「正規社員」は 60.2%、「臨時社員・パート・アルバイト」は 22.7%、「研修」は 8.6%となった。また、職業とのクロス集計をみると（図表 4-4）、「正規社員」では、専門職・管理職（90.7%）、「臨時社員・パート・アルバイト」では事務職・営業職（33.3%）、「研修」では学生（20.0%）の割合が最も高くなっている。なお、現在働いていない者 21名のうち「学生」は 18名、「無職・失業中」は 3名である。

図表4-3 雇用形態 (Q8)



また、滞在年数別に雇用形態をみると、滞在年数が延びるにつれ、「正規社員」の割合は増える傾向にある。一方で「臨時社員・パート・アルバイト」は滞在年数の延長とともに割合が減っている。また、「研修」中の回答者は滞在年数が5年以上になると見受けられない。

出身地域別の雇用形態では、西アジア・アフリカ出身者は他の地域と比較して「正規社員」の割合が高く (77.4%)、東南アジア出身者は「臨時社員・パート・アルバイト」(36.5%)、「研修」(13.5%)の割合が高くなっている。

図表 4-4 雇用形態 (Q8) (%)

		回答者数	正規社員	臨時社員・パート・アルバイト	研修	その他	無回答
職業	自営業	17	64.7	5.9	5.9	11.8	11.8
	専門職・管理職	43	90.7	7.0	2.3	—	—
	事務職・営業職	6	66.7	33.3	—	—	—
	現業・工場労働	25	64.0	24.0	8.0	—	4.0
	学生	30	20.0	50.0	20.0	3.3	6.7
滞在年数	2年未満	34	44.1	38.2	11.8	—	5.9
	2-5年未満	39	59.0	23.1	12.8	—	5.1
	5-10年未満	13	61.5	23.1	—	7.7	7.7
	10年以上	32	75.0	12.5	—	6.3	6.3

(注：職業不詳7名、滞在年数不詳10名、出身地域不詳1名)

図表 4-4 雇用形態 (Q8) つづき (％)

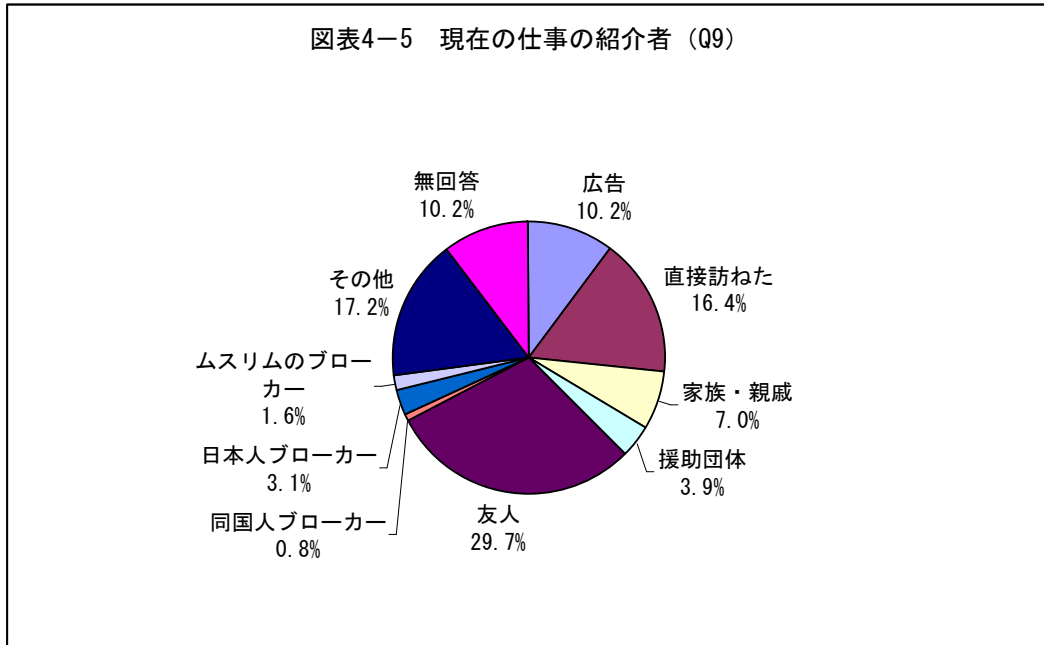
		回答者数	正規社員	臨時社員・パート・アルバイト	研修	その他	無回答
出身地域	西アジア・アフリカ	31	77.4	12.9	6.5	—	3.2
	インド亜大陸	44	68.2	13.6	2.3	4.5	11.4
	東南アジア	52	44.2	36.5	13.5	1.9	3.8
総数		128	60.2	22.7	8.6	2.3	6.3

(注：職業不詳 7 名、滞在年数不詳 10 名、出身地域不詳 1 名)

現在の仕事の紹介者 (Q9)

現在の仕事の紹介者は、「友人」の 29.7% が最も高く、次いで「その他」(17.2%)、「直接たずねた」(16.4%)、「広告」(10.2%)、「家族・親戚」(7.0%) 等が続いている。約 3 割の回答者は友人を媒介として職を見つけていることになる。なお、主な「その他」の内容としては、「自ら起業した」、「会社」、「大学」があげられ、少数意見としては「政府」、「Eメール」等があげられている。

図表 4-5 現在の仕事の紹介者 (Q9)



次に、滞在年数別に仕事の紹介者をみると、滞在年数の増加による一貫した割合の変化は見受けられないが、2 年未満は、「援助団体」の回答割合が比較的高く (8.8%)、「友人」の割合が低い (11.8%)。また、「ムスリムのブローカー」(5.9%) に唯一回答のある滞在年数カテゴリーである。「援助団体」については、滞在年数が 5 年未満でのみ回答を得た。5～10 年未満では、「直接尋ねた」(30.8%)、「友人」(53.8%) の占める割合が高くなっている。また、10 年以上では、「日本人ブローカー」が 9.4% となっており、他の滞在年数カテゴリーに比べて回答割合が高くなっている。

出身地域別にみると、東南アジア出身者が特徴的である。「家族・親戚」の割合が他地域出身者より回答割合が高くなっており（13.5%）、「援助団体」（9.6%）、「同国人ブローカー」（1.9%）、「ムスリムのブローカー」（3.8%）については東南アジア出身者のみが仕事の紹介者として回答している。

図表 4-6 現在の仕事の紹介者 (Q8) (%)

		回答者数	広告	直接訪ねた	家族・親戚	援助団体	友人
滞在年数	2年未満	34	11.8	11.8	5.9	8.8	11.8
	2-5年未満	39	12.8	15.4	15.4	2.6	38.5
	5-10年未満	13	—	30.8	7.7	—	53.8
	10年以上	32	6.3	18.8	—	—	28.1
出身地域	西アジア・アフリカ	31	9.7	16.1	3.2	—	29.0
	インド亜大陸	44	15.9	18.2	2.3	—	36.4
	東南アジア	52	5.8	15.4	13.5	9.6	23.1
総数		128	10.2	16.4	7.0	3.9	29.7

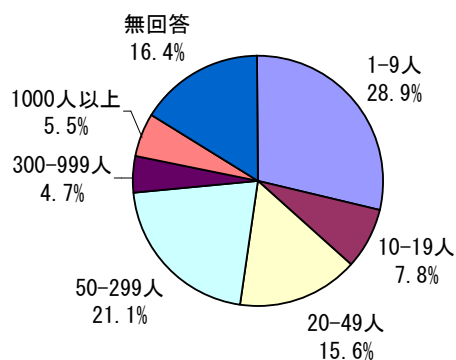
		同国人ブローカー	日本人ブローカー	ムスリムのブローカー	その他	無回答
滞在年数	2年未満	—	2.9	5.9	29.4	11.8
	2-5年未満	—	—	—	7.7	7.7
	5-10年未満	—	—	—	7.7	—
	10年以上	—	9.4	—	25.0	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	—	3.2	—	32.3	6.5
	インド亜大陸	—	2.3	—	11.4	13.6
	東南アジア	1.9	3.8	3.8	13.5	9.6
総数		0.8	3.1	1.6	17.2	10.2

(注：滞在年数不詳10名、出身地域不詳1名)

職場の従業員数 (Q10)

職場の従業員数については、「1~9人」が28.9%と最も高く、次いで「50~299人」(21.1%)、「20~49人」(15.6%)等となっている。従業員数300人以上の比較的大きな職場に勤める回答者は1割程度となっており、中小規模の職場に多くの回答者が勤めているという結果がえられた。

図表4-7 職場の従業員数 (Q10)



次に、出身地域別のクロス集計をみると、西アジア・アフリカ出身者は従業員数「20～49人」の割合が最も高く（29.0%）、インド亜大陸出身者及び東南アジア出身者は従業員数「1～9人」の割合が最も高くなっている（それぞれ31.8%、28.8%）。一方、300人以上の従業員数では、「300～999人」で西アジア・アフリカ（9.7%）、「1000人以上」で東南アジア（9.6%）の割合がそれぞれ他地域と比較して高くなっている。

図表 4-8 職場の従業員数 (Q10) (%)

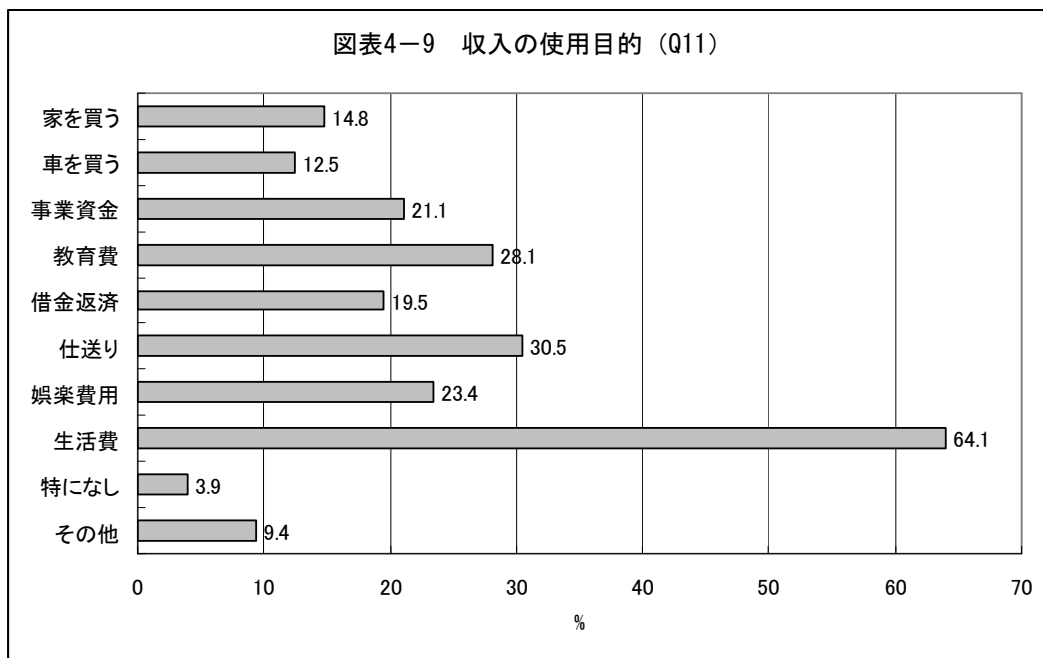
		回答者数	1-9人	10-19人	20-49人
滞在年数	2年未満	34	20.6	8.8	14.7
	2-5年未満	39	38.5	5.1	20.5
	5-10年未満	13	23.1	7.7	15.4
	10年以上	32	31.3	6.3	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	31	22.6	9.7	29.0
	インド亜大陸	44	31.8	4.5	13.6
	東南アジア	52	28.8	9.6	9.6
総数		128	28.9	7.8	15.6

		50-299人	300-999人	1000人以上	無回答
滞在年数	2年未満	14.7	5.9	5.9	29.4
	2-5年未満	23.1	—	2.6	10.3
	5-10年未満	15.4	7.7	7.7	23.1
	10年以上	28.1	9.4	6.3	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	12.9	9.7	3.2	12.9
	インド亜大陸	22.7	4.5	2.3	20.5
	東南アジア	25.0	1.9	9.6	15.4
総数		21.1	4.7	5.5	16.4

(注：滞在年数不詳10名、出身地域不詳1名)

収入の使用目的 (Q11)

収入の使用目的を複数回答で得た結果は、回答数の多い順に「生活費」(64.1%)、「仕送り」(30.5%)、「教育費」(28.1%)、「娯楽費用」(23.4%)、事業資金(21.1%)等となった。



滞在年数別にみると、すべての滞在年数カテゴリーで「生活費」の割合が高いが、2年未満では、「生活費」以外の項目で他の滞在年数カテゴリーよりも回答割合が少なくなっている。2～5年未満では、2年未満と比べて「生活費」以外の全ての項目の割合が増加している。さらに、5～10年未満になると、「家を買う」、「事業資金」、「教育費」、「仕送り」、「生活費」の割合は全ての滞在年数カテゴリーで最も高くなり収入を多用途に用いていることがわかる。10年以上の滞在年数では、「車を買う」、「娯楽費用」の割合が高く、生活費の余剰を余暇に回していることが示唆された。

出身地域別でも、収入の使用目的は「生活費」の割合が最も高いが、西アジア・アフリカ出身者は「娯楽費用」において他の出身地域より割合が少なく(16.1%)、インド亜大陸出身者は「家を買う」(9.1%)、「車を買う」(6.8%)の割合が低く、逆に「借金返済」(31.8%)、「仕送り」(38.6%)の割合が高くなっている。

図表 4-10 収入の使用目的 (Q11) <複数回答> (%)

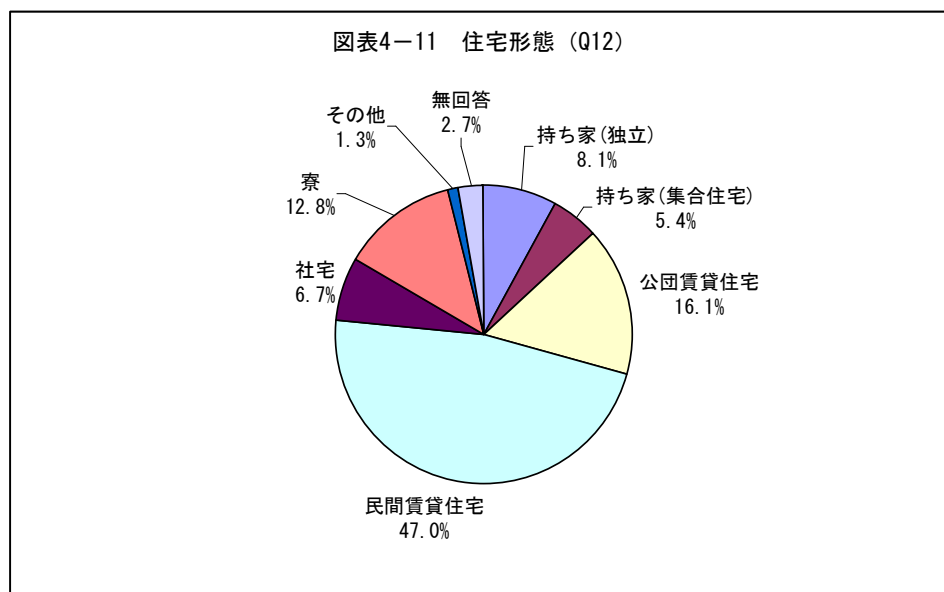
		回答者数	家を買う	車を買う	事業資金	教育費	借金返済
滞在年数	2年未満	34	5.9	5.9	5.9	11.8	11.8
	2-5年未満	39	15.4	17.9	23.1	25.6	23.1
	5-10年未満	13	23.1	7.7	38.5	46.2	23.1
	10年以上	32	21.9	18.8	28.1	40.6	21.9
出身地域	西アジア・アフリカ	31	19.4	12.9	22.6	29.0	12.9
	インド亜大陸	44	9.1	6.8	25.0	25.0	31.8
	東南アジア	52	17.3	17.3	17.3	30.8	13.5
総数		128	14.8	12.5	21.1	28.1	19.5

		仕送り	娯楽費用	生活費	特になし	その他
滞在年数	2年未満	20.6	14.7	64.7	2.9	17.6
	2-5年未満	30.8	17.9	56.4	7.7	10.3
	5-10年未満	53.8	30.8	76.9	7.7	7.7
	10年以上	28.1	40.6	65.6	—	—
出身地域	西アジア・アフリカ	29.0	16.1	67.7	3.2	9.7
	インド亜大陸	38.6	27.3	56.8	4.5	11.4
	東南アジア	25.0	25.0	67.3	3.8	7.7
総数		30.5	23.4	64.1	3.9	9.4

(注：滞在年数不詳10名、出身地域不詳1名)

住宅形態 (Q12)

次に、住宅に関する質問項目を見ていく。回答者の日本における住宅形態については、「民間賃貸住宅」が47.0%、「公団賃貸住宅」が16.1%となっており6割程度の回答者が賃貸住宅に居住しているという結果となった。対して持ち家は「独立」が8.1%、「集合住宅」が5.4%となっており、1割強となった。



また、滞在年数別にみると、2年未満で「公団賃貸」(22.0%)、「寮」(24.4%)の割合が他の滞在年数カテゴリーに比べて高くなっており、「民間賃貸」(26.8%)の割合は低くなっている。2～5年未満では、「独立」(4.3%)、「寮」(8.7%)の割合が低い。また、5～10年未満は、「独立」(15.8%)の割合が高く、「社宅」を回答する者がいなかったことが特徴となっている。10年以上では、「集合住宅」(9.4%)、「民間賃貸」(62.5%)、「社宅」(18.2%)の割合が高くなっている。

出身地域別にみると、西アジア・アフリカ出身者は「社宅」を回答する者がいないこと、インド亜大陸出身者は「民間賃貸住宅」(56.3%)の割合が高く、「寮」(6.3%)の割合が低いこと、東南アジア出身者は「民間賃貸住宅」(39.3%)の割合が低く、「社宅」(13.1%)の割合が高いことが特徴として考えられるだろう。

図表 4-12 住宅形態 (Q12) (%)

		回答者数	独立	集合住宅	公団賃貸	民間賃貸
滞在年数	2年未満	41	9.8	4.9	22.0	26.8
	2-5年未満	46	4.3	4.3	13.0	56.5
	5-10年未満	19	15.8	5.3	10.5	52.6
	10年以上	32	9.4	9.4	12.5	62.5
出身地域	西アジア・アフリカ	38	7.9	7.9	15.8	47.4
	インド亜大陸	48	10.4	6.3	12.5	56.3
	東南アジア	61	6.6	3.3	18.0	39.3
総数		149	8.1	5.4	16.1	47.0

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

図表 4-12 住宅形態 (Q12) つづき (%)

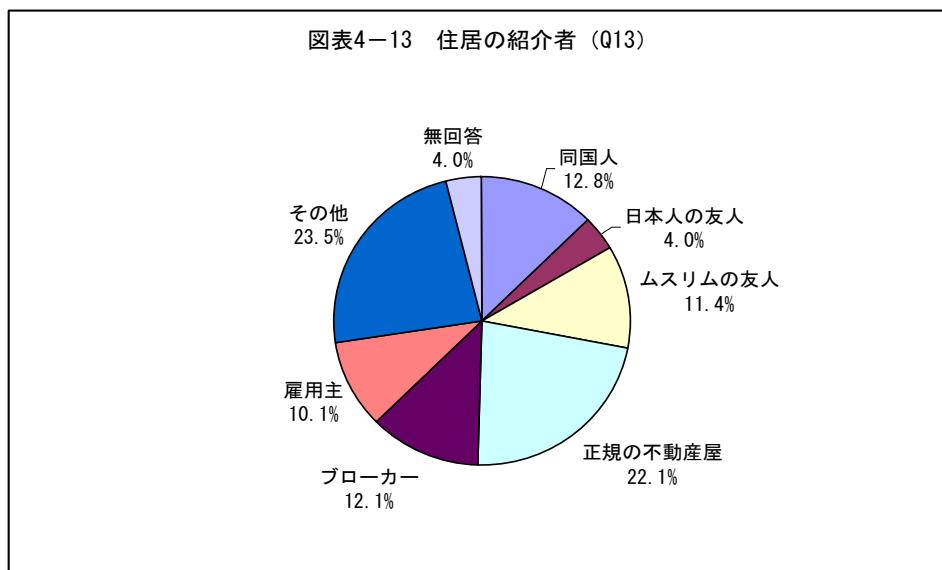
		社宅	寮	その他	無回答
滞在年数	2年未満	7.3	24.4	2.4	2.4
	2-5年未満	10.9	8.7	—	2.2
	5-10年未満	—	15.8	—	—
	10年以上	18.2	18.2	—	9.1
出身地域	西アジア・アフリカ	—	18.4	2.6	—
	インド亜大陸	4.2	6.3	2.1	2.1
	東南アジア	13.1	14.8	—	4.9
総数		6.7	12.8	1.3	2.7

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

住居の紹介者 (Q13)

住居の紹介者については、「その他」の 23.5%が最も多かったが、次いで「正規の不動産屋」の 22.1%となっており、「同国人」、「ブローカー」、「 musulim の友人」、「雇用主」はそれぞれ 1 割程度となっている。「日本人の友人」は 4.0%と全ての項目の中で最も低い割合となった。なお、「その他」の主な内容としては、「学校」、「妻」、といった回答であった。少数意見としては、「インターネット」、「国際協力機構 (JICA)」、「都市再生機構 (旧日本住宅公団)」等があげられている。

図表4-13 住居の紹介者 (Q13)



次に滞在年数別のクロス集計をみると、2年未満では「その他」の割合が高く（36.6%）、学校の紹介で住居をみつけていることが示唆される。2～5年未満では、「同国人」（19.6%）、「雇用主」（19.6%）の割合が他の滞在年数カテゴリーに比べて相対的に高くなっている。10年以上では、「日本人の友人」（12.5%）の割合が高いこと、「ムスリムの友人」（6.3%）の割合が低く、「正規の不動産屋」（34.4%）の割合が高くなっている。

出身地域別にみると、インド亜大陸出身者は「同国人」（20.8%）の割合が高く、「ブローカー」をあげる回答者がいないことが特徴となっており、東南アジア出身者は逆に「同国人」（6.6%）の割合が少なく、「ブローカー」（21.3%）の割合が高い。また、東南アジア出身者は「雇用主」（16.4%）の割合が高いことも特徴となっている。

図表 4-14 住居の紹介者 (Q13) (%)

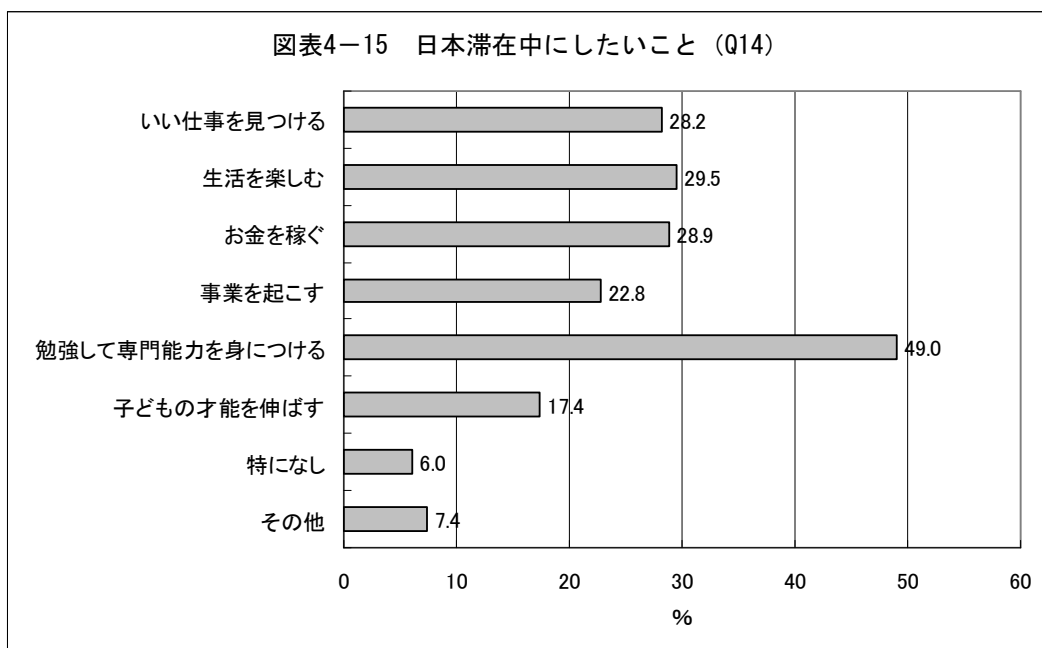
		回答者数	同国人	日本人の友人	ムスリムの友人	正規の不動産屋
滞在年数	2年未満	41	9.8	2.4	14.6	14.6
	2-5年未満	46	19.6	2.2	15.2	21.7
	5-10年未満	19	15.8	—	10.5	21.1
	10年以上	32	6.3	12.5	6.3	34.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	13.2	7.9	15.8	18.4
	インド亜大陸	48	20.8	4.2	8.3	25.0
	東南アジア	61	6.6	1.6	11.5	21.3
総数		149	12.8	4.0	11.4	22.1

		ブローカー	雇用主	その他	無回答
滞在年数	2年未満	14.6	2.4	36.6	4.9
	2-5年未満	8.7	19.6	13.0	—
	5-10年未満	15.8	10.5	26.3	—
	10年以上	12.5	—	18.8	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	10.5	5.3	28.9	—
	インド亜大陸	—	6.3	29.2	6.3
	東南アジア	21.3	16.4	16.4	4.9
総数		12.1	10.1	23.5	4.0

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

日本滞在中にしたいこと (Q14)

日本滞在中にしたいことを複数回答でたずねた結果、「勉強して専門能力を身につける」が 49.0% となっており半数の回答を得た。次いで「生活を楽しむ」(29.5%)、「お金を稼ぐ」(28.9%)、「いい仕事を見つける」(28.2%) がそれぞれ 3 割程度、「事業を起こす」(22.8%)、「子供の才能を伸ばす」(17.4%) が 2 割程度の回答割合であった。



滞在年数別にみると、「いい仕事を見つける」は滞在年数が延びるにつれ割合が減少している。2年未満では、「いい仕事を見つける」(36.6%)、「専門能力を身につける」(61.0%)の割合が高く、2～5年未満では、「生活を楽しむ」(19.6%)、「子どもの才能を伸ばす」(10.9%)の割合が低い。5～10年未満でも同様に「生活を楽しむ」(21.1%)、「子供の才能を伸ばす」(10.9%)の割合が低くなっている。10年以上では、「専門能力を身につける」(25.0%)の割合が低く、「子どもの才能を伸ばす」(31.3%)の割合が高くなっている。

出身地域別では、インド亜大陸出身者は「専門能力を身につける」(37.5%)の割合が低く、東南アジア出身者は「お金を稼ぐ」(44.3%)の割合が高いことが特徴となっている。

図表 4-16 日本滞在中にしたいこと (Q14) <複数回答> (%)

		回答者数	いい仕事を見つける	生活を楽しむ	お金を稼ぐ	事業を起こす
滞在年数	2年未満	41	36.6	39.0	31.7	14.6
	2-5年未満	46	30.4	19.6	32.6	23.9
	5-10年未満	19	26.3	21.1	26.3	21.1
	10年以上	32	18.8	37.5	25.0	28.1

出身地域	西アジア・アフリカ	38	23.7	34.2	21.1	21.1
	インド亜大陸	48	29.2	29.2	16.7	27.1
	東南アジア	61	31.1	27.9	44.3	21.3
総数		149	28.2	29.5	28.9	22.8

		専門能力を身につける	子どもの才能を伸ばす	特になし	その他
滞在年数	2年未満	61.0	12.2	2.4	4.9
	2-5年未満	52.2	10.9	6.5	6.5
	5-10年未満	57.9	21.1	—	10.5
	10年以上	25.0	31.3	9.4	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	55.3	21.1	2.6	7.9
	インド亜大陸	37.5	16.7	10.4	12.5
	東南アジア	52.5	16.4	4.9	3.3
総数		49.0	17.4	6.0	7.4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

本章では、主に在日ムスリムの日本における職業、職場環境、住居等についてみてきた。ここで結果について概観しておくことにする。回答者の日本における職業は、学生が 3 割、被雇用者が 5 割、自営業が 1 割となった。ただし、出身地域別にみると学生は、東南アジア出身者の占める割合が高く、被雇用者においても専門職・管理職は西アジア・アフリカ出身者、現業・工場労働はインド亜大陸出身者の占める割合が高い。就業の際には友人を媒介としている者が多い。援助団体の利用は滞在年数 5 年未満に限られている。収入の使用目的は生活費をあげる回答者が多いが、滞在年数の延長に従って用途が多岐に渡る傾向にあり、10 年以上在日している回答者は余剰収入があることも示唆される。また、住宅については、回答者の約半数が民間の賃貸住宅に居住し、正規の不動産屋を通じて入居する者が多い。こうした就業状態にあるムスリムは、出身地域ごとの細かな差はあるにせよ、日本で専門能力を身につけるべく暮らしている者が多いといえるだろう。

第5章 信仰生活

それぞれの母国から来日し、わが国で生活するムスリムは、どのような信仰生活を送っているのだろうか。

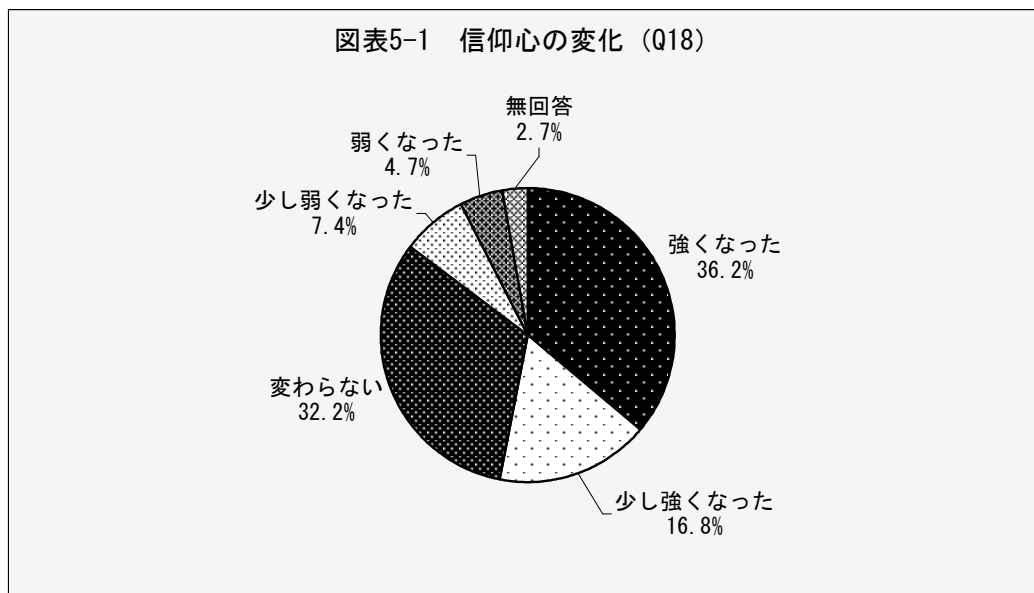
本調査では、信仰心の変化、イスラーム規範の遵守度、ハラール食品店の利用、モスクや礼拝所での礼拝の頻度など、ムスリムの信仰生活を描き出す質問項目が用意された。

イスラームは、宗教であると同時に生活規範であるとされる。日常生活のあらゆる局面にイスラームの規範は存在するといつてよい。その意味で、以下で扱う質問項目は、イスラームを奉ずる人々の、わが国での日常生活の一端を描き出す作業と言い換えることも出来る。以下では、そうした在日ムスリムの信仰生活に係る質問項目についてみていく。

信仰心の変化 (Q18)

ここでは、来日前と、現在の信仰心の変化についてみていく。図表5-1は、全体の集計結果を示したものである。

日本に来て、信仰心が「強くなった」が36.2%、「少し強くなった」が16.8%となっており、信仰心が日本に来てむしろ強まっている回答者が53%に上る。逆に「少し弱くなった」「弱くなった」についてみると、それぞれ、7.4%、4.7%となっており、12.1%が信仰心が弱まったと考えている。「変わらない」と考える回答者は32.2%である。



以下の図表5-2は、滞在年数および、出身地域と信仰心の変化のクロス集計結果を示したものである。

まず滞在年数別に見ていこう。単純集計結果を反映し、いずれのグループでも、「強くなった」「少

し強くなった」と回答している割合が高い。ただし、強まりの度合いに特徴を見出すことが出来る。2-5年未満および10年以上において、「強くなった」と回答している割合が、それぞれ45.7%、43.8%となっている。一方、2年未満および5-10年未満は、「強くなった」と回答する割合が相対的に低く、「少し強くなった」と回答する割合が、それぞれ22.0%、21.1%となっている。

次いで、出身地域別に見ていこう。

各グループについて「強くなった」「少し強くなった」の値を合計し、信仰心が強まったと考えるものの割合を算出すると、西アジア・アフリカが63.2%、インド亜大陸が56.2%、東南アジアが45.9%となる。いずれのグループでも、「強くなった」「少し強くなった」と回答している割合が高い。

ただし、インド亜大陸東南アジア地域出身者の回答が、「強くなった」「少し強くなった」の双方に分散しているのに対して、西アジア・アフリカは「強くなった」が55.3%、「少し強くなった」が7.9%となっており、信仰心が「強くなった」と考える回答者の割合が非常に高い。

一方、信仰心の弱まりについてみると、東南アジア地域出身者が、「弱くなった」と回答したものの割合は他の地域出身者と比較して低いものの、「少し弱くなった」と回答したものが13.1%となっており、高い割合となっている。

図表 5-2 信仰心の変化 (Q18) (%)

		回 答 者 数	強 くな った	少 し 強 くなっ た	変 わ ら な い	少 し 弱 くなっ た	弱 くな った	無 回 答
滞在年数	2年未満	41	26.8	22.0	36.6	9.8	4.9	—
	2-5年未満	46	45.7	13.0	26.1	8.7	6.5	—
	5-10年未満	19	31.6	21.1	36.8	5.3	5.3	—
	10年以上	32	43.8	9.4	28.1	6.3	3.1	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	55.3	7.9	28.9	2.6	5.3	—
	インド亜大陸	48	35.4	20.8	29.2	4.2	6.3	4.2
	東南アジア	61	26.2	19.7	34.4	13.1	3.3	3.3
総数		149	36.2	16.8	32.2	7.4	4.7	2.7

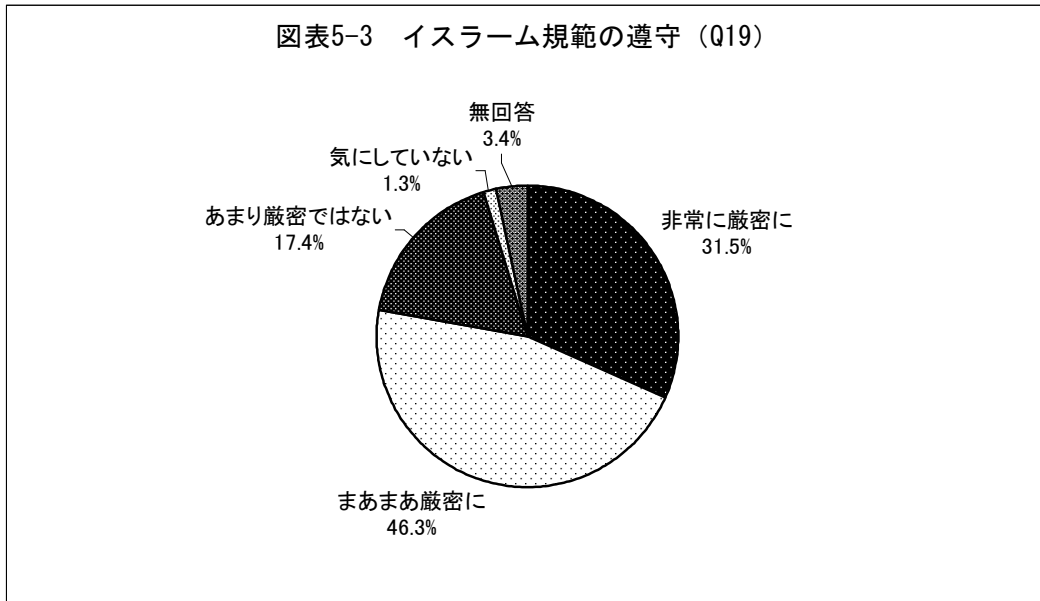
(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

イスラーム規範の遵守 (Q19)

ここでは、わが国において、イスラームの規範をどの程度遵守しているかについてみていく。図表 5-3 は、全体の集計結果を示したものである。

回答割合の多い順に、「まあまあ厳密に」46.3%、「非常に厳密に」31.5%、「あまり厳密でない」17.4%と続き、「気にしていない」は1.3%にとどまる結果となった。

図表5-3 イスラーム規範の遵守 (Q19)



以下の図表 5-2 は、滞在年数および、出身地域とイスラーム規範の遵守度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別にみると2年未満では、「非常に厳密に」と「まあまあ厳密に」に回答が分散しており、それぞれ、43.9%と41.5%であった。2年未満における「非常に厳密に」の割合は、各グループを通じて最も高い。次いで2-5年未満では、「まあまあ厳密に」52.2%、5-10年未満では、「非常に厳密に」42.1%、10年以上では、「まあまあ厳密に」56.3%となっており、それぞれ最も高い割合を示している。

出身地域別に見ると、各カテゴリー間で大きな特徴は見られないものの、インド亜大陸が、「非常に厳密に」が29.2%と最も低く、「あまり厳密ではない」が20.8%と、他のカテゴリーと比較してやや高い値をとっている。

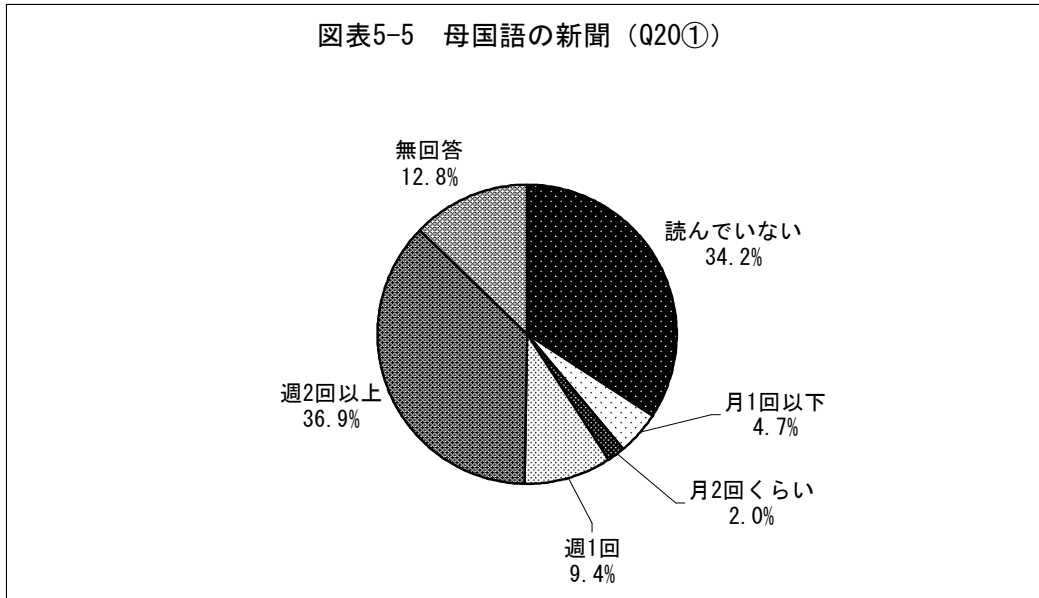
図表 5-4 イスラーム規範の遵守 (Q19) (%)

		回答者数	非常に厳密に	まあまあ厳密に	あまり厳密ではない	気にしていない	無回答
滞在年数	2年未満	41	43.9	41.5	12.2	2.4	—
	2-5年未満	46	26.1	52.2	17.4	2.2	2.2
	5-10年未満	19	42.1	31.6	26.3	—	—
	10年以上	32	18.8	56.3	18.8	—	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	38	36.8	44.7	13.2	—	5.3
	インド亜大陸	48	29.2	47.9	20.8	2.1	—
	東南アジア	61	31.1	45.9	16.4	1.6	4.9
総数		149	31.5	46.3	17.4	1.3	3.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

母国語の新聞 (Q20①)

ここでは、母国語の新聞の利用度についてみていく。図表 5-5 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「週 2 回以上」(36.9%)、「読んでいない」(34.2%)、「週 1 回」(9.4%)、「月 1 回以下」(4.7%)、「月 2 回くらい」(2.0%) となり、頻繁に母国語の新聞を読むグループと、読んでいないグループに大きく分かれる結果となった。



以下の図表 5-6 は、滞在年数および、出身地域と母国語の新聞の利用度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、それぞれ、2年未満では、「読んでいない」(39.0%)、2-5年未満では、「週 2 回以上」(43.5%)、5-10年未満では、「週 2 回以上」(47.4%)、10年以上では、「読んでいない」(37.5%) が最も高い値をとった。

いずれの категорияにおいても、「読んでいない」と「週 2 回以上」に回答が集中する傾向が見取れるが、5-10年未満は、「月 1 回以下」で 15.8%と他の categoryと比較して高い値をとり、10年以上においては「週 2 回以上」の割合が(無回答の割合の多さを考慮する必要があるものの)、25.0%と他の categoryと比較して低い値をとっている。滞在期間が長くなるにつれて、母国語の新聞を読む頻度は減少する傾向にある。

出身地域別に見ると、西アジア・アフリカおよびインド亜大陸では「読んでいない」がそれぞれ 40%以上存在するのに対し、東南アジアにおいて、「読んでいない」が 23.0%にとどまる。東南アジアは、「週 2 回以上」も 49.0%と、他の categoryと比較して高い値をとっている。母国語の新聞の利用頻

度における、出身地域による差が確認できる。ただし、この結果は、出身地域に対応する母国語メディアの存在の有無に規定されている可能性がある。

図表 5-6 母国語の新聞 (Q20①) (%)

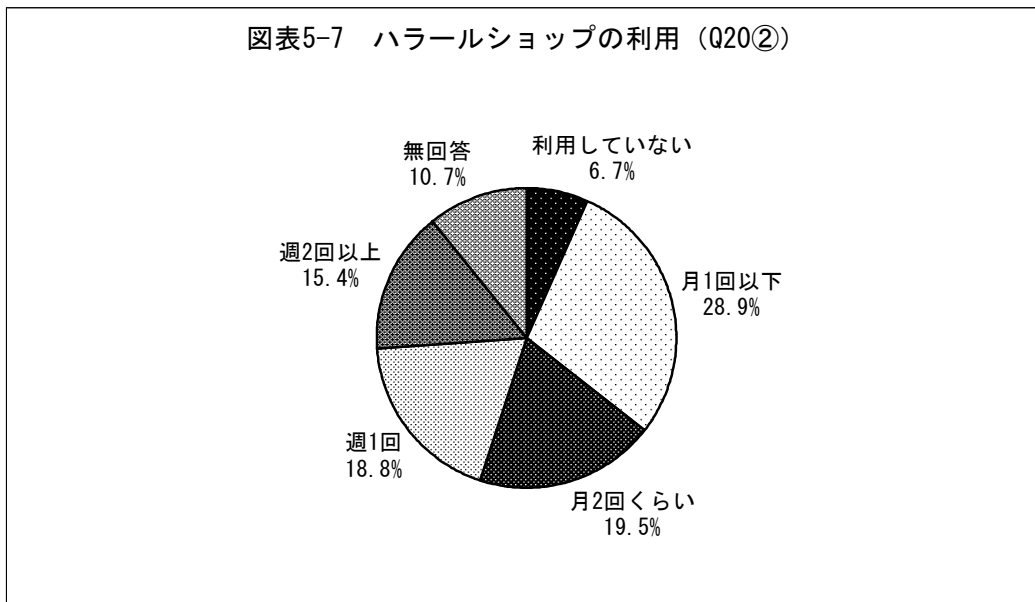
	回答者数	読んでいない	月1回以下	月2回程度	週1回	週2回以上	無回答
滞在年数 2年未満	41	39.0	2.4	2.4	14.6	36.6	4.9
2-5年未満	46	30.4	4.3	2.2	10.9	43.5	8.7
5-10年未満	19	26.3	15.8	—	10.5	47.4	—
10年以上	32	37.5	3.1	3.1	3.1	25.0	28.1
出身地域 西アジア・アフリカ	38	44.7	2.6	—	13.2	26.3	13.2
インド亜大陸	48	41.7	2.1	2.1	2.1	27.1	25.0
東南アジア	61	23.0	8.2	3.3	13.1	49.2	3.3
総数	149	34.2	4.7	2.0	9.4	36.9	12.8

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

ハラールショップの利用 (Q20②)

ここでは、ハラールショップの利用度についてみていく。図表 5-7 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「月1回以下」(28.9%)、「月2回程度」(19.5%)、「週1回」(18.8%)、「週2回以上」(15.4%)、「利用していない」(6.7%)となっている。

図表5-7 ハラールショップの利用 (Q20②)



以下の図表 5-8 は、滞在年数および、出身地域とハラールショップの利用度のクロス集計結果を

示したものである。

滞在年数別に見ると、2年未満では、「月2回程度」(24.4%)、2-5年未満、5-10年未満では、「月1回以下」がそれぞれ30.4%、52.6%と最も高い値をとっており、とりわけ5-10年未満における「月1回以下」の割合は、他のカテゴリーと比較して2割以上高い値をとっている。10年以上では、「月1回以下」と「週1回」が同率(28.1%)となっている。また、10年以上では最も利用度の高い「週2回以上」の割合が6.3%と他のカテゴリーと比較して低い値をとっている。

出身地域別にみると、いずれのカテゴリーにおいても、「月1回以下」の利用にとどまる層が、2割から3割存在する。一方、ハラールショップをコンスタントに利用していると考えられる、「月2回程度」以上の割合についてみると、西アジア・アフリカでは、「週1回」(28.9%)、インド亜大陸では、「月2回程度」(25.0%)、東南アジアでは「週2回以上」(24.9%)がそれぞれ最も高い値をとっている。

図表 5-8 ハラールショップの利用 (Q20②) (%)

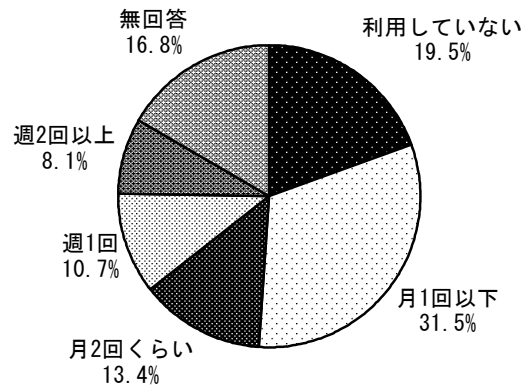
		回答者数	利用していない	月1回以下	月2回程度	週1回	週2回以上	無回答
滞在年数	2年未満	41	4.9	22.0	24.4	17.1	19.5	12.2
	2-5年未満	46	10.9	30.4	19.6	21.7	15.2	2.2
	5-10年未満	19	—	52.6	15.8	10.5	21.1	—
	10年以上	32	9.4	28.1	9.4	28.1	6.3	18.8
出身地域	西アジア・アフリカ	38	7.9	31.6	15.8	28.9	7.9	7.9
	インド亜大陸	48	6.3	22.9	25.0	14.6	10.4	20.8
	東南アジア	61	6.6	32.8	16.4	14.8	24.6	4.9
総数		149	6.7	28.9	19.5	18.8	15.4	10.7

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

ハラールレストランの利用 (Q20③)

ここでは、ハラールレストランの利用度についてみていく。図表 5-9 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「月1回以下」(31.5%)、「利用していない」(19.5%)、「月2回程度」(13.4%)、「週1回」(10.7%)、「週2回以上」(8.1%)となった。とりわけ「利用していない」と「月1回以下」の合計は51%となり、先ほどのハラールショップ(図表 5-7)と比較して、全体的傾向としては、利用度は低い傾向にある。

図表5-9 ハラールレストランの利用 (Q20③)



以下の図表 5-10 は、滞在年数および、出身地域とハラールレストランの利用度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、いずれの категорияにおいても、「月1回以下」の利用にとどまる層が、3割程度存在する。「週2回以上」の利用頻度に特徴的に示されるように、ハラールレストランの利用度は、滞在期間の長期化が進むにつれ、低下する傾向にある。

出身地域別に見ると、西アジア・アフリカでは、「利用していない」割合が、31.6%と他の category に比べて高い値をとっている。最も利用度の高い「週2回以上」では、東南アジアが、13.1%と他の category に比べて高い値をとっている。

図表 5-10 ハラールレストランの利用 (Q20③) (%)

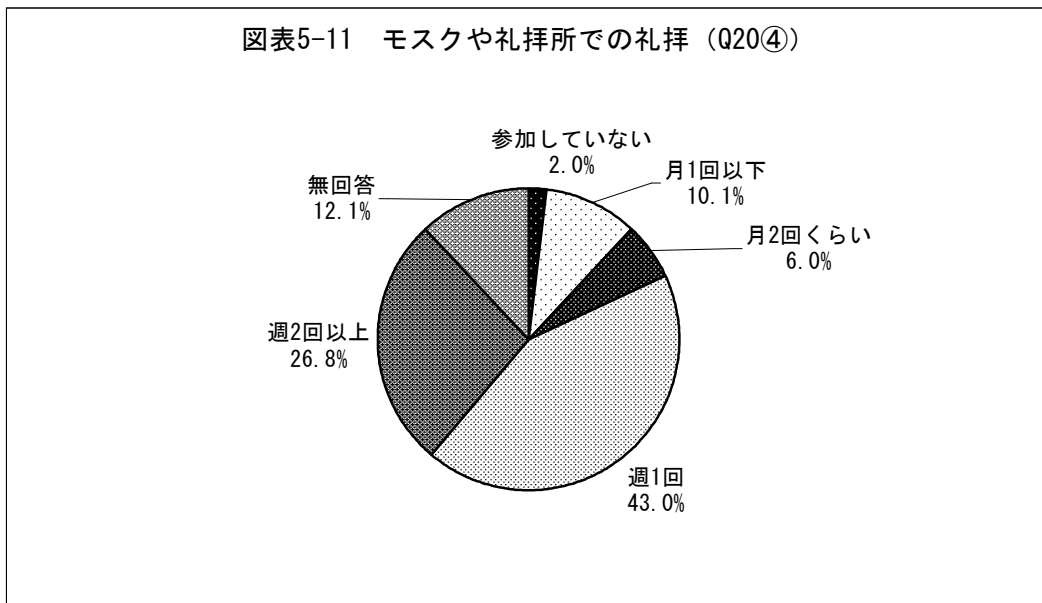
	回答者数	利用していない	月1回以下	月2回程度	週1回	週2回以上	無回答
滞在年数 2年未満	41	22.0	29.3	14.6	7.3	12.2	14.6
2-5年未満	46	17.4	32.6	13.0	15.2	8.7	13.0
5-10年未満	19	15.8	36.8	21.1	10.5	5.3	10.5
10年以上	32	21.9	31.3	12.5	9.4	3.1	21.9
出身地域 西アジア・アフリカ	38	31.6	31.6	10.5	13.2	5.3	7.9
インド亜大陸	48	12.5	29.2	8.3	12.5	4.2	33.3
東南アジア	61	18.0	31.1	19.7	8.2	13.1	9.8
総数	149	19.5	31.5	13.4	10.7	8.1	16.8

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

モスクや礼拝所での礼拝 (Q20④)

ここでは、ムスリムがどの程度モスクや礼拝所での礼拝へ参加しているかについてみていく。図表5-11は、モスクや礼拝所での礼拝への参加度について全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「週1回」(43.0%)、「週2回以上」(26.8%)、「月1回以下」(10.1%)、「月2回程度」(6.0%)、「参加していない」(2.0%)となった。

各モスクや礼拝所で金曜礼拝や週末の集団礼拝が行われているという状況を鑑み、週1回以上をコスタントな参加の基準とすると、約7割が毎週1回はモスクや礼拝所に通っているとの結果が得られる。



以下の図表5-12は、滞在年数および、出身地域と度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、「週1回」がすべてのグループにおいて最も多いが、とりわけ2年未満において53.7%と高い割合となっている。また「月1回以下」で、2-5年未満と5-10年未満が、それぞれ15.2%と21.1%となっており、2年未満(2.4%)、10年以上(3.1%)と比べ高い値をとっている。

出身地域別に見ると、「週1回」がすべてのグループにおいて最も多いが、インド亜大陸が37.5%と、西アジア・アフリカの44.7%、東南アジアの47.5%に比べて低い値をとっている。一方、東南アジアは「週2回以上」の割合が16.4%にとどまり、西アジア・アフリカの34.2%、インド亜大陸の31.3%に比べて低い値をとっている。

図表 5-12 モスクや礼拝所での礼拝 (Q20④)

(%)

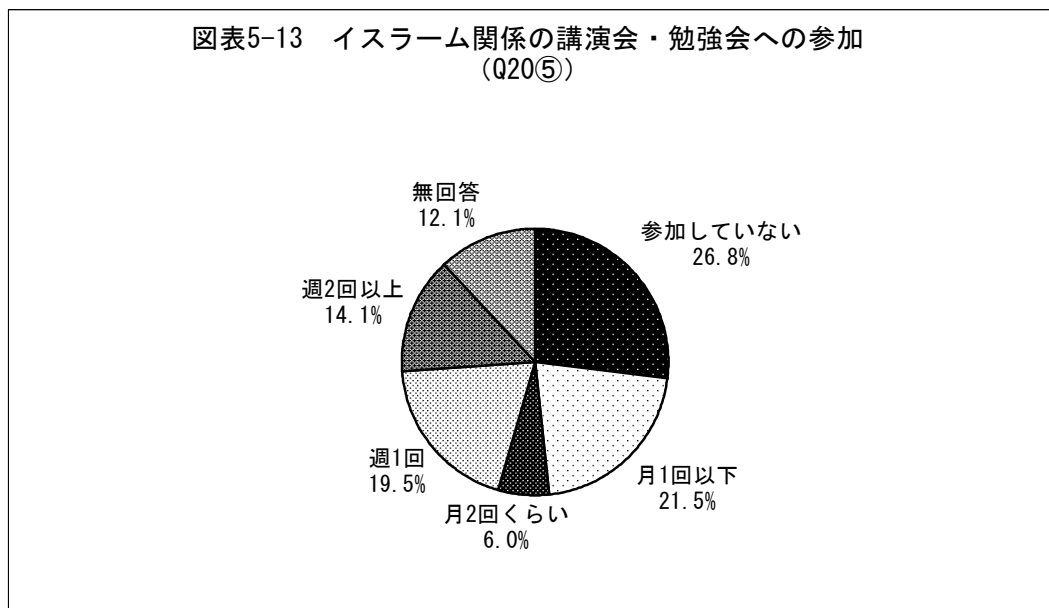
	回答者数	参加していない	月1回以下	月2回程度	週1回	週2回以上	無回答	
滞在年数	2年未満	41	2.4	7.3	4.9	53.7	24.4	7.3
	2-5年未満	46	2.2	15.2	4.3	39.1	28.3	10.9
	5-10年未満	19	—	21.1	10.5	36.8	31.6	—
	10年以上	32	—	3.1	6.3	43.8	28.1	18.8
出身地域	西アジア・アフリカ	38	—	10.5	—	44.7	34.2	10.5
	インド亜大陸	48	—	8.3	8.3	37.5	31.3	14.6
	東南アジア	61	4.9	11.5	8.2	47.5	16.4	11.5
総数	149	2.0	10.1	6.0	43.0	26.8	12.1	

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

イスラーム関係の講演会・勉強会への参加 (Q20⑤)

ここでは、イスラーム関係の講演会・勉強会への参加度についてみていく。図表 5-1 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「参加していない」(26.8%)、「月1回以下」(21.5%)、「週1回」(19.5%)、「週2回以上」(14.1%)、「月2回程度」(6.0%)となった。

図表5-13 イスラーム関係の講演会・勉強会への参加 (Q20⑤)



以下の図表 5-14 は、滞在年数および、出身地域とイスラーム関係の講演会・勉強会への参加度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、2年未満と5-10年未満において「参加していない」が、それぞれ31.7%と31.6%と最も多くなっている。2-5年未満では、「月1回以下」が28.9%と最も多い。10年以上では、「参加していない」と「週2回以上」がともに25.0%と同率となったが、とりわけ、「週2回以上」

の参加が他のカテゴリと比較して高い値をとっている。

出身地域別に見ると、西アジア・アフリカにおいて「参加していない」が47.4%と、インド亜大陸の18.8%、東南アジアの19.7%と比べて、著しく高い値をとっている。インド亜大陸では、最も参加度の高い「週2回以上」が22.9%と最も多い結果となった。東南アジアは、「月1回以下」(26.2%)と、「週1回」(23.0%)の占める割合が多くなっている。

図表 5-14 イスラーム関係の講演会・勉強会への参加 (Q20⑤) (%)

	回答者数	参加していない	月1回以下	月2回程度	週1回	週2回以上	無回答
滞在年数 2年未満	41	31.7	14.6	9.8	24.4	12.2	7.3
2-5年未満	46	23.9	28.3	6.5	15.2	10.9	15.2
5-10年未満	19	31.6	21.1	5.3	26.3	15.8	—
10年以上	32	25.0	18.8	3.1	12.5	25.0	15.6
出身地域 西アジア・アフリカ	38	47.4	15.8	5.3	18.4	7.9	5.3
インド亜大陸	48	18.8	18.8	4.2	16.7	22.9	18.8
東南アジア	61	19.7	26.2	8.2	23.0	11.5	11.5
総数	149	26.8	21.5	6.0	19.5	14.1	12.1

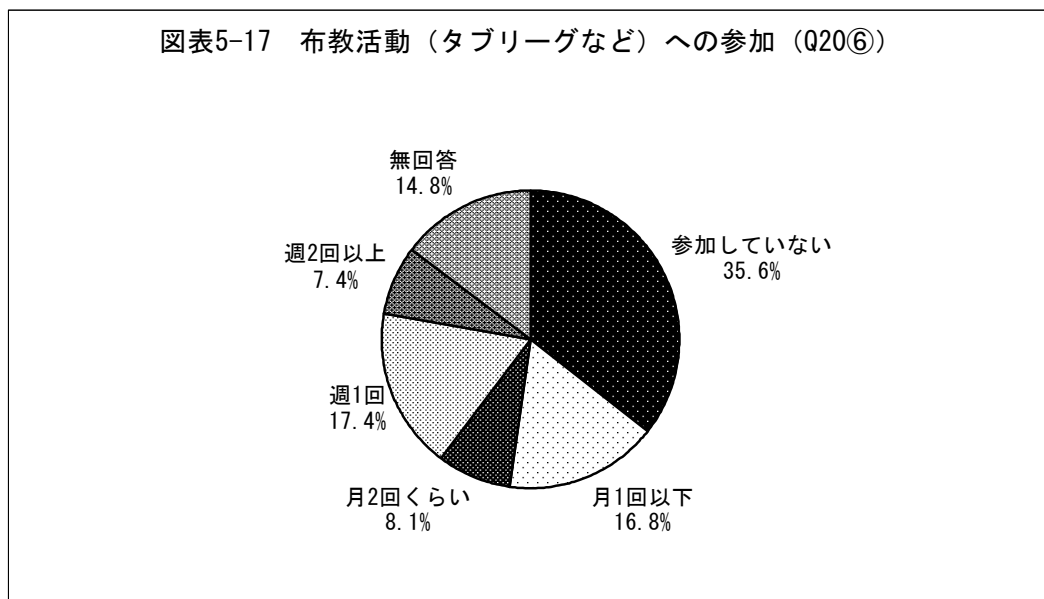
(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

布教活動(タブリーグなど)への参加 (Q20⑥)

ここでは、布教活動(タブリーグなど)への参加度についてみていく。

図表5-17は、全体の集計結果を示したものである。「参加していない」が35.6%と最も多い結果となったが、「週2回」が7.4%、「週1回」が17.4%、「月2回くらい」(8.1%)、「月1回以下」(16.8%)となっており、約半数がこうした活動へ何らかの形で参加しているとの結果が得られた。

図表5-17 布教活動(タブリーグなど)への参加 (Q20⑥)



以下の図表 5-18 は、滞在年数および、出身地域と布教活動（タブリーグなど）への参加度のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「参加していない」が最も多い結果となっているが、その割合は 5-10 年未満で 47.4% と最も高い。一方、10 年以上では 28.1% にとどまった。

出身地域別に見ると、滞在年数別のクロス集計結果と同様に、「参加していない」が最も多い。とりわけ西アジア・アフリカにおいて、「参加していない」割合が 57.9% と、他のカテゴリーに比べて、著しく高い値をとっている。同様に、「月 1 回以下」「月 2 回程度」においても、西アジア・アフリカがともに低い値をとっている。「週 1 回」「週 2 回以上」では、参加度に各カテゴリー間で差は見られない結果となった。

図表 5-18 布教活動（タブリーグなど）への参加（Q20⑥） (%)

		回答者数	参加していない	月 1 回以下	月 2 回程度	週 1 回	週 2 回以上	無回答
滞在年数	2 年未満	41	36.6	12.2	12.2	17.1	7.3	14.6
	2-5 年未満	46	39.1	15.2	4.3	21.7	6.5	13.0
	5-10 年未満	19	47.4	15.8	10.5	15.8	5.3	5.3
	10 年以上	32	28.1	21.9	9.4	12.5	9.4	18.8
出身地域	西アジア・アフリカ	38	57.9	7.9	2.6	15.8	7.9	7.9
	インド亜大陸	48	22.9	18.8	8.3	18.8	6.3	25.0
	東南アジア	61	29.5	21.3	11.5	18.0	8.2	11.5
総数		149	35.6	16.8	8.1	17.4	7.4	14.8

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

本章では在日ムスリムの信仰生活に係る質問項目について、集計結果の考察を行ってきた。ここでは、これまでの考察を踏まえつつ、全体の傾向について検討する。

各々の母国からわが国に來日した、ムスリムらは、その半数以上が自らの信仰心の強まりを経験している。信仰心の強まりは主観的な基準で回答されるため、信仰心は「変わらない」としたものの捉え方については、今後検討すべき課題ではあるものの、イスラーム規範の遵守を問うた質問項目においては、「非常に厳密に」「まあまあ厳密に」と回答したものの合計が 77.8% に上るとの集計結果より、わが国においても、信仰心は維持、あるいは強まる傾向にあり、かつ、イスラーム規範が実践されていることが推察される。

とはいえ、この傾向は、クロス集計の考察において明らかになったように、滞在年数、出身地域によってばらつきが生じている。「信仰心の変化」では、西アジア・アフリカ地域出身者において、西アジア・アフリカは「強くなった」が 55.3%、「少し強くなった」が 7.9% となり、他のカテゴリーと比較して、信仰心の顕著な強まりが確認できる。

「イスラーム規範の遵守」では、とりわけ 2 年未満と 5-10 年以上において、イスラーム規範の遵守度の度合いが強い。

Q20 では、彼らの信仰生活の一端を描きだす一連の質問項目が用意された。

直接的に信仰生活とは関わりを持たない「母国語の新聞」の利用度については、出身地域に対応する母国語メディアの存在の有無に規定されている可能性はあるものの、10年以上の滞在者において、「週2回以上」利用するものの割合が著しく低下する傾向にある。ハラールショップ、ハラールレストランの双方の質問項目とも、食に係る質問項目であったが、ハラールショップに比べてハラールレストランの利用度は、滞在年数、出身地域のいずれのカテゴリーにおいても低い値をとった。

「ハラールショップの利用」では、単純集計結果を見ると、「利用していない」層は、6.7%にとどまる結果となった。ただし、その利用度にはばらつきがあり、とりわけ出身地域で見ると、東南アジア出身者においてハラールショップが頻繁に利用されている。

ハラールレストランは、滞在年数で見ると、滞在年数の短いものほど頻繁に利用しており、長期の滞在になるほど利用度は低下する。出身地域別では東南アジア出身者の利用率が高い結果となった。

「モスクや礼拝所での礼拝」は単純集計結果が示すように「週1回」(43.0%)、「週2回以上」(26.8%)となっており、7割近いムスリムが週1回以上モスクや礼拝所に通っている。滞在年数別では2年未満のもの参加度がとりわけ高い。出身地域では、東南アジア出身者の参加度が他のカテゴリーに比べて低い結果となった。「イスラーム関係の講演会・勉強会」および「布教活動(タブリーグなど)への参加」は、モスクや礼拝所での礼拝への参加度と比較して、その参加度は低い値をとった。とりわけ西アジア・アフリカ出身者の参加度が低い傾向にある。

信仰について問うた本章の分析結果は概ね以上のようなようになった。

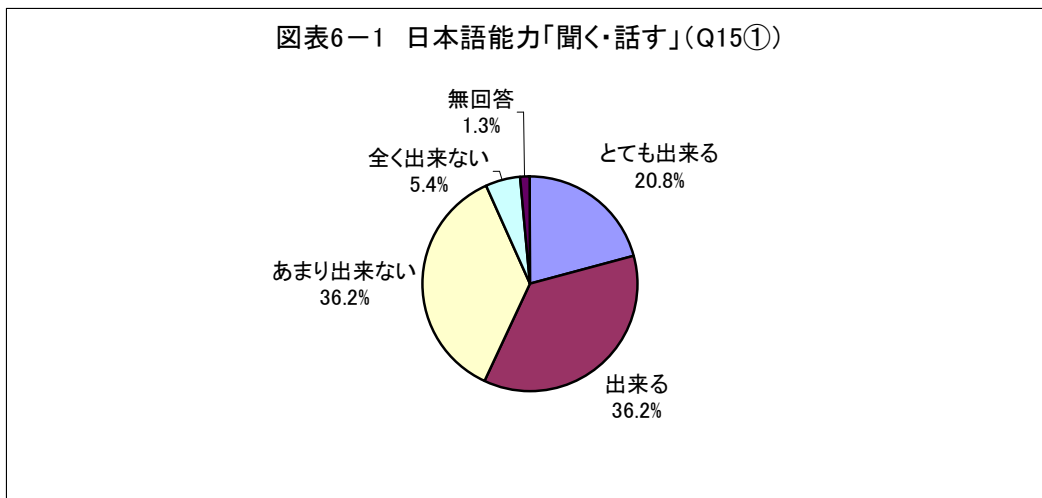
わが国のムスリムの信仰生活について概観すると、信仰心の高まりを多くのムスリムが経験し、イスラーム規範は遵守される。とりわけ問題となる食の問題を克服するだけでなく、場合によっては日用雑貨も購入することの出来るハラールショップの利用度もカテゴリー間でその頻度に細かな差はあるものの、高い。モスクや礼拝所での礼拝に参加する割合も非常に高い。ただし今回の調査は、モスクで行われており、基本的にモスクを訪れているムスリムが対象となっている。そのため、本調査結果はわが国に暮らすムスリム全体のモスクや礼拝所の参加度を明らかにすることは出来ない。つまりモスクや礼拝所を訪れないムスリムの比率を明らかにすることはできず、明らかにされるのはあくまでも、モスクに礼拝を訪れるムスリムの姿であり、その参加の頻度であるという基本的な制約がある。その点に考慮しつつその頻度についてみると、多くのムスリムがモスクや礼拝所に週1回は足を運んでいることが明らかとなった。以上の結果より、概ねイスラームの基本的な宗教実践は、わが国においても維持される傾向にあると推察される。一方、やや副次的な項目群であるハラールレストランの利用度や講演会・勉強会、布教活動への参加度は上記の項目に比べて全体的に低い値をとる結果となった。とりわけ、出身地域による差が顕著であったが、前述のようにハラールレストランは滞在年数の長期化とともに利用度が低下しており、その要因について更なる検討が必要である。

第6章 日本で暮らすということ

本章では、在日ムスリムにおける日本で生活状況について、実態と意識の双方の側面からみていく。クロス集計については、他の章と同様に滞在年数、出身地域をとりあげている。

日本語能力「聞く・話す」(Q15①)

ここでは、日本語能力のうち、「聞く・話す」の能力についてみていく。図表6-1は、全体の集計結果を示したものである。「出来る」と「あまり出来ない」が36.2%と最も多く、次いで「とても出来る」が20.8%であった。「まったく出来ない」は5.4%にとどまった。「とても出来る」および「出来る」をあわせた、聞く・話すことが「出来る」ものの割合は、57.0%となった。



以下の図表6-2は、滞在年数および、出身地域と日本語能力の「聞く・話す」とのクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、2年未満では、「あまり出来ない」(63.4%)、2～5年未満と5～10年未満では「出来る」がそれぞれ41.3%と52.6%、「10年以上」では「とても出来る」が53.1%と最も高い割合をとった。また「5～10年未満」および「10年以上」の滞在者では、「まったく出来ない」がいずれも存在しない結果となった。滞在年数の長期化とともに、「聞く・話す」能力が上昇する傾向が見て取れる。

出身地域別にみると、西アジア・アフリカとインド亜大陸において、「出来る」がそれぞれ31.6%と43.8%となっており最も高い。一方、東南アジアでは「あまり出来ない」が45.9%と最も高い値を割合となっている。西アジア・アフリカは、「とても出来る」と回答した割合が28.9%と、他のカテゴリーと比較して顕著に高い割合となっている。

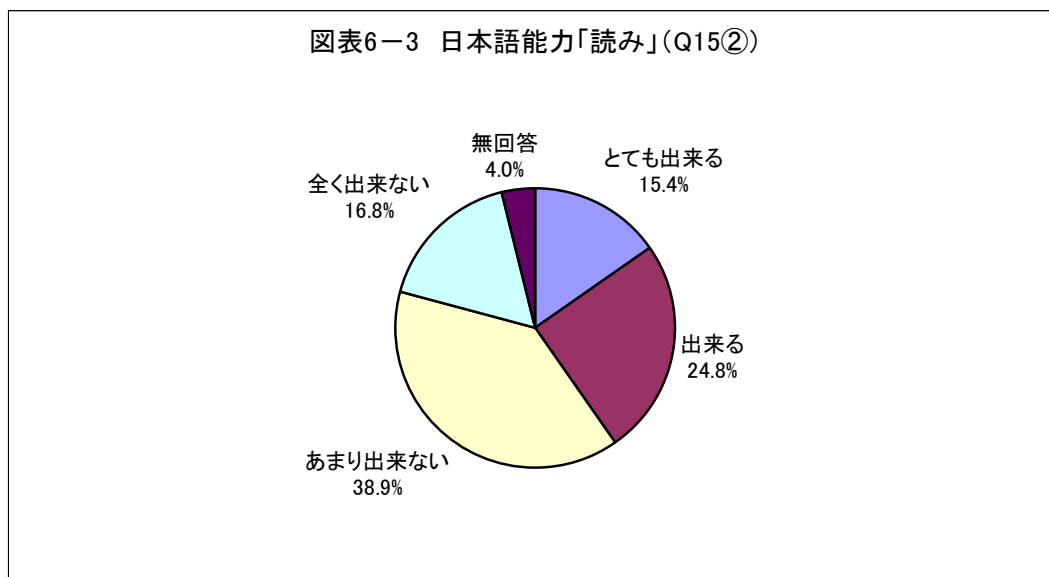
図表 6-2 日本語能力「聞く・話す」(Q18) (％)

		回答者数	とても出来る	出来る	あまり出来ない	まったく出来ない	無回答
滞在年数	2年未満	41	—	24.4	63.4	12.2	—
	2-5年未満	46	10.9	41.3	39.1	6.5	2.2
	5-10年未満	19	31.6	52.6	10.5	—	5.3
	10年以上	32	53.1	31.3	15.6	—	—
出身地域	西アジア・アフリカ	38	28.9	31.6	28.9	10.5	—
	インド亜大陸	48	18.8	43.8	31.3	2.1	4.2
	東南アジア	61	18.0	31.1	45.9	4.9	—
総数		149	20.8	36.2	36.2	5.4	1.3

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

日本語能力「読み」(Q15②)

ここでは、日本語能力のうち、「読み」の能力についてみていく。図表 6-3 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「あまり出来ない」(38.9%)、「出来る」(24.8%)、「まったく出来ない」(16.8%)、「とても出来る」(15.4%) となった。「とても出来る」および「出来る」をあわせた、読みが「出来る」ものの割合は、40.2%となった。



以下の図表 6-4 は、滞在年数および、出身地域と「読み」能力のクロス集計結果を示したものである。

滞在年数別にみると、「5～10年未満」において「出来る」が同率になっているのを除き、すべてのカテゴリーにおいて「あまり出来ない」が最も高い割合となっている。また2年未満では「とても出来る」が存在せず、「まったく出来ない」が31.7%と他のカテゴリーと比較して著しく高い値をとっている。10年以上では、「あまり出来ない」の34.4%に続き、「とても出来る」が31.3%と高い割合と

なっている。上記の「聞く・話す」能力ほど高率ではないものの、滞在年数の長期化とともに、「読み」能力が上昇する傾向が見て取れる。

出身地域別に見ると、「あまり出来ない」がすべてのカテゴリーにおいて最も高い割合となっている。インド亜大陸において「まったく出来ない」割合が 8.3%と、他のカテゴリーと比較して低い値をとっている。

図表 6-4 日本語能力「読み」(Q15②) (%)

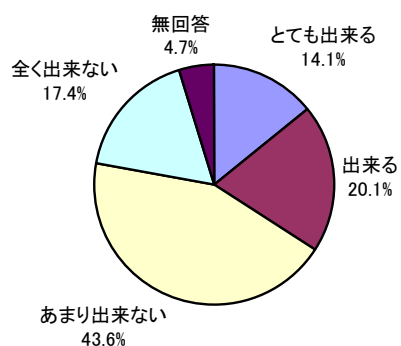
		回答者数	とても出来る	出来る	あまり出来ない	まったく出来ない	無回答
滞在年数	2年未満	41	—	19.5	46.3	31.7	2.4
	2-5年未満	46	13.0	26.1	41.3	19.6	—
	5-10年未満	19	26.3	31.6	31.6	0.0	10.5
	10年以上	32	31.3	18.8	34.4	6.3	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	21.1	13.2	34.2	28.9	2.6
	インド亜大陸	48	10.4	31.3	43.8	8.3	6.3
	東南アジア	61	16.4	24.6	39.3	16.4	3.3
総数		149	15.4	24.8	38.9	16.8	4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

日本語能力「書き」(Q15③)

ここでは、日本語能力のうち、「書き」の能力についてみていく。図表 6-3 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「あまり出来ない」(43.6%)、「出来る」(20.1%)、「まったく出来ない」(17.4%)、「とても出来る」(14.1%) となった。これまで「とても出来る」および「出来る」を足した、「出来る」ものの割合は 34.2%となり「聞く・話す」および「読み」と比較して最も低い値をとった。

図表 6-5 日本語能力「書き」(Q15③)



以下の図表 5-6 は、滞在年数および、出身地域と「書き」能力のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「あまり出来ない」が4割から5割を占めており、最も高い割合となっているものの、滞在年数の長期化とともに、「書き」能力は上昇する傾向が見て取れる。

出身地域別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「あまり出来ない」が最も高い割合となっている。とりわけ、インド亜大陸が52.1%と、他のカテゴリーと比較して最も高い割合となっている。西アジア・アフリカでは、「まったく出来ない」の28.9%、「とても出来る」の21.1%がそれに続く。インド亜大陸では、他のグループと比較して「とても出来る」および「まったく出来ない」とするものの割合が低く、「出来る」(25.0%) および先ほどの「あまり出来ない」に回答が集中している傾向が見て取れる。

図表 6-6 日本語能力「書き」(Q15③) (%)

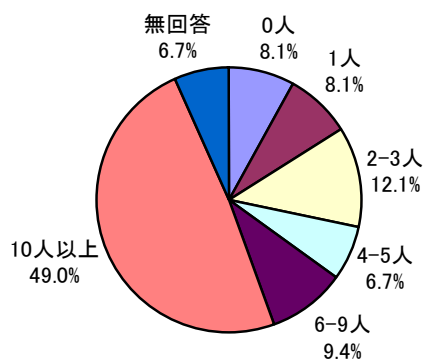
		回答者数	とても出来る	出来る	あまり出来ない	まったく出来ない	無回答
滞在年数	2年未満	41	—	19.5	46.3	31.7	2.4
	2-5年未満	46	10.9	15.2	50.0	19.6	4.3
	5-10年未満	19	26.3	26.3	42.1	—	5.3
	10年以上	32	28.1	15.6	40.6	6.3	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	21.1	13.2	34.2	28.9	2.6
	インド亜大陸	48	8.3	25.0	52.1	6.3	8.3
	東南アジア	61	14.8	19.7	44.3	19.7	1.6
総数		149	14.1	20.1	43.6	17.4	4.7

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

日本人の友人数 (Q16①)

ここでは、日本人の友人数についてみていく。図表 6-7 は、全体の集計結果を示したものである。「10人以上」と回答したものが49.0%とほぼ半数を占める結果となった。次いで「2~3人」(12.1%)、「6~9人」(9.4%)と続く。

図表6-7 日本人の友人数(Q16①)



以下の図表 6-8 は、滞在年数および、出身地域と日本人の友人数のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「10人以上」が最も高い割合となっている。とりわけ5～10年以上が73.1%と他のカテゴリーと比較して著しく高い割合となっている。一方、2年未満ではその割合は、34.1%にとどまる。2年未満は「0人」および「1人」の割合も高く、それぞれ14.6%と19.5%となっており、他のカテゴリーと比較しても、その割合は著しく高い。出身地域別についてみても、すべてのカテゴリーにおいて「10人以上」が最も高い割合となっている。とりわけ、東南アジアが63.9%と他のカテゴリーと比較して最も高い割合となっている。

図表 6-8 日本人の友人 (Q16①) (%)

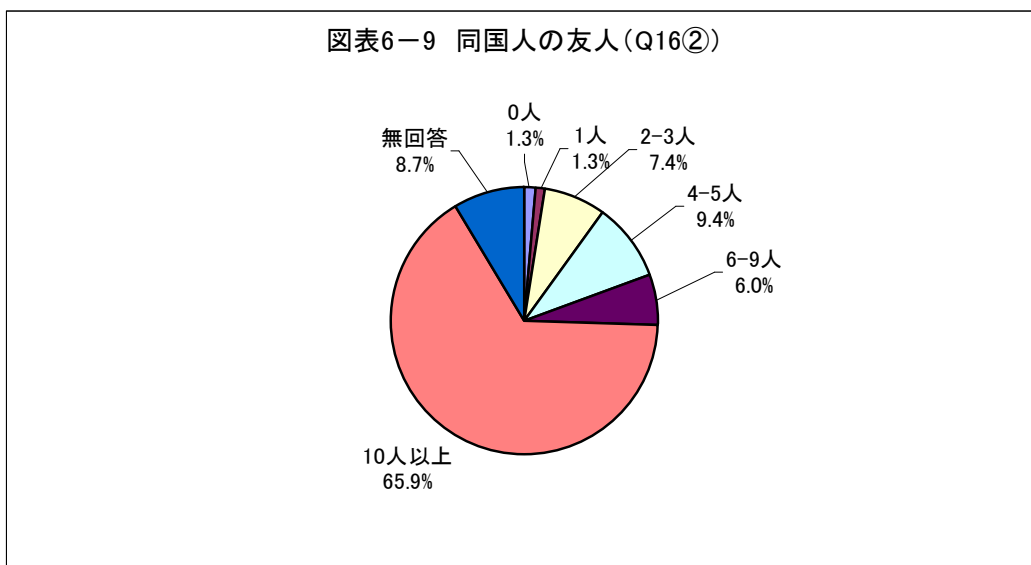
		回答者数	0人	1人	2-3人	4-5人	6-9人	10人以上	無回答
滞在年数	2年未満	41	14.6	19.5	14.6	2.4	14.6	34.1	—
	2-5年未満	46	8.7	2.2	15.2	2.2	13.0	47.8	10.9
	5-10年未満	19	5.3	—	—	10.5	5.3	73.7	5.3
	10年以上	32	3.1	6.3	9.4	12.5	3.1	56.3	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	10.5	10.5	15.8	7.9	7.9	44.7	2.6
	インド亜大陸	48	12.5	8.3	16.7	8.3	6.3	33.3	14.6
	東南アジア	61	3.3	6.6	4.9	4.9	13.1	63.9	3.3
総数		149	8.2	8.2	11.6	6.8	9.5	49.0	6.8

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

同国人の友人数 (Q16②)

ここでは、同国人の友人数についてみていく。図表 6-9 は、全体の集計結果を示したものである。上述の日本人の友人数と同様に、「10人以上」と回答したものが65.9%にのぼり、著しく多い結果となった。

図表6-9 同国人の友人(Q16②)



以下の図表 6-10 は、滞在年数および、出身地域と同国人の友人数のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、いずれの категорияにおいても、「10人以上」が6割以上を占める。出身地域別にみても、いずれの categoriaにおいても、「10人以上」が最も高い割合となっている。とりわけ東南アジアでは、「10人以上」が、85.2%と著しく高い割合を取り、かつ0人から4~5人までと回答したものが存在しない結果となった。一方、インド亜大陸では、「10人以上」と回答したものの割合は、45.8%にとどまった。

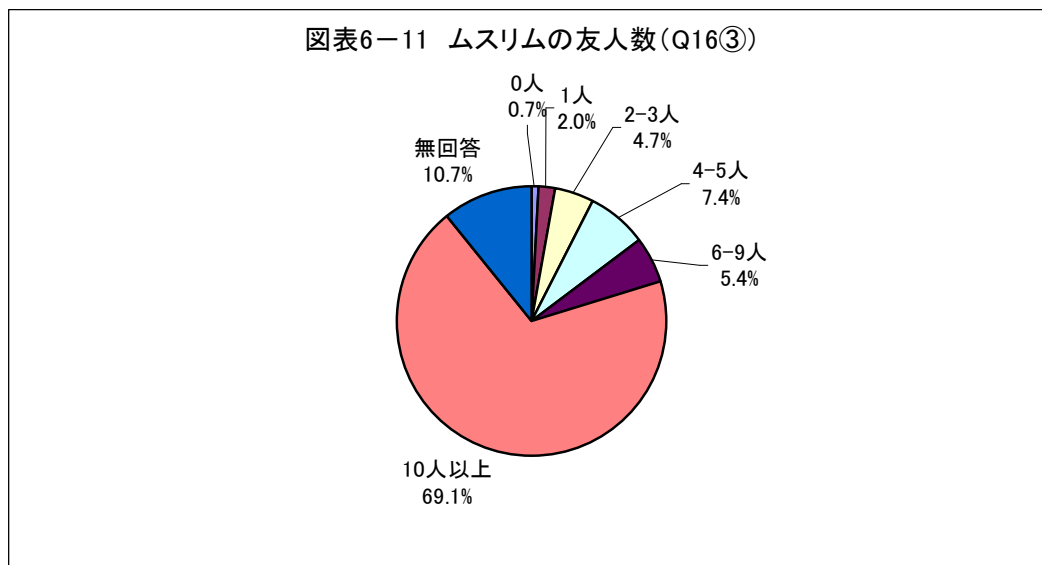
図表 6-10 同国人の友人数 (Q16②) (%)

回答者数		0人	1人	2-3人	4-5人	6-9人	10人以上	無回答	
滞在年数	2年未満	41	—	—	12.2	9.8	2.4	68.3	7.3
	2-5年未満	46	2.2	2.2	6.5	6.5	6.5	67.4	8.7
	5-10年未満	19	—	—	5.3	10.5	15.8	63.2	5.3
	10年以上	32	3.1	3.1	3.1	9.4	—	68.8	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	38	2.6	2.6	10.5	7.9	7.9	63.2	5.3
	インド亜大陸	48	2.1	2.1	14.6	18.8	4.2	45.8	12.5
	東南アジア	61	—	—	—	—	6.6	85.2	8.2
総数		149	1.3	1.3	7.4	9.4	6	65.8	8.7

(注：滞在年数不詳 11名、出身地域不詳 2名)

ムスリムの友人数 (Q16③)

ここでは、ムスリムの友人数についてみていく。図表 6-11 は、全体の集計結果を示したものである。上述の日本人の友人数と同様に、「10人以上」と回答したものが 69.1%にのぼり、著しく多い結果となった。



以下の図表 6-12 は、滞在年数および、出身地域と同国人の友人数のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、いずれの categoriaにおいても、「10人以上」が6~7割以上を占める。出身地域別にみても、いずれの categoriaにおいても、「10人以上」が最も高い割合となっているものの、東南アジアが、「10人以上」が、88.5%と著しく高い割合を取ったのに対し、インド亜大陸で

はその比率は45.8%にとどまっている。

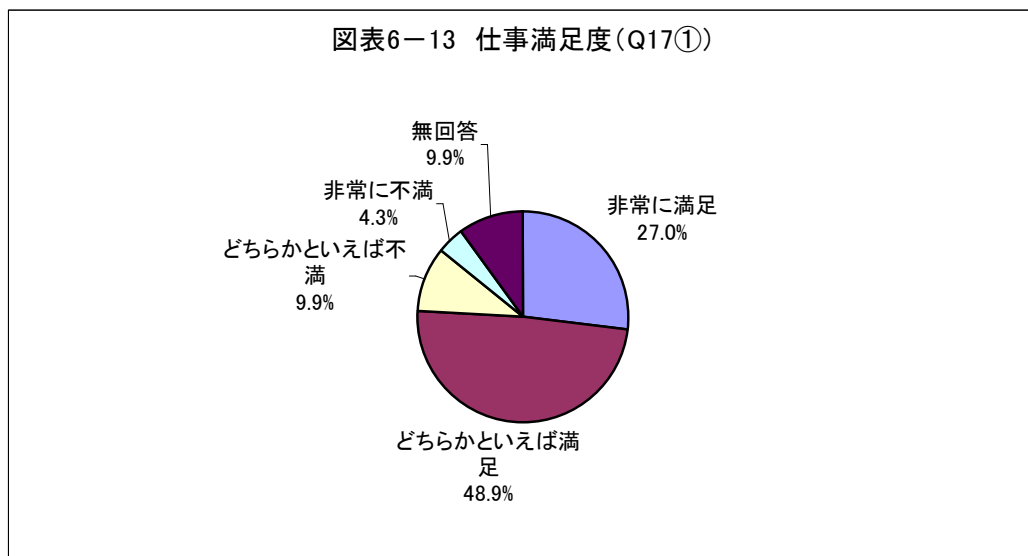
図表 6-12 ムスリムの友人数 (Q16③) (%)

		回答者数	0人	1人	2-3人	4-5人	6-9人	10人以上	無回答
滞在年数	2年未満	41	—	2.4	7.3	14.6	2.4	65.9	7.3
	2-5年未満	46	2.2	2.2	2.2	2.2	8.7	73.9	8.7
	5-10年未満	19	—	—	5.3	5.3	10.5	73.7	5.3
	10年以上	32	—	3.1	6.3	9.4	—	62.5	18.8
出身地域	西アジア・アフリカ	38	2.6	2.6	5.3	10.5	7.9	68.4	2.6
	インド亜大陸	48	—	4.2	8.3	12.5	8.3	45.8	20.8
	東南アジア	61	—	—	1.6	—	1.6	88.5	8.2
総数		149	0.7	2	4.7	7.4	5.4	69.1	10.7

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

仕事満足度 (Q17①)

ここでは、仕事満足度についてみていく。図表 6-13 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「どちらかといえば満足」(48.9%)、「非常に満足」(27.0%)、「どちらかといえば不満」(9.9%)、「非常に不満」(4.3%)となった。なお、本質問項目に回答したものの総数は141名で、第4章「雇用形態(Q8)」にて確認した現在働いている者の総数(度数128、そのうち無回答8)より多い。この差は、過去になんらかの形で就業していながらも、現在は働いていないものがその経験によって回答したことに由来するものと考えられる。



以下の図表 6-14 は、滞在年数および、出身地域と仕事満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「どちらかといえば満足」の割合が最も高く、「非常に満足」がそれに続く。2年未満は他のカテゴリーと比較して、「どちらかといえば不満」(13.5%)と「非常に不満」(8.1%)の割合がやや高い。出身地域別でも、「どちらかといえば満足」

の割合が最も高い結果となっている。

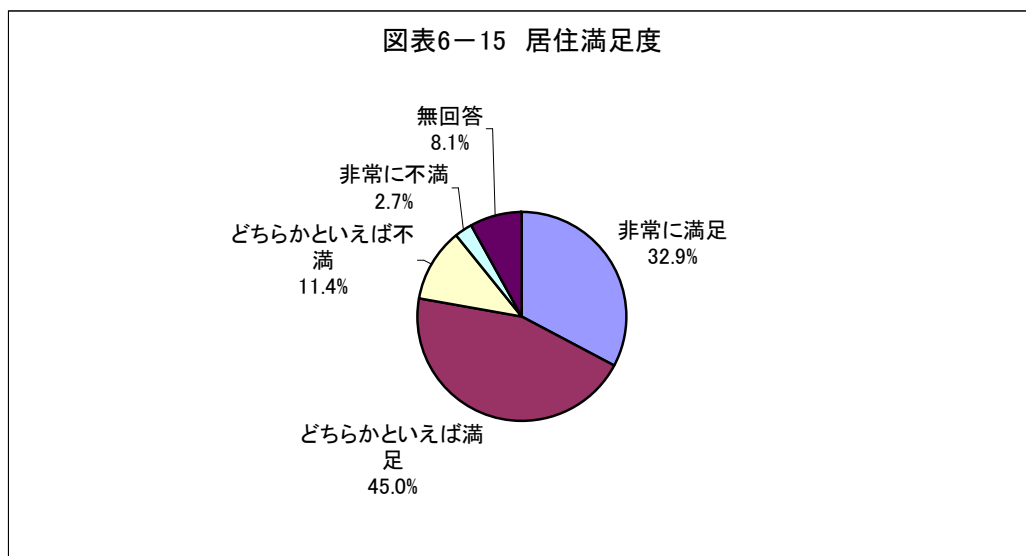
図表 6-14 仕事満足度 (Q17①) (%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	37	27.0	40.5	13.5	8.1	10.8
	2-5年未満	43	23.3	51.2	11.6	4.7	9.3
	5-10年未満	18	33.3	61.1	5.6	—	—
	10年以上	32	31.3	46.9	9.4	3.1	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	34	20.6	58.8	14.7	—	5.9
	インド亜大陸	45	26.7	42.2	6.7	8.9	15.6
	東南アジア	61	31.1	47.5	9.8	3.3	8.2
総数		141	27.0	48.9	9.9	4.3	9.9

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

居住満足度 (Q17②)

ここでは、居住満足度についてみていく。図表 6-15 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「どちらかといえば満足」(45.0%)、「非常に満足」(32.9%)、「どちらかといえば不満」(11.4%)、「非常に不満」(2.7%)となった。



以下の図表 6-16 は、滞在年数および、出身地域と居住満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、2年未満、2～5年未満、5～10年未満において「どちらかといえば満足」の割合が最も高くなっている(それぞれ 46.3%、47.8%、57.9%)。一方 10 年以上では、「非常に満足」の割合が 46.9%と最も高くなっている。

図表 6-16 居住満足度 (Q17②)

(%)

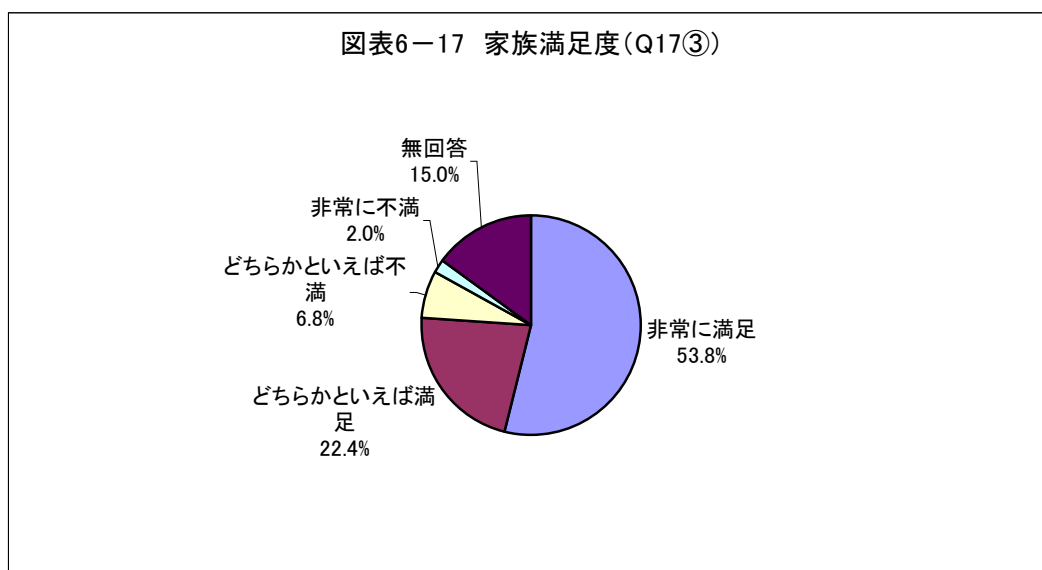
		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	41	34.1	46.3	12.2	—	7.3
	2-5年未満	46	30.4	47.8	13.0	4.3	4.3
	5-10年未満	19	26.3	57.9	10.5	—	5.3
	10年以上	32	46.9	34.4	9.4	3.1	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	38	31.6	47.4	10.5	2.6	7.9
	インド亜大陸	48	33.3	43.8	2.1	6.3	14.6
	東南アジア	61	34.4	44.3	18.0	—	3.3
総数		149	32.9	45.0	11.4	2.7	8.1

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

家族満足度 (Q17③)

ここでは、家族満足度についてみていく。本質問項目は、同居家族のいない一人暮らしの回答者も多く回答している。もちろん一人暮らしであっても、わが国において離れて住む家族が存在している可能性も示唆されるため、「本質問項目の結果は、わが国における同居家族についてのみの満足度を表すものではない」ということを予め断っておく。また、厳密に一人暮らしの回答者の別居家族の有無を本調査の一連の質問項目より明らかにすることは困難である。こうした事情を踏まえたうえで、図表 6-17 で全体の集計結果についてのみ確認しておく。回答割合の多い順に「非常に満足」(53.6%)、「どちらかといえば満足」(22.4%)、「どちらかといえば不満」(6.8%)、「非常に不満」(2.0%)となり、「非常に満足」の割合が半数を超える結果となった。

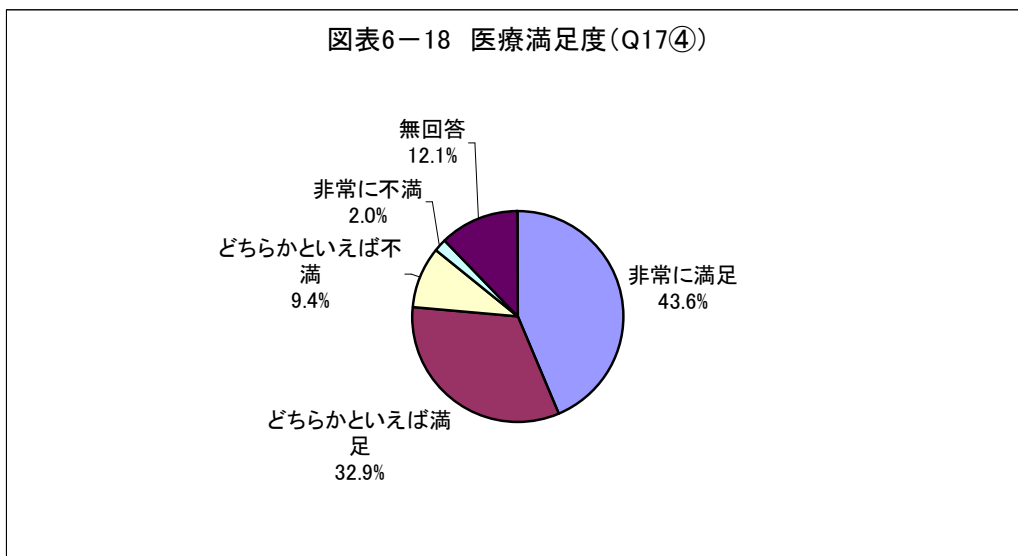
図表 6-17 家族満足度(Q17③)



医療満足度 (Q17④)

ここでは、医療満足度についてみていく。図表 6-18 は、全体の集計結果を示したものである。回

答割合の多い順に、「非常に満足」（43.6%）、「どちらかといえば満足」（32.9%）、「どちらかといえば不満」（9.4%）、「不満」（2.0%）となった。



以下の図表6-19は、滞在年数および、出身地域と医療満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーで「非常に満足」の割合が最も高い結果となったが、とりわけ5年以上の滞在者のカテゴリーにおいてその傾向は顕著である。出身地域別でも、「非常に満足」の割合がすべてのカテゴリーで最も高い結果となったが、インド亜大陸では、33.3%と他のカテゴリーと比較して低い割合となっている。

図表6-19 医療満足度 (Q17④) (%)

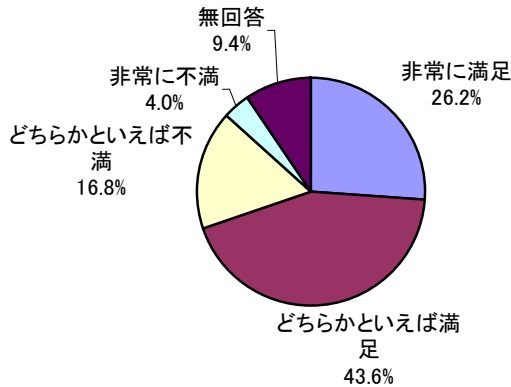
		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	41	41.5	34.1	7.3	4.9	12.2
	2-5年未満	46	39.1	37.0	10.9	2.2	10.9
	5-10年未満	19	57.9	26.3	10.5	—	5.3
	10年以上	32	50.0	31.3	6.3	—	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	38	55.3	23.7	10.5	2.6	7.9
	インド亜大陸	48	33.3	25.0	14.6	4.2	22.9
	東南アジア	61	45.9	42.6	4.9	—	6.6
総数		149	43.6	32.9	9.4	2	12.1

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

経済状況満足度 (Q17⑤)

ここでは、経済状況満足度についてみていく。図表6-20は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「どちらかといえば満足」（43.6%）、「非常に満足」（26.2%）、「どちらかといえば不満」（16.8%）、「非常に不満」（4.0%）となった。

図表6-20 経済状況満足度(Q17⑤)



以下の

図表 6-21 は、滞在年数および、出身地域と経済状況満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、2 年未満、5～10 年未満、10 年以上において、「どちらかといえば満足」の割合が最も高い。2-5 年未満では、「非常に満足」と「どちらかといえば満足」の割合が、34.8%で同率であった。出身地域別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「どちらかといえば満足」の割合が最も高い。とりわけ東南アジアで 50.8%と他のカテゴリーと比較して高い割合となっている。西アジア・アフリカでは、「非常に満足」と「どちらかといえば不満」が同率 (23.7%) でそれに続く。一方、インド亜大陸と東南アジアでは、「非常に満足」(それぞれ 27.1%、27.9%) が「どちらかといえば満足」に続いた。

図表 6-21 経済状況満足度 (Q17⑤) (%)

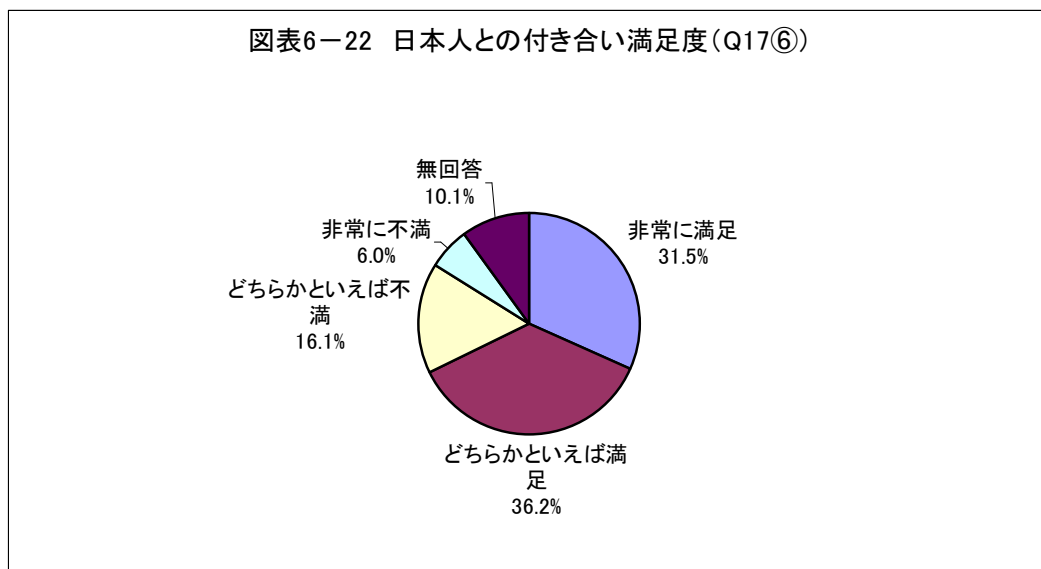
		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2 年未満	41	24.4	43.9	22.0	4.9	4.9
	2-5 年未満	46	34.8	34.8	17.4	6.5	6.5
	5-10 年未満	19	26.3	42.1	21.1	—	10.5
	10 年以上	32	15.6	59.4	9.4	3.1	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	38	23.7	42.1	23.7	5.3	5.3
	インド亜大陸	48	27.1	33.3	14.6	4.2	20.8
	東南アジア	61	27.9	50.8	14.8	3.3	3.3
総数		149	26.2	43.6	16.8	4	9.4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

日本人との付き合い満足度 (Q17⑥)

ここでは、日本人との満足度についてみていく。図表 6-22 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に「どちらかといえば満足」(36.2%)、「非常に満足」(31.5%)、「どち

らかといえば不満」(16.1%)、「非常に不満」(6.0%)となった。「非常に満足」と、「どちらかといえば満足」をあわせた割合は、67.7%であった。



以下の図表6-23は、滞在年数および、出身地域と日本人との付き合い満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、2年未満では「非常に満足」が34.1%と最も多いほかは、「どちらかといえば満足」が最も高い結果となった。とりわけ、5～10年未満が52.6%と、他のカテゴリーと比較して高い割合となっている。2年未満は、「どちらかといえば不満」も26.8%と、他のカテゴリーと比較して高い割合となっている。

出身地域別に見ると、西アジア・アフリカとインド亜大陸で、「非常に満足」が(それぞれ34.2%、37.5%)、東南アジアでは、「どちらかといえば満足」(44.3%)が最も高い割合となっている。

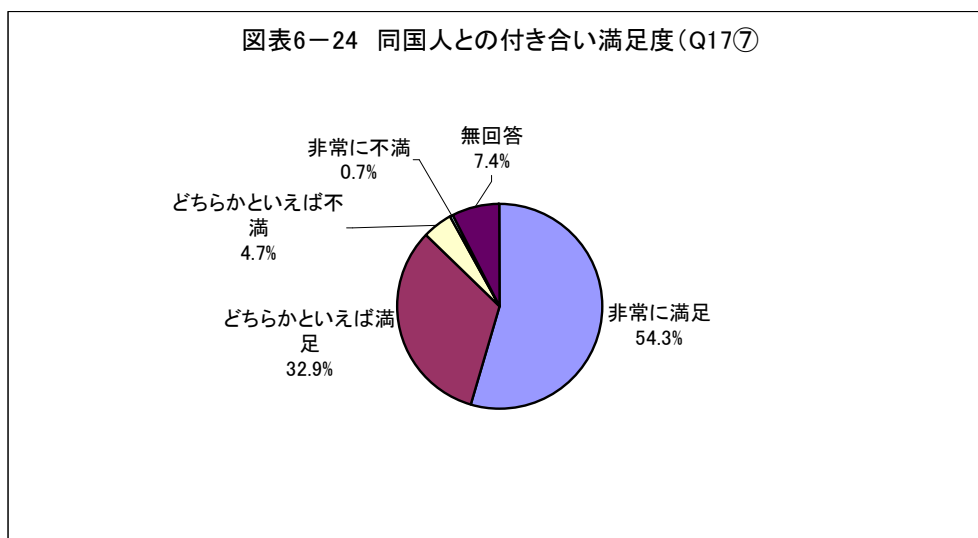
図表6-23 日本人との付き合い満足度(Q17②) (%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	41	34.1	26.8	26.8	7.3	4.9
	2-5年未満	46	32.6	39.1	13.0	6.5	8.7
	5-10年未満	19	31.6	52.6	5.3	10.5	—
	10年以上	32	31.3	40.6	12.5	—	15.6
出身地域	西アジア・アフリカ	38	34.2	31.6	21.1	10.5	2.6
	インド亜大陸	48	37.5	31.3	12.5	2.1	16.7
	東南アジア	61	26.2	44.3	14.8	4.9	9.8
総数		149	31.5	36.2	16.1	6	10.1

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

同国人との付き合い満足度 (Q17⑦)

ここでは、同国人との付き合い満足度についてみていく。図表 6-24 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に「非常に満足」(54.3%)、「どちらかといえば満足」(32.9%)、「どちらかといえば不満」(4.7%)、「非常に不満」(0.7%)となった。「非常に満足」と「どちらかといえば満足」と回答したものの割合の合計は、87.2%となった。



以下の図表 6-25 は、滞在年数および、出身地域とのクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、2年未満と2~5年未満では「非常に満足」がそれぞれ73.2%と56.5%と最も高い割合となっている。とりわけ、2年未満において、同国人との付き合いに対する満足の度合いは高く、他のカテゴリーと比較して著しく高い割合となっている。一方、5~10年未満と10年以上では、「どちらかといえば満足」(それぞれ52.6%、40.6%)が最も高い割合となった。滞在期間の長期化とともに同国人との付き合いに対する満足の度合いは減少する傾向にある。出身地域別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて、「非常に満足」の割合が最も高いが、インド亜大陸は41.7%と他のカテゴリーと比較して低い割合にとどまっている。

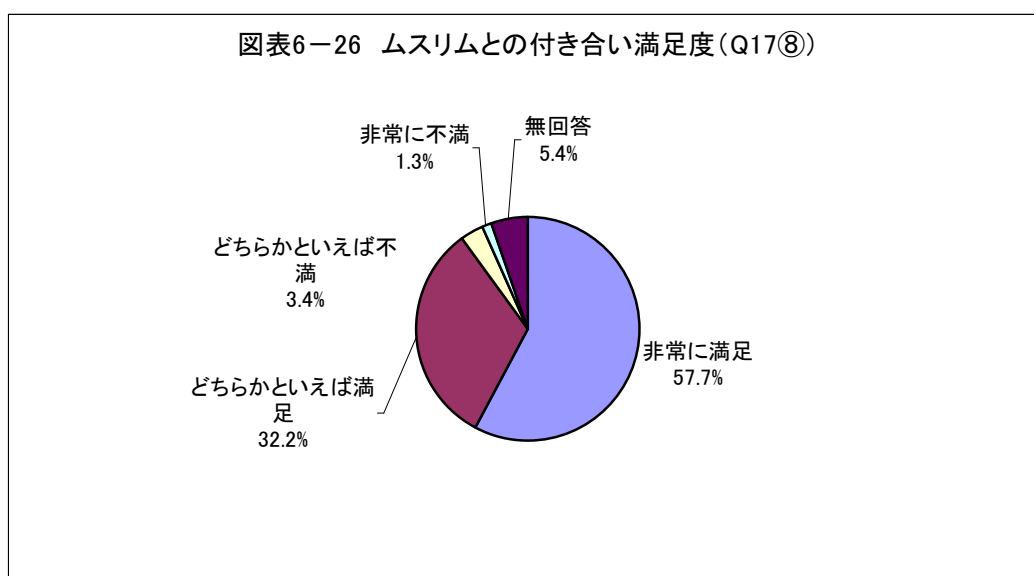
図表 6-25 同国人との付き合い満足度 (Q17②) (%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	41	73.2	24.4	—	—	2.4
	2-5年未満	46	56.5	30.4	8.7	—	4.3
	5-10年未満	19	42.1	52.6	—	—	5.3
	10年以上	32	34.4	40.6	9.4	3.1	12.5
出身地域	西アジア・アフリカ	38	65.8	23.7	5.3	2.6	2.6
	インド亜大陸	48	41.7	35.4	8.3	—	14.6
	東南アジア	61	59.0	34.4	1.6	—	4.9
総数		149	54.4	32.9	4.7	0.7	7.4

(注：滞在年数不詳11名、出身地域不詳2名)

ムスリムとの付き合い満足度 (Q17⑧)

ここでは、ムスリムとの付き合い満足度についてみていく。図表 6-26 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に「非常に満足」(57.7%)、「どちらかといえば満足」(32.2%)、「どちらかといえば不満」(3.4%)、「非常に不満」(1.3%)となった。「非常に満足」と「どちらかといえば満足」と回答したものの割合の合計は、89.9%となり、ほぼ9割がムスリムとの付き合いに満足していると回答している。なお日本人、同国人、ムスリムそれぞれとの付き合い満足度において、「非常に満足」と「どちらかといえば満足」とあわせた値をみると、ムスリムが最も多く、次いで同国人、日本人となる。ムスリムと同国人の双方においてその値は約9割に上る一方、日本人では約7割にとどまった。



以下の図表 6-27 は、滞在年数および、出身地域とムスリムとの付き合い満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別に見ると、すべてのカテゴリーにおいて「非常に満足」が最も高い割合を示しており、中でも2年未満では75.6%と他のカテゴリーと比較して著しく高い割合となっている。出身地域別に見ても、すべてのカテゴリーにおいて「非常に満足」が最も高い割合を示している。とりわけ西アジア・アフリカでは73.7%となっており、他のカテゴリーと比較して著しく高い割合を示している。

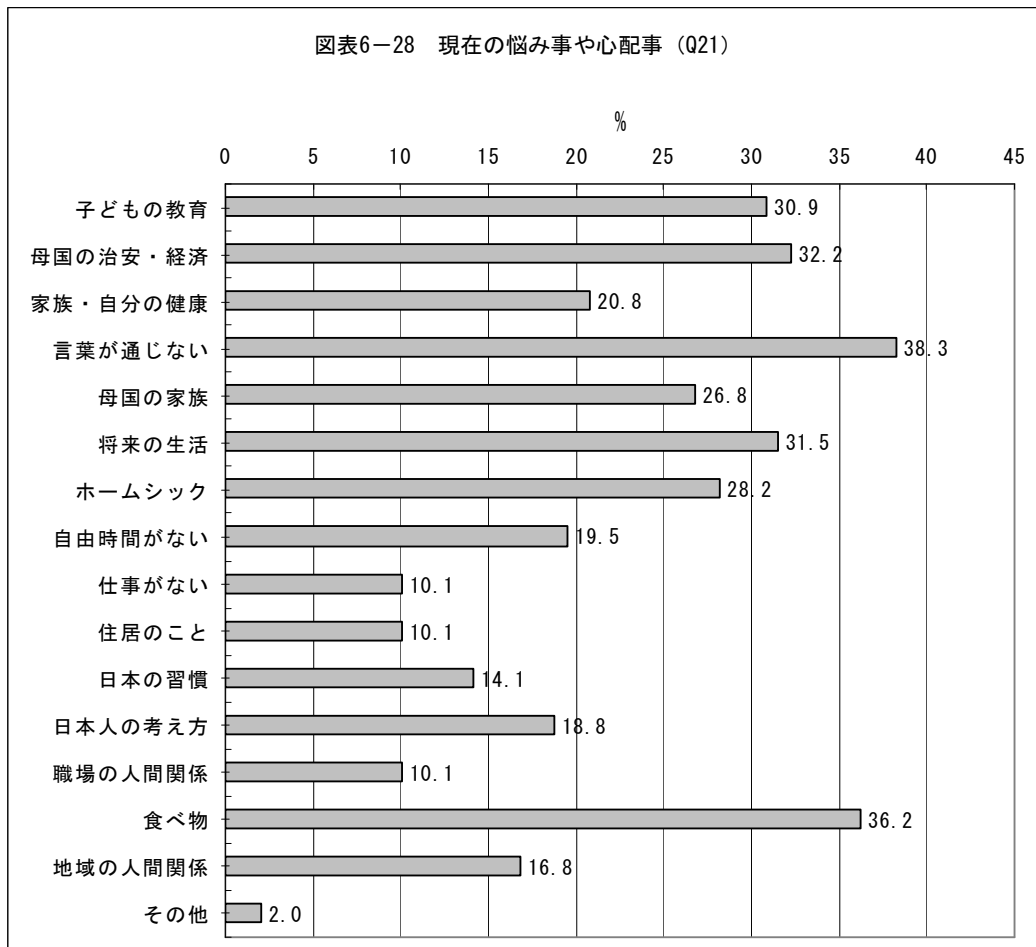
図表 6-27 ムスリムとの付き合い満足度 (Q17②) (%)

		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	非常に不満	無回答
滞在年数	2年未満	41	75.6	22.0	2.4	—	—
	2-5年未満	46	50.0	37.0	6.5	2.2	4.3
	5-10年未満	19	52.6	42.1	—	5.3	—
	10年以上	32	53.1	34.4	3.1	—	9.4
出身地域	西アジア・アフリカ	38	73.7	21.1	5.3	—	—
	インド亜大陸	48	50.0	31.3	4.2	4.2	10.4
	東南アジア	61	55.7	39.3	—	—	4.9
総数		149	57.7	32.2	3.4	1.3	5.4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

現在の悩みや心配事 (Q21)

図表 6-28 は現在の悩みや心配事についての単純集計結果（複数回答）を表したものである。最も多かったのは「言葉が通じない」で 38.3%、次いで「食べ物」の 36.2%であった。30%以上の選択率があった項目としては、「母国の治安・経済」（32.2%）、「将来の生活」（31.5%）、「子どもの教育」（30.9%）があげられる。選択率が低かったものとしては、「仕事がない」（10.1%）、「住居のこと」（10.1%）、「職場の人間関係」（10.1%）があげられる。食べる・話すについて悩んでいる在日ムスリムが多く、住む・働くについては悩みや心配事になっていないことがわかる。



以下の図表 6-29 は、滞在年数および、出身地域と現在の悩みや心配事のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別でみると、滞在コーホートごとに悩みや心配事の種類が異なることがみてとれる。2 年未満では「日本の習慣」、「言葉が通じない」、「食べ物」があげられ、2~5 年未満では「ホームシック」、「将来の生活」、「自由時間がない」、5~10 年未満では悩みや心配事が全体的に少なく、10 年以上になると「子どもの教育」、「住居のこと」が特徴的な項目としてあげられている。

出身地域別でみると、全体的に選択率が高かったのは東南アジア出身地域者であり、「仕事がない」、「職場の人間関係」、「地域の人間関係」、「ホームシック」などネットワークに関連する項目の選択率が高かった。

図表 6-29 現在の悩みや不安 (Q22) <複数回答> (%)

		子どもの教育	母国の治安・経済	家族・自分の健康	言葉が通じない	母国の家族	将来の生活	ホームシック	自由時間がない
滞在年数	2 年未満	21.7	37.5	29.0	42.1	30.0	21.3	28.6	17.2
	2-5 年未満	23.9	29.2	25.8	35.1	32.5	34.0	35.7	34.5
	5-10 年未満	10.9	14.6	22.6	10.5	12.5	14.9	16.7	13.8
	10 年以上	34.8	12.5	16.1	8.8	20.0	23.4	11.9	24.1
出身地域	西アジア・アフリカ	26.1	18.8	25.8	26.3	30.0	25.5	21.4	31.0
	インド亜大陸	37.0	31.3	32.3	28.1	37.5	34.0	31.0	24.1
	東南アジア	37.0	50.0	41.9	45.6	32.5	40.4	47.6	41.4
総数		30.9	32.2	20.8	38.3	26.8	31.5	28.2	19.5

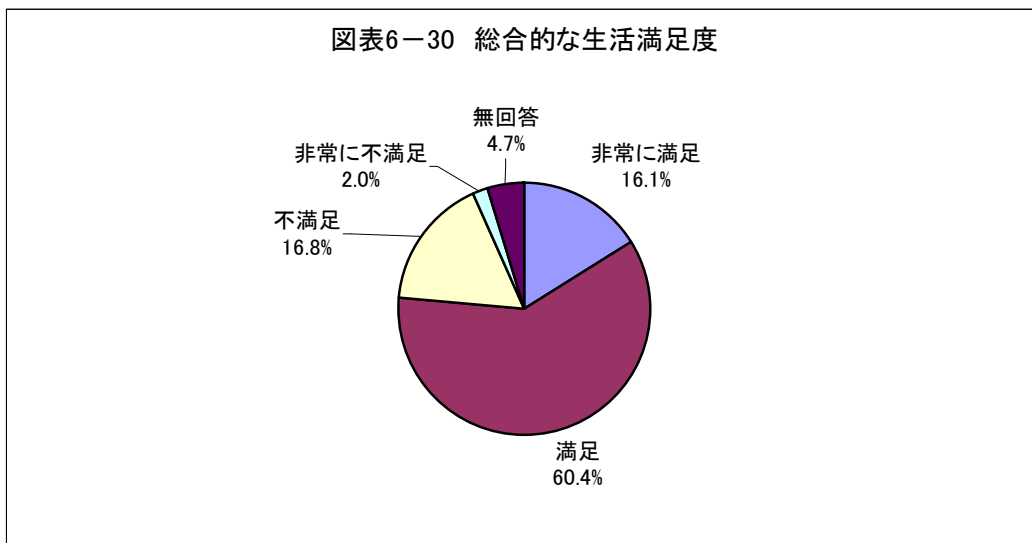
		仕事がない	住居のこと	日本の習慣	日本人の考え方	職場の人間関係	食べ物	地域の人間関係	その他
滞在年数	2 年未満	40.0	33.3	61.9	35.7	40.0	44.4	36.0	-
	2-5 年未満	33.3	20.0	23.8	32.1	6.7	24.1	32.0	100.0
	5-10 年未満	13.3	13.3	9.5	14.3	26.7	11.1	20.0	-
	10 年以上	13.3	26.7	-	14.3	20.0	16.7	8.0	-
出身地域	西アジア・アフリカ	6.7	40.0	28.6	35.7	20.0	35.2	24.0	-
	インド亜大陸	33.3	13.3	28.6	21.4	26.0	25.9	16.0	33.3
	東南アジア	60.0	40.0	38.1	42.9	46.7	37.0	56.0	66.7
総数		10.1	10.1	14.1	18.8	10.1	36.2	16.8	2.0

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

総合的な生活満足度 (Q22)

図表 6-30 は生活満足度を表したグラフである。最も多かったのが「満足」の 60.4%であった。「非常に満足」と「満足」を合わせた満足群は 70.6%であり、「非常に不満足」と「不満足」を合わせて

不満足群は 18.8%となっている。



以下の図表 6-31 は、滞在年数および、出身地域と総合的な生活満足度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別にみると、「非常に満足」では 2 年未満で 7.3%、2～5 年未満で 21.7%、5～10 年未満で 10.5%、10 年以上で 25.0%となり、W 字曲線を描くことがみてとれる。この W 字曲線は、次に検討する日本への主観的適応度と同様の傾向曲線である。出身地域別でみると、西アジア・アフリカで「満足」に集中する傾向があり、インド亜大陸、東南アジアは満足群と不満足群にバラツク傾向が特徴としてみてとれる。

図表 6-31 総合的な生活満足度 (Q22) (%)

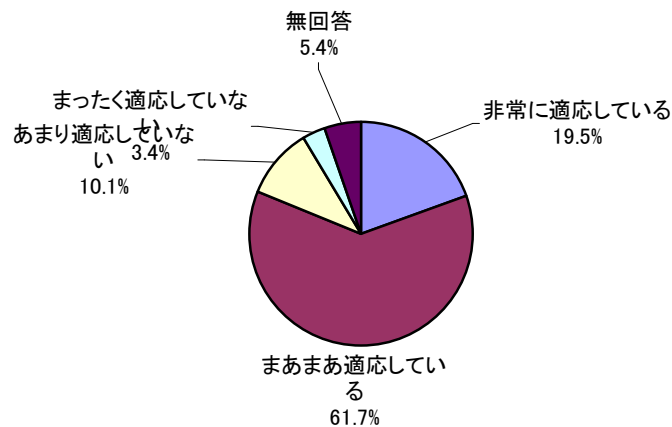
		回答者数	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	非常に不満足	無回答
滞在年数	2年未満	41	7.3	70.7	19.5	2.4	—
	2-5年未満	46	21.7	56.5	15.2	4.3	2.2
	5-10年未満	19	10.5	73.7	15.8	—	—
	10年以上	32	25.0	56.3	15.6	—	3.1
出身地域	西アジア・アフリカ	38	13.2	73.7	7.9	2.6	2.6
	インド亜大陸	48	16.7	54.2	18.8	4.2	6.3
	東南アジア	61	18.0	57.4	21.3	—	3.3
総数		149	16.1	60.4	16.8	2.0	4.7

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

日本の生活への適応度 (Q31)

図表 6-32 は在日ムスリムの日本の生活への主観的適応度を表したグラフである。「まあまあ適応している」が最も多く、61.7%であり、次いで「非常に適応している」が 19.5%であった。合わせて 8 割の人が適応していると感じていることがわかる。

図表6-32 日本の生活への適応度 (Q31)



以下の図表 6-33 は、滞在年数および、出身地域と日本の生活への適応度のクロス集計結果を示したものである。滞在年数別にみると、10年以上では「非常に適応している」が最も高くなっており、43.8%が非常に適応していると感じている。「あまり適応していない」、「全く適応していない」の非適応をみると、2年未満で約 20%、2～5年未満で約 8%、5～10年未満で約 26%、10年以上で 10%となる W 字曲線を描いていることがみてとれる。

出身地域別でみると、インド亜大陸では適応群と非適応群の 2 極化が特徴的な傾向としてみてとれる。

図表 6-33 日本の生活への適応度 (Q31) (%)

		回答者数	非常に適応している	まあまあ適応している	あまり適応していない	まったく適応していない	無回答
滞在年数	2年未満	41	9.8	70.7	17.1	2.4	-
	2-5年未満	46	17.4	73.9	4.3	4.3	-
	5-10年未満	19	10.5	63.2	21.1	5.3	-
	10年以上	32	43.8	43.8	6.3	0.0	6.3
出身地域	西アジア・アフリカ	38	18.4	71.1	2.6	5.3	2.6
	インド亜大陸	48	22.9	50.0	16.7	4.2	6.3
	東南アジア	61	18.0	63.9	9.8	1.6	6.6
総数		149	19.5	61.7	10.1	3.4	5.4

(注：滞在年数不詳 11 名、出身地域不詳 2 名)

資料：日本語および英語調査票

(日本語調査票は、調査には使用していない。調査研究上の参照用である。)

在日ムスリム調査

2005年11月

この度、早稲田大学人間科学部アジア社会論研究室では、研究活動の一環として、日本にお住まいのムスリムの方々に関するアンケート調査を実施することになりました。この調査では、できる限り多くの方々にお会いして調査させていただくことで、日本におけるムスリムの方々の生活実態に迫ることを目的としています。

なお、本調査は学術研究のために行うものであり、無記名で回答いただきます。したがって個人の情報が漏れることは絶対にございませので、どうぞ皆様のありのままのお考えをお聞かせ下さい。

不明な点などございましたら、担当の岡井までお問い合わせ下さい。なにとぞ協力のほどよろしく願いいたします。

ご記入に際してのお願い

1. ご回答は、特にことわりのないかぎり、もっともよくあてはまるものを1つ選び、その番号を○で囲んでください。「その他」を選択した時は、具体的な内容をお書きください。
2. 質問番号順にお答えください。また、指示に従って進んでください。
3. お答えいただいた内容は統計的に処理し、個人の情報が漏れるようなことは絶対にありませんので、ありのままをお答えください。

調査実施主体：早稲田大学人間科学部アジア社会論研究室
調査責任者：早稲田大学教授 店田 廣文 (タナダ ヒロフミ)
E-mail:htanada@waseda.jp

お問い合わせ先：〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学
電話：03 (3203) 4141 (内線 76-3550) または 04 (2947) 6830 (ダイヤル)
担当：高橋 陽子 (タカハシ ヨウコ)
岡井 宏文 (オカイ ヒロフミ)
E-mail : h-okai916@ruri.waseda.jp

Q10. あなたの職場の従業員数はおよそ何人ですか？

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 1~9人 | 4. 50~299人 |
| 2. 10~19人 | 5. 300人~999人 |
| 3. 20~49人 | 6. 1000人以上 |

Q11. 就業によって得たお金の使用目的はなんですか？あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|---------|----------------------|
| 1. 家を買う | 6. 仕送り |
| 2. 車を買う | 7. 娯楽費用 |
| 3. 事業資金 | 8. 生活費 |
| 4. 教育費 | 9. 特になし |
| 5. 借金返済 | 10. その他（具体的に： _____） |

Q12. ところで、どのような住宅にお住まいですか？

- | | |
|--|---|
| 1. one's own house (detached house) | such as public corporations (公団) |
| 2. one's own house (housing complex in apartment house etc.) | 4. private lease and apartment for rent |
| 3. public management lease house | 5. company housing |
| | 6. dormitory |
| | 7. other (describe: _____) |

Q13. 現在のお住まいは、誰に紹介してもらいましたか？

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1. a person born in your country | 5. a broker |
| 2. a Japanese friend | 6. the employer |
| 3. a muslim friend | 7. other (describe: _____) |
| 4. a real estate agent | |

Q14. 日本に滞在中にしたいことは何ですか？主なものを3つまで選んで○をつけてください。

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. いい仕事を見つける | 5. 勉強して専門能力を身につける |
| 2. 生活を楽しむ | 6. 子どもの才能を伸ばす |
| 3. お金を稼ぐ | 7. 特になし |
| 4. 事業を起こす | 8. その他（具体的に： _____） |

Q15. ところで、あなたの日本語能力はどの程度でしょうか？当てはまるところに○をつけてください。

	Very good	Good	Not Good	Not at all
Listening and Speaking				
Reading				
Writing				

Q16. あなたには友人が何人くらいいますか？日本人、同国人、ムスリムそれぞれについて、教えてください。（現在日本国内にいる人に限ります）。

- ①日本人
 a. 0人 b. 1人 c. 2~3人 d. 4~5人 e. 6~9人 f. 10人以上
- ②同国人
 a. 0人 b. 1人 c. 2~3人 d. 4~5人 e. 6~9人 f. 10人以上
- ③ムスリム
 a. 0人 b. 1人 c. 2~3人 d. 4~5人 e. 6~9人 f. 10人以上

Q17. あなたは次のような点についてどの程度満足していますか。①~⑧についてその物差しのどこに当たりますか。それぞれ番号をお答えください。

	1	2	3	4	5
ものさしの意味	非常に満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	非常に不満
①仕事について	1	2	3	4	5
②居住について	1	2	3	4	5
③家族について	1	2	3	4	5
④医療について	1	2	3	4	5
⑤経済状況について	1	2	3	4	5
⑥日本人との付き合い	1	2	3	4	5
⑦同国人との付き合い	1	2	3	4	5
⑧ムスリムとの付き合い	1	2	3	4	5

Q18. ところで、日本に来てあなたの信仰心はどのように変わりましたか？

1. 強くなった
 2. 少し強くなった
 3. 変わらない
 4. 少し弱くなった
 5. 弱くなった

Q19. How much do you follow Islamic rules in your everyday life?

1. very strictly
 2. fairly strictly
 3. not very strictly
 4. I don't care

Q20. あなたは以下のものについて、どの程度利用したり、参加したりしていますか？①から⑥についてそれぞれお答え下さい。

- ①母国語の新聞
 1. 読んでいない 2. 月1回以下 3. 月2回くらい 4. 週1回 5. 週2回以上
- ②.ハラール食品店
 1. 利用していない 2. 月1回以下 3. 月2回くらい 4. 週1回 5. 週2回以上
- ③.ハラールレストラン
 1. 利用していない 2. 月1回以下 3. 月2回くらい 4. 週1回 5. 週2回以上
- ④.モスクや礼拝所での礼拝
 1. 参加していない 2. 月1回以下 3. 月2回くらい 4. 週1回 5. 週2回以上
- ⑤.イスラーム関係の講演会・勉強会
 1. 参加していない 2. 月1回以下 3. 月2回くらい 4. 週1回 5. 週2回以上

Q28. あなたの月収をお教えてください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 10万円未満 | 5. 40万円～50万円未満 |
| 2. 10万円～20万円未満 | 6. 50万円以上 |
| 3. 20万円～30万円未満 | 7. わからない |
| 4. 30万円～40万円未満 | |

Q29. 通算すると、日本にはどのくらい滞在していますか？

()年 ()カ月

Q30. あなたは日本の生活に、どの程度適応していますか？

1. 非常に適応している
2. まあ適応している
3. あまり適応していない
4. 全く適応していない

Q. 31. 今後、日本にどのくらい滞在する予定ですか？

1. 1年くらい
2. 2年くらい
3. 3年くらい
4. 5年くらい
5. 10年くらい
6. 10年以上
7. 出来るだけ長く
8. 永住したい

THANK YOU FOR YOUR COOPERATION!!



SOCIAL SURVEY ON MUSLIM POPULATION IN JAPAN

October—November, 2005

Research Office of Sociological and Area Studies would conduct this survey on Muslim Population in Japan as a part of our academic activities of School of Human Sciences of Waseda University, in order to further our knowledge on Muslim's life in Japanese society.

For the success of survey, we would like to request you to cooperate. Rest assured that all the information, personal or organizational, provided by you will be kept strictly confidential.

If you have any question, never hesitate to contact our chief research conductors, Mr. OKAI.

We appreciate in advance for your cooperation.

Note

1. Choose ONE if no specific direction and circle the number of the answer you choose. If you choose "Other" describe in details.
2. Follow the question numbers and directions.
3. Rest assured that all the information, personal or organizational, provided by you will be kept strictly confidential.
4. When done, make sure no mistake or no missed answer.

**Research Office of Prof. TANADA Hirofumi
School of Human Science
Waseda University
E-mail: htanada@waseda.jp**

Dr. Hirofumi TANADA
Professor
Research Office of Sociological and Area Studies
School of Human Sciences
Waseda University

Inquiry: Yoko TAKAHASHI, Hirofumi OKAI
Graduate Student, Graduate School of Human Sciences,
Waseda University
Tel: 03-3203-4141(ext. 76-3550) Dial-in&Fax: 04-2947-6830 E-mail: h-okai916@ruri.waseda.jp

Q 1. How old are you? ()

Q 2. What country are you from? ()

Q 3. Are you currently married?

1. Yes ⇒SQ1 2. No

SQ1. What country is your partner from?

1. Japanese 3. Other country
2. Same country

Q 4. When did you come to Japan the first time?

() year

Q 5. What family members do you have in your home country? Choose as many as apply.

1. Grandparents 5. Brother
2. Father 6. Sister
3. Mother 7. Child
4. Spouse 8. Other (Describe :)

Q 6. Who live with you currently? Choose as many as apply.

1. Grandparents 5. Brother
2. Father 6. Sister
3. Mother 7. Child
4. Spouse 8. Other (Describe :)

Q 7. What is your work?

1. self-employed (including, employed in family business) 5. Employee (agriculture, forestry, and fishery)
2. Employee (professional or managerial work) 6. Housework
3. Employee (clerical, sales, or service work) 7. unemployed ⇒Q 1 2
4. Employee (manual work such as factory work) 8. Student

Q 8. What is your work condition?

1. Full-time worker 3. Trainee
2. Part-time worker 4. Other (Describe :)

Q 9. How did you find the current job?

1. Advertisement 6. Broker of your country
2. Visited by yourself 7. Japanese Broker
3. Family/Relatives 8. Muslim Broker
4. Support group 9. Other (Describe :)
5. Friend

Q 1 0. How many employees do they work in your work place?

1. 1~9 4. 50~299
2. 10~19 5. 300~999
3. 20~49 6. more than 1000

Q 1 1. How do you spend what you earned through your occupation? Choose as many as apply.

1. Buying a house 6. Remittance for your home country
2. Buying a car 7. Entertainment
3. Business investment 8. Daily needs
4. Education of children 9. Nothing special
5. Debt payment 10. Other (Describe :)

Q 1 2. What kind of residence do you live in currently?

- | | |
|---|---|
| 1. one's own house (detached house) | 4. private lease and apartment for rent |
| 2. one's own house (housing complex in apartment house etc.) | 5. company housing |
| 3. public management lease house such as public corporations (公団) | 6. dormitory |
| | 7. other (describe:) |

Q 1 3. How did you find the place to live currently?

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1. a person born in your country | 5. a broker |
| 2. a Japanese friend | 6. the employer |
| 3. a Muslim friend | 7. other (describe:) |
| 4. a real estate agent | |

Q 1 4. What do you like to do during your stay in Japan? Choose Three only.

- | | |
|------------------------|--|
| 1. Find a good job | 5. Study and specialize your own ability |
| 2. Enjoy the life | 6. Educate your own children |
| 3. Earn money | 7. Nothing special |
| 4. Start some business | 8. Other (Describe :) |

Q 1 5. What the level of Japanese do you command?

	Very good	Good	Not Good	Not at all
Listening and Speaking				
Reading				
Writing				

Q 1 6. How many friends do you have in Japan? List all of Japanese friends, friends from your own country, and Muslim friends.

- ①Japanese friends
 a. 0 b. 1 c. 2~3 d. 4~5 e. 6~9 f. more than 10
- ②Friends from your own country
 a. 0 b. 1 c. 2~3 d. 4~5 e. 6~9 f. more than 10
- ③Muslim Friends
 a. 0 b. 1 c. 2~3 d. 4~5 e. 6~9 f. more than 10

Q 1 7. How satisfied are you in following points?

	1 Very satisfied	2 Fairly satisfied	3 Fairly unsatisfied	4 Very unsatisfied
①Work	1	2	3	4
②Resident	1	2	3	4
③Family	1	2	3	4
④Medical care	1	2	3	4
⑤Financial condition	1	2	3	4
⑥Relation with Japanese	1	2	3	4
⑦Relation with people from your country	1	2	3	4
⑧Relation with Muslims	1	2	3	4

Q 1 8. Have your faith changed since you came to Japan?

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. Became stronger | 4. Became fairly weaker |
| 2. Became fairly stronger | 5. Became weaker |
| 3. Not changed | |

Q 1 9. How much do you follow Islamic rules in your everyday life?

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. very strictly | 3. not very strictly |
| 2. fairly strictly | 4. I don't care |

Q 2 0. Do you use or participate among the followings?

- ① Newspaper in your mother tongue
1. Not at all 2. Less than once a month 3. Twice a month 4. Once a week 5. Twice a week
- ② Halal Food shop
1. Not at all 2. Less than once a month 3. Twice a month 4. Once a week 5. Twice a week
- ③ Halal Restaurant
1. Not at all 2. Less than once a month 3. Twice a month 4. Once a week 5. Twice a week
- ④ Prayer service in Mosque or prayer room
1. Not at all 2. Less than once a month 3. Twice a month 4. Once a week 5. Twice a week
- ⑤ Study group or lecture related to Islam
1. Not at all 2. Less than once a month 3. Twice a month 4. Once a week 5. Twice a week
- ⑥ Dawah/Tabligh
1. Not at all 2. Less than once a month 3. Twice a month 4. Once a week 5. Twice a week

Q 2 1. Do you have any concern currently? Choose as many as apply.

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1. Child Education | 9. Jobless |
| 2. Security/Economy in your country | 10. Residence |
| 3. Health of yourself and family | 11. Difficulty in getting Japanese Habit |
| 4. Difficulty in language | 12. Difficulty in Japanese way of thinking |
| 5. Family in your country | 13. Office politics |
| 6. Future life | 14. Food |
| 7. Homesick | 15. Community relationships |
| 8. Lack of free time | 16. Other (Describe : _____) |

Q 2 2. In general, are you satisfied with the current life in Japan?

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. Very satisfied | 3. Not satisfied |
| 2. Satisfied | 4. Not satisfied at all |

Q 2 3. What did you work in your country?

- | | |
|---|--|
| 1. self-employed (including, employed in family business) | 5. employee (agriculture, forestry, and fishery) |
| 2. employee (professional or managerial work) | 6. housework |
| 3. employee (clerical, sales, or service work) | 7. unemployed |
| 4. employee (manual work such as factory work) | 8. student |

Q 2 4. What school did you attend the last? (currently student/drop-out should be answered same as graduated)

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1. Elementary School | 4. Collage |
| 2. Junior High School | 5. University/ Graduate School |
| 3. High School | |

Q 2 5. What is the reason to come to Japan? Choose as many as apply.

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. Easy to enter the country | 6. Invited by friends |
| 2. Introduced by broker | 7. To have training |
| 3. Told that there was a job in Japan | 8. To study or further your own study |
| 4. Earn a lot of money | 9. Business trip or oversea duty |
| 5. Invited by family or relatives | 10. Other (Describe : _____) |

執筆者一覧 (2006年8月現在)

- 店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院教授
(序、調査結果の概要、第1章)
- 村田 久 東京大学助手
(第6章)
- 高橋 陽子 早稲田大学人間科学学術院助手
(第3章)
- 石川 基樹 早稲田大学人間科学研究科博士課程
(第4章)
- 岡井 宏文 早稲田大学人間科学研究科博士課程
(第1章、第5章、第6章)
- 北爪 秀紀 早稲田大学人間科学研究科修士課程修了
(第2章)

付記：

本報告書は、平成17～18年度日本学術振興会科学研究費助成(基盤C)・課題番号17530394による研究成果の一部である。

在日ムスリム調査

関東大都市圏調査

第一次報告書

2006年8月

早稲田大学人間科学学術院

アジア社会論研究室